9784048542487

1920076012006

ISBN978-4-04-854248-7
C0076 ¥1200E

定価：本体1200円（税別）

発行　角川書店

ALL ABOUT KAWORU NAGISA
A CHILD OF THE EVANGELION

[初出情報]
P18-19
角川書店
「新世紀エヴァンゲリオンVolume9」
P52-53
角川書店
「エヴァンゲリヲン新劇場版:序 ENTRY FILE 1」
P54-55
徳間書店
「月刊アニメージュ」'96年6月号
P59
ガイナックス
DVD劇場版宣伝ポスター
P63
ガイナックス
「鋼鉄のガールフレンド2nd」
Windows版パッケージ
P64
学習研究社
「月刊アニメディア」'96年8月号
P145
角川書店
「月刊少年エース」'06年10月号
P147
角川書店
「月刊少年エース」'06年6月号
P148
角川書店
「月刊少年エース」'06年8月号
P153
角川書店
「月刊少年エース」'03年4月号
P154
角川書店
「月刊少年エース」'03年12月号
P193
角川書店
「フィルムブック」第9巻
P194-195
ムービック
スティックポスター
P196-197
ガイナックス
「コレクターズディスク Vol.4」
P198-199
角川書店
「月刊ニュータイプ」'06年12月号
P200-201
角川書店
「月刊ニュータイプ」'07年1月号
P202-203
角川書店
「月刊ニュータイプ」'06年10月号
P204-205
角川書店
「月刊ニュータイプ」'07年10月号
P206-207
角川書店
「月刊ニュータイプ」'07年11月号
P214-215
角川書店
「新世紀エヴァンゲリオンVolume10」
P217
角川書店
「新世紀エヴァンゲリオンVolume9」カバー
P219
角川書店
「月刊少年エース」'05年2月号表紙
P220-221
ガイナックス
DVD劇場版

ALL ABOUT 渚カヲル A CHILD OF THE EVANGELION

オール アバウト ナギサ カヲル　ア チャイルド オブ ジ エヴァンゲリオン

2008年10月25日初版発行

Book Design+Art Direction	セキネシンイチ制作室
Design	関根信一+大久保有彩
Writer	藤津亮太
	ワダヒトミ
	キツカワトモ
	志田英邦
Photographer	佐山順丸(クラッカースタジオ)
	松本順子
Hair&Make up	西本恵子(FROM UP)
Stylist	渡邉とも子(ルプル)
Supervisor	矢野健二　田島寛子
Chief Editor	榎本郁子
Editor	佐藤史子　尾中麻由果
Special Thanks	轟木一騎(カラー)
	神村靖宏(ガイナックス)
	佐野久美子(ガイナックス)
	島居理恵(キングレコード)
	GAINAX
Cooperation	渡辺啓之　木内麻矢

Extract from
P74-P84「新世紀エヴァンゲリオンVolume9」より
P86-P90、P92-102、P104-106「新世紀エヴァンゲリオンVolume10」より
P108-P115、P118-130、P132-143「新世紀エヴァンゲリオンVolume11」より
(角川コミックス・エース/漫画=貞本義行 原作=GAINAX・カラー)

発 行 者　井上伸一郎
発　　行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3 編集 03-3238-8606
発　　売　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 営業 03-3238-8521
製 版 所　株式会社ローヤル企画
印刷・製本　東京書籍印刷株式会社

落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。
http://www.kadokawa.co.jp
ISBN978-4-04-854248-7 C0076



TO ALL THE PEOPLE LOVE KAWORU.
ALL ABOUT KAWORU NAGISA.

「ありがとう、
君に会えて
うれしかったよ」

「君たちには、
未来が必要だ」




Y.S


Y.S

「君は僕と同じだね」



「怖いのかい？
人と触れあうのが」


KAWORU ILLUSTRATIONS by YOSHIYUKI SADAMOTO
LAST MESSAGE
FROM KAWORU NAGISA



森下千里（もりした・ちさと）
1981年9月1日生まれ。愛知県出身。A型。バグジー所属。グラビアアイドルとして人気を博し、女優としても数々のドラマや映画に出演するなど活躍の場を広げている。主な出演作に、ドラマ『仮面ライダー龍騎』、テレビ『特命リサーチ200X II』、映画『仮面ライダーカブト GOD SPEED LOVE』など。オフィシャルブログ
http://ameblo.jp/morishitachisato/



いずれにせよ、現実の男性にはまずない魅力のもち主だと思います。私も以前、お仕事でお世話になっている方に「森下は、ミサトさんのような女性になれ！」と言われたことがあるんですけど。確かに、ミサトは頭もいいしカッコイイ。その一方で、好きな人に対しては弱くてかわいいところもあったりね。そりゃ女性としてあこがれるけど……。ハードル高いなあ（笑）。

それはそれで満足だけど、80％だからこそ残る部分をそれぞれに解釈して楽しめる。カヲルについても、つい考えちゃいますもん。彼は、バイセクシャルかなあとか。まあ、男の子のかたちをしてるだけで、使徒なんですけどね。想像します、いろいろ。

もし、カヲルに「歌はいいね」なんて声を掛けられたら――。もちろん「うん、いいよね♪」って、ついて行っちゃう。いや、でも、どうだろ。どう反応すべきか考えすぎちゃって、答えられないかもしれない。ただ、カヲルにしてみれば、こちらの回答にベストもワーストもないだろうな。彼の問いかけが意図するのは、常に「君を教えてよ」ということだから。そこで答えを出すのは、簡単なようで実はすごく難しいと思う。自分を出すより、他人に合わせる方が楽だもん。そうやって、常に相手に相手自身のことを考えさせる人ですよね。お付き合いするのは大変そうだなあ……って、どこまで想像してるんだか（笑）。ただ、得るものも大きいはず。表面的な付き合いでない分、傷つくことも増えるけど人間的に成長できるから。もしかしたら、そんなところがカヲルを魅力的に映してるのかもしれないな。もちろん、美少年というのが大前提で！

『エヴァ』大好きです！　というか、『エヴァ』を好きじゃない人なんていないというのが持論です（笑）。きっかけは高校生のとき、深夜の再放送を見て、です。衝撃でした。もともと漫画は好きで、兄がいるのもあって幅広く読んでいたんですけど。こんな奥深いストーリーや、人間くさいキャラクターが描かれたアニメはこれまで見たことがないぞ、と。そこで漫画版も読みはじめて。私、貞本義行さんの絵が大好きなんですよ。グラビアじゃないけど、ちゃんと筋肉がついていて流線美を感じる。それに、ポーズひとつにもコマとコマの間が表現されているというか。キャラクターの心情が、すごく伝わってくるんです。漫画に限らず、ちょっとしたイラストを見ても「ああ、儚いな……」って。空間美が広がるような。

そんな中でも、カヲルはいちばん好きな男性キャラです。その場の空気を変えてしまう、ひとことで言えばミステリアスなところがイイですね。何を言ってるのかわからないんだけど、ちゃんと意志が働いているところがポイントかな。そういうのを紐解いていくのが楽しいんですよ。私、『エヴァ』がこれだけ多くの人に愛されているのは、作品に空白があるからなんじゃないかなって思うんです。120％与えられれば、


好きってことさ


「僕は君に会うために生まれてきたのかもしれない」
森下千里
TRIBUTE GRAVURE
KAWORU×CHISATO MORISHITA





illustrated by SHUNJI SUZUKI




KAWORU ILLUSTRATIONS
Side EVANGELION 1.0
illustrated by HIDENORI MATUBARA





illustrated by FUMIO IIDA




徐行



illustrated by IYO MATSUMAE


KAWORU ILLUSTRATIONS
Side NEON GENESIS EVANGELION
illustrated by SHUNJI SUZUKI



0cm
カヲルとシンジの最接近距離（TVシリーズ）
お風呂でカヲルの手とシンジの手が重なっています。

82カット
カヲルが登場していたカット数（TVシリーズ）
同ポジションのカットを含んでいます。

2人
最初会話した人数（TVシリーズ）
カヲルはシンジとレイとだけしゃべってます。

238小節
流れる第九の小節数（TVシリーズ）
TVシリーズ版では、カヲルがセントラルドグマへ向かうときに、
ベートーヴェンの交響曲第九番が流れます。

48個
ひとりごとの吹き出しの回数（漫画版）
意外とひとりごとが少ないのです。



3626文字
セリフ全文字数（漫画版）

1回
カヲルの出撃数（漫画版）
第11使徒（アルミサエル・漫画版）と対決するために、
カヲルがエヴァンゲリオン弐号機で出撃します。

15秒
最初の登場シーンの沈黙（TVシリーズ）
サモトラケのニケ像を思わせる彫刻に足を組む、名シーン。
長い沈黙が包みます。

9日以上
カヲルのいた日数（漫画版）
第10使徒（アラエル・漫画版）戦から登場。
シンジと3日以上も同居生活を送っています。

50秒
カヲルとシンジがお風呂に浸かっていた時間（TVシリーズ）

+16.0/120min
シンクロ率テストの記録

TVシリーズ、漫画版、新劇場版:序……。渚カヲルにまつわる、いろいろな数字をカウントしてみました。

347コマ
カヲルが登場していたコマ数（漫画版）

559秒
カヲルが登場していた秒数（ＴＶシリーズ）
カヲルを画面にとらえているカットの時間をカウントしました。
結構、沈黙長いです。

1回
カヲルとシンジのキスの回数（漫画版）
過呼吸となったシンジを助けるための人工呼吸。
だけど、カヲルはシンジに好意をもっていました。

68文字
セリフ全文字数（新劇場版：序）

7カット＋予告編1カット
登場カット数（新劇場版：序）

13枚
第弐拾三話予告編で登場したカヲルの原画
第弐拾三話では、
レイアウトの上に切り抜いた原画を張り付けることで、
ストーリー紹介がされました。

約1,230,000件
カヲルを Google で検索したときの数
港カヲルや私屋カヲルといった名前やカヲル興業株式会社
といった会社名が並んでいます。（2008 年夏現在）

127秒
エヴァンゲリオン初号機が
カヲルを握りしめている時間（ＴＶシリーズ）
カヲルとシンジの濃厚な時間が流れます。
このあと、カヲルの頭が L.C.L の中に落下しました。

1064文字
セリフ全文字数（ＴＶシリーズ）

約1日
カヲルのいた日数
（TV シリーズ）
夕陽の美しい夕方から、
翌日の夜まで。

6組
会話した人数（漫画版）
シンジ、アスカ、ゲンドウ、レイ、ミサト、
ゼーレの老人たちと会話しています。

3種類
カヲルの着ていたTシャツの種類（漫画版）
寝るときは、ちゃんとシャツを着替えているようです。

4作
カヲルの漫画版スピンオフ作品の数
「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鉄のガールフレンド」
「新世紀エヴァンゲリオン 碇シンジ育成計画」
「ぷちえう゛ぁ」「新世紀エヴァンゲリオン 学園堕天録」
に登場しています。

KAWORU COUNT NUMBERS
カヲル・カウント・ナンバーズ

illustrated by MASAYUKI

ミステリアスなカヲルの正体にせまる、謎に満ちた数字の数々。はたして、この数字の意味するものは？
（数字のカウントは編集部によるものです）

KAWORU'S HAIRSTYLE
カヲルのヘアスタイル

無造作ヘアのボサボサ頭。おそらくヘアスタイルには無頓着なのだろう。「髪の毛か。なぜ体毛にまで人は気を使うのだろうね。ヤマアラシの針も髪の毛の一種。きっとジレンマの象徴なんだろうね」

RED EYES
赤い瞳

『エヴァンゲリオン』のヒロイン・綾波レイと同じ色の瞳をもつカヲル。「綾波レイ、君は僕と同じだね。」

KAWORU'S FINGER
カヲルの指

かつて碇シンジの手を握りしめた、カヲルの細い指。彼はその手をズボンのポケットに隠したまま、ただひとりでセントラルドグマへ降りていく。「ガラスのように繊細だね。とくに人間の指は（笑）」

17th ANGEL
第17使徒

最後の使徒——その名は「タブリス」。自由なる意志を表す天使。彼はゼーレの命令で、ネルフのセントラルドグマをめざす。あえて学校の制服姿で向かうのは、彼らしい皮肉だろうか。その表情には無表情。ごく自然なことのように「みずからの死」を希望する。カヲルの肉体は、死ぬことによって、永遠の美を得たのかもしれない。

illustrated by HITOMI HASEGAWA



A.T. FIELD
A.T. フィールド

使徒やエヴァンゲリオンがもつ絶対不可侵の障壁を、カヲルももっている。「何人にも侵されざる聖なる領域。心の光。リリンもわかってるんだろう。A.T. フィールドは誰もがもっている心の壁だということを」

KAWORU'S NECK
カヲルの首

カヲルはシンジが乗る初号機に首を絞められ、その生涯を終える。「そう、力を入れて首をつかむんだ。僕をしめ殺した感覚を、その手に残すんだ。そうしたら、君は僕のことをイヤでも忘れられないだろ？」

UNIFORM
制服

第３新東京市立第壱中学校の制服（夏服）を着て、彼はネルフの地下セントラルドグマをめざす。まるで学校に通うように。「さあ行くよ。僕は君に会うために、学校に通っていたのかもしれない」

KAWORU'S BELT
カヲルのベルト

メタルのバックルが'90年代の学生らしさを感じさせる。余ったベルトをずるりと垂らして、ちょっとした不良きどり？「ベルト、かい？　これを締めていないとズボンが落ちてしまうだろう？」

「ＥＶＡは僕と同じ体でできている」

HEADSET
ヘッドセット

エヴァンゲリオンと神経接続するためのインターフェイス。パイロットごとに違う色が与えられる。「別にこんなものは必要ないよ。弐号機の魂は閉じこもっているから。魂さえなければ同化できるさ」

KAWORU'S NAPE
カヲルのうなじ

プラグスーツはハイネック型。見えそうで見えない、首筋がセクシー！ 「ここが気になるのかい？ たしかに人間の神経の中枢が集まっている部位でもあるし、ここが壊れたら死んでしまうからね」

PLUG SUITS SWITCH
プラグスーツのスイッチ

手首のスイッチを押すと、プラグスーツの中から余分な空気が脱け、身体に密着する。カヲルのボディラインがあらわに！ 「このスーツはリリンの繊細な心を隠す、分厚い鎧だね。好意に値するよ」

PLUG SUITS
プラグスーツ

エヴァンゲリオンに搭乗するために着るパイロット専用服。パイロットは一度裸になってから着用する。「EVAシリーズ。アダムより生まれし、人間にとって忌むべき存在。僕にはわからないよ」

KAWORU'S WAIST
カヲルの腰

くびれているカヲルの腰。お風呂シーンでは思わず目を奪われた人も多いはず。「フッ。そんなに気になるのかい。特別な運動をしているわけでもないから、筋肉がついているわけでもないけどね」

KAWORU'S LEG
カヲルの足

細くて長いカヲルの足。設定などを見ると、どうやらシンジよりも足が長いらしい？ 「人は足がなければ前へ進めない存在だね。リリンの可能性でもあり、地面に縛りつけるものでもあるってことさ」



KAWORU'S BODY ANALYSIS
カヲル身体分析

まだ蒼く みずみずしい果実 カヲルの肉体に ドッキリ

やあ、僕の体に興味があるのかい？ ……どうでもいいだろ、僕の顔なんて。それぞれの肉体が違うのは、あたりまえじゃないか。たしかに僕らを構成している物質は同じ。姿かたちもお互い、この星で生きていくために、人の子に行き着いた。でも、違うのは、これまで誰と出会い、どう生きて来たかってこと。君と僕とは似てるけど、同じじゃない。それでも知りたいのかい？ じゃあ、シャワーに行こうか。これからなんだろ。だめなのかい。僕は君に知ってほしいんだ。姿かたちが違う、僕らが出会ったことは運命だってこと。

5th CHILDREN
フィフス・チルドレン

銀白の髪に赤い目。雪のようにはかない白い肌。無駄な肉のないスレンダーなスタイル。15歳とはとても思えないほど落ち着きはらい、冷めたまなざしをもつ少年——カヲル。彼のミステリアスな言動は大人たちを煙に巻く。そう、きっと彼は肉体や年齢では縛ることのできない存在。彼の肉体は、彼の自由な魂の器に過ぎないのだから。

「僕はカヲル、渚カヲル。君と同じ仕組まれた子供——」



もっと知りたい渚カヲル

illustrated by TADASHI HIRAMATSU

The Examination of KAWORU

キミは渚カヲルの何を知っている……？ わたしたちのカヲリスト度チェック！

カヲル検定

ANIMATION

Q01　渚カヲルの誕生日は？
(a)　1998年9月13日
(b)　1999年7月11日
(c)　2000年9月13日
(d)　2001年9月11日

Q02　TVシリーズ版ではカヲルは第○使徒として登場？
(a)　第12使徒（レリエル）
(b)　第16使徒（アルミサエル）
(c)　第17使徒（タブリス）
(d)　第1使徒（アダム）

Q03　カヲルの部屋の入り口に敷いてあるラグの模様は？
(a)　ストライプ
(b)　水玉
(c)　迷彩
(d)　ハート

Q04「歌はいいね。リリンの生み出した○○の極みだよ」の○○とは？
(a)　英知
(b)　悪徳
(c)　甘美
(d)　文化

Q05　TVシリーズ版でカヲルとシンジがネルフで一緒に入るものは？
(a)　厨房
(b)　風呂
(c)　部活
(d)　布団

Q06　TVシリーズ版カヲルの最後の台詞は？
(a)　ありがとう、君に触れられてよかった
(b)　さよなら、君を知れて幸せだったよ
(c)　ありがとう、君に会えてうれしかったよ
(d)　さよなら、また会えるといいね

Q07　TVシリーズ版カヲルの最期の時間は？
(a)　およそ30秒
(b)　およそ60秒
(c)　およそ90秒
(d)　およそ永遠

Q08　劇場版『DEATH (TRUE)²』にて演奏された弦楽四重奏。その場所とは？
(a)　第2新東京市・第三中学講堂内
(b)　第3新東京市・第三中学食堂内
(c)　第2新東京市・第二中学講堂内
(d)　第3新東京市・第壱中学音楽室

Q09　劇場版『DEATH (TRUE)²』にて弦楽四重奏に加わるカヲル。そのパートは？
(a)　ヴァイオリン第一弦
(b)　ヴァイオリン第二弦
(c)　ヴィオラ第三弦
(d)　トライアングル

Q10　劇場版『DEATH (TRUE)²』にて奏でられる楽曲は？
(a)　ベートーヴェン「交響曲第9番」
(b)　バッハ「主よ、人の望みの喜びよ」
(c)　パッヘルベル「カノン」
(d)　バッハ「G線上のアリア」

COMICS

Q11　カヲルが初めて登場するのはコミックス何巻？
(a)　6巻　四人目の適格者
(b)　7巻　男の戦い
(c)　8巻　MOTHER
(d)　9巻　フィフス・チルドレン

Q12　カヲルがシンジと出会ったときにピアノで弾いていた曲は？
(a)　心よ原始に戻れ
(b)　渚のシンドバッド
(c)　ベートーヴェン「交響曲第9番」
(d)　ねこふんじゃった

Q13　カヲルがシンジの名前をはじめて口にするセリフは？
(a)　よろしくシンジ君　カヲルでいいよ
(b)　シンジ君――だっけ？
(c)　フィフス・チルドレンだよ　聞いてない？　碇シンジ君
(d)　そう感じないか？　碇シンジ君

Q14　カヲルがシンジに言ったセリフは？
(a)　カヲルでいいよ、碇君
(b)　ありがとう、君に会えてうれしかったよ
(c)　シャワーだよ。これからなんだろ？
(d)　僕を好きになったら、どんな気分になるんだろう

Q15　シンジがカヲルに言ったセリフは？
(a)　裏切ったな！　僕の気持ちを裏切ったな！
(b)　僕は君に会うために生まれてきたのかもしれない
(c)　君が何を言っているのかわかんないよ……カヲル君
(d)　前歯全部折ってやる！

Q16　過呼吸のシンジをどうやって助けた？
(a)　袋を口にかぶせて
(b)　扼殺して
(c)　キスして
(d)　歌を歌って

Q17　使徒と戦ったカヲルの中に流れ込んできた感情は？
(a)　憎悪
(b)　空腹
(c)　拒絶
(d)　愛情

Q18　シンジがカヲルの家に泊まる話数のサブタイトルは？
(a)　居心地のいい部屋
(b)　仕組まれた夜
(c)　ねじれた夜
(d)　今夜は帰らない

Q19　カヲルはシンジに何と呼ばれたかった？
(a)　恋人
(b)　友達
(c)　家族
(d)　俺の嫁

Q20　カヲルが「最後の願い」だと言ったのは？
(a)　風呂で背中を流してほしい
(b)　一緒に下校したい
(c)　折れるほど抱きしめてほしい
(d)　その手で自分を消して欲しい

解答／●01. (c)。人類の半数を死に至らしめたセカンドインパクトが起こった日でもある。●02. (c)。名前の由来はユダヤ教伝承の「自由意志」を司る天使。●03. (a)。●04. (d)。文化と言えば、歌か不倫かである。●05. (b)。コミックス版ではシャワールーム。●06. (c)。あまりにも有名なセリフである。●07. (b)。ただし、永遠にも似た60秒だ。シンジがいかに葛藤していたかがうかがえる。●08. (a)。時はシンジがカヲルを殺めた18カ月前。●09. (a)。ちなみに、ヴァイオリン第二弦はアスカ、ヴィオラ第三弦はレイ。●10. (c)。「交響曲第9番」は、TVアニメ版ではカヲルの最期の時、コミックス版ではカヲル登場時の曲。「主よ、人の望みの喜びよ」「G線上のアリア」は劇場版『まごころを、君に』劇中曲。●11. (b)。●12. (c)。●13. (c)。ちなみに、「よろしくシンジ君　カヲルでいいよ」はコミックス『新世紀エヴァンゲリオン 碇シンジ育成計画』、「シンジ君―だっけ？」はコミックス『新世紀エヴァンゲリオン 学園堕天録』、「そう感じないか？　碇シンジ君」はTVシリーズより。●14. (d)。ほかはすべてTVシリーズより。●15. (d)。なんとも激しいシンジのセリフだ。●16. (c)。正確には人工呼吸をして対処した。その直後のセリフ「あは。一応呼吸落ち着いたね。袋じゃなくてもいいんだ」。●17. (d)。綾波のシンジに対する想いが流れ込んできた。●18. (c)。この回で衝撃のキスシーンが。●19. (b)。カヲルは血の繋がりも約束も必要ないシンプルで純粋な関係性を求めていたのかもしれない。●20. (d)。ふたりが出会ったとき、カヲルが手をかけたネコのように。

正解数が☹9問以下:カヲルビギナー？ 顔を洗って出直しておいで！😐10～14問:エヴァファン。けれどカヲルへの愛はまだ足りないかも☺15～19問:カヲルファン！カヲリストまであと少し！😀全問正解:カヲリスト！もうもとには戻れませんよ……♥

一方、デフォルメされた愛嬌あるかたちもまた、変幻自在のカヲルならでは。
　中でも「ぷちえゔぁ」シリーズや、ぬいぐるみたちの愛くるしさは反則！　いちど目があったら最後、ラブリーなルックスに心を奪われてしまう。
　クールなカヲルらしからぬ、ぷにゅっとした頬に、大きく潤んだ赤い瞳……こんなにキュートでポップなカヲルとともに日々を暮らせたなら、いつもより憂鬱な日にだって、エネルギーがもらえそう。明日を夢見て眠りにつくひとときに、あなたとカヲルの秘密の時間がはじまる。今夜の彼はどんな言葉を語りかけてくれるのだろうか。
　私たちの前を、瞬く間に駆け抜けていく渚カヲル。その光と影を縫うようにして生まれた、これらの美しき３Ｄの肢体を見つめよう。空の肉体に魂を吹き込むのは、それを愛でる者の力。男女問わず、見るもの触れるものすべてを虜にしてしまうカヲルと共に、永遠よりも濃密な時間を送ってみてはいかが？

KAWORU's GLAM

カヲルの魅力は２次元にとどまらない！　３次元（＝フィギュア）カヲルにもウットリ

❹



❸

CUTE

お部屋の中でも出かけるときも、とにかくカヲルと一緒にいたいアナタへ

❸「ヱヴァンゲリオン新劇場版：序」カヲルぬいぐるみ／つらいことがあったときは彼と一緒に寝るに限る♥　価格＝税込1890円（ムービック）　❹ぷちえゔぁーえゔぁぐらし／ねるふ学園でカヲルは謎の多き生徒会長。キリッとした表情が凛々しいね！　価格＝税込450円（バンダイ　コレクターズ事業部）

※販売を終了している商品もございます。ご了承ください（2008年10月現在）

全人類あこがれの肢体を具現化した渚カヲルのフィギュア、これこそが人類が生み出した「美」の極み!?

白い肌に浮かび上がる鎖骨、広い肩に対して頼りないまでに細くくびれる腰、背筋のラインといった子細まで確認できるのは、立体ならではの魅力。愛すべき逆三角形から伸びる長い四肢がいまにもこちらに伸びてきそうで、胸が高鳴る。

原型師たつまき、林浩己、麻田咲……彼ら匠の類いまれなる技術という魔法によって三次元空間へ召喚されたカヲルは強烈な魅力で見る者を虜にする。

足の裏から頭の頂に至るまで精巧にかたち造られたボディ……その身に、諦念と反抗というアンビバレンツな精神を内包したまま、彼は決して衰えることのない美しさを此処に留める。それは、私たちを「解放された世界」へと誘う使徒の危険な誘いかもしれない。でも今はただ、そのしなやかかつ甘やかなフォルムを指でなぞり、センシュアルな誘惑に酔いしれたい――。



HGIFシリーズEVANGELION FILE02～貞本義行コレクション(セントラルドグマに侵攻中のカヲルを立体化！価格=税込300円(バンダイ)

OUROUS side 3D

❷





❶

宝石を磨き出すように、繊細に象られていくカヲルの魅力を堪能して……！ COOL

❶エヴァンゲリオン新劇場版 渚カヲル(ノンスケールPVC塗装済み完成品)／黒猫を抱きながら浮かべる妖しい微笑がたまらない！ ファン垂涎の逸品です。価格=税込5040円(コトブキヤ) ❷新世紀エヴァンゲリオン シンジ＆カヲル制服Ver.／学生服が甘酸っぱい♥ 男の子同士の青春の1ページ！ 価格=税込6090円(コトブキヤ)

「カヲルは万事塞翁が馬」
かをるはばんじさいおうがうま

カヲルに関してのことはすべて、幸福や不幸は予想のしようがないという意味。



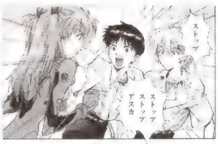
「カヲルの面に水」
かをるのつらにみず

使徒の心理攻撃を受けているアスカを見て「おもしろいことになってきた」と発言したことから、いけしゃあしゃあとしているさまを言う。



「出るカヲルは打たれる」
でるかをるはうたれる

「エヴァは心を開かなければ動かないよ」とカヲルが助言したがためにアスカの反感を買ってしまったように、でしゃばったことをアスカに言ってはいけないということ。



「カヲルは糾える縄の如し」
かをるはあざなえるなわのごとし

カヲルという存在は、より合わせた縄のようにレイやシンジなど何者かと表裏一体の存在であるということ。



「カヲルの顔も三度まで」
かをるのかおもさんどまで

捨てられた子猫を見つけると、すぐに殺してしまう、冷酷なカヲル。カヲルを怒らせたら、許してくれるのも、二度まで。三度目には、A.T.フィールドを張って、怒っちゃうぞ！



「覆水カヲルの盆に返らず」
ふくすいかをるのぼんにかえらず

一度こぼれてしまった水は二度とカヲルの盆には返らないということから、別れたシンジとカヲルが復縁するのは極めて困難なことであり、取り返しのつかないことをしてしまったことの喩え。



カヲル諺

名シーンをもとに生まれた、カヲルのことわざを紹介！

「シンジも歩けばカヲルに当たる」

しんじもあるけばかをるにあたる

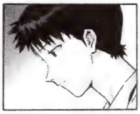
エヴァに乗るシンジは、ときに禍いにあう。また、エヴァに乗りつづけていると思わぬカヲルにあう。

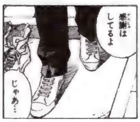


「シンジの心と秋の空」

しんじのこころとあきのそら

秋の空模様のように、シンジの心は変わりやすいということ。





「縁は異なもの、カヲルなもの」

えんはいなもの、かをるなもの

シンジとカヲルのめぐりあい、結びつきというものは予測のつかないほんとうに不思議なもの、おもしろいものだということ。





「カヲルも筆の誤り」

かをるもふでのあやまり

カヲルでさえ自由意志をもって、死海文書のシナリオにはない行動を起こしたりもするということ。



「カヲルを捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」

かをるをすててこそうかぶせもあれ

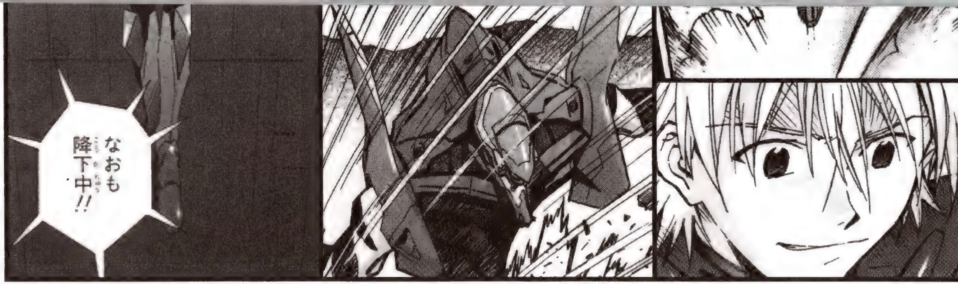
カヲルを殺したことによりサードインパクトを回避できたのだから、助かった人もいるのだということ。



れてくれる理解のあるパートナーとともに生きていきたいと心から願っています。タロットは死神。自分の限界を超え成長していくために、過去に別れを告げることを意味しているのです。

※出典／『誕生日事典』（角川書店刊）





最終にして最高、最強にして最愛の適格者

戦いを恐れながら、それでも私たちはたぶん望んでいた。魂を捧げても惜しくない美しい戦士が現われることを。優雅な死のダンス、そのステップが軽やかに踏まれることを。

渚カヲルは、蒼色のプラグスーツをまとう。碇シンジのそれより、憂いを感じてしまうのは、私たちの身勝手な投影なのか。トルソーを覆う深い青紫に胸を締めつけられる。

強いから美しいのか、美しいから強いのか。傲慢に輝く、戦う彼の瞳に、いつか捉えられてみたい。それで、彼に息の根を止められるなら本望である。

Poem of One's Heart {きみとぼくのポエム}



赤と銀のダンス

運命と自由の狭間に
ゆらめくのは
甘い奈落か
冷たい楽園か

きみの赤色はゆらぐ
まるでゼリィのように
まるでルビィのように

きみの銀色はゆれる
まるで月冴ゆる
夜のように
まるで空から垂れる
雨糸のように

運命と自由の狭間に
なにが
ゆらめいたとしても
いまはまだ
ただ此処にいて

（PN／渚☆カヲル子）



Imagine! KAWORU's VOICE ―― 想像してごらん

Q. 極秘入手した1枚の写真。彼のセリフを考えてみて!

A. 1. 胸のボタン取れてる
2. 僕が
3. 縫ってあげるからシャツ脱いでよ

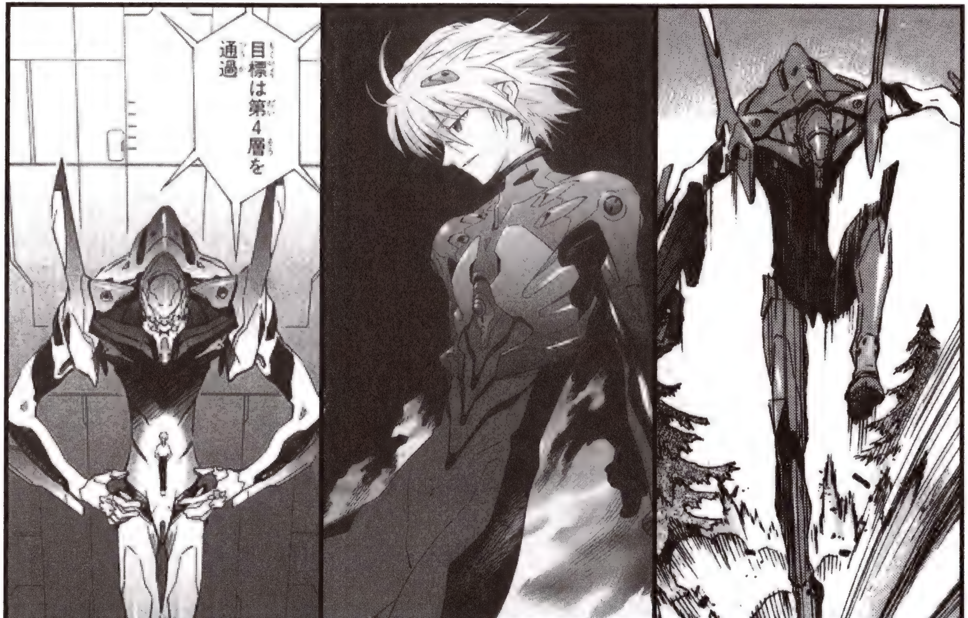
A. 1.「ういろう」ってなんだよ!
2. もう
3. 買ってきてくれるって約束したじゃないか……

真実は神のみぞ知る!? これぞ正解という情報のもち主は、至急、新聞同好会（3-B 細雪）までご連絡を!

FIFTH CHILDREN



KAWORU NAGISA



Birthday Fortune

誕生日占い

♥ターゲット
渚カヲル
2000年9月13日生　乙女座

♥誕生石
サファイヤ
…魂を鎮め邪悪なものから守る力

♥誕生花
猫 柳…自由

どんな障害をも乗り越える人

目の前にある仕事に全身全霊を傾けて取りくみます。すぐれた集中力と前向きな意志の強さに恵まれていて、途中で大きな障害に出会うようなことがあっても、成功を一瞬たりとも疑いません。魔法の力をもっているかのように見える人すらいるかもしれません。ある時点でがらりと生き方を変え、以後ひたすら新しい目標に向かって邁進することもあるでしょう。

意志が強く、集中力にも恵まれていますが、性的な欲求も相当なものでしょう。欠点も含め、自分のすべてを受け入

a Beautiful Boy…

なにを見ているの？ なにを考えているの？

渚カヲルの情報を追う私たちの前に、彼のある不審な行動が浮かび上がった。

「私、見たんです。渚くんが屋上の金網の上に立ってた。何か悩みがあるんじゃないかしら。思いつめたように遠くを見ていて。今にも下に落ちそうだった！」（1年生女子・ほか多数）。はてさて、孤高の王子様の憂鬱とは!?　しかし彼は、私たちの問いをひらりとかわす。碇の肩を抱き寄せ「僕のことなら、彼に聞いてみてよ」と（碇は「僕にわかるわけないじゃないか!」の一点張り）。

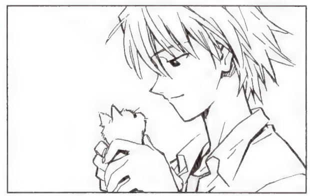
同好会は、威信を賭けた激レアショットを入手。そこに写るのは、いつもの隙のない微笑とは異なる豊かな表情の数々！　渚にこんな顔をさせるのは、いったいなに？　だれ……？　謎を追う私たちの前に、謎は増すばかり。そして、知れば知るほど惹かれる。そんな魔のような魅力から、私たちはもう逃れられないのかもしれない。





もしかしてお説教を受けてるの……？
反抗的な瞳にドキドキ♥


もの憂げな表情……心の中にいるのは誰？


かわいい子猫とのツーショット入手♥



水も滴る……





その涙はいったいだれのためのもの？

First Impression of KAWORU NAGISA

渚カヲルの第一印象

....But, he doesn't expect you to understand.

case 1　SHINJI



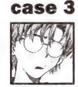
なんだろう　この感じ……
以前どこかで感じたことのある
そうだ　出会ったばかりの頃の綾波……

case 2　ASUKA



チカンはチカンよ！
でなきゃ変態でしょ！
女子トイレをのぞくなんて！

case 3　KENSUKE



不気味なヤツ
人間かな　あれ……

case 4　MISATO



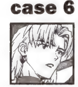
委員会が直接送ってきた子供──か
ただの子供じゃない
必ずなにかあるわ

case 5　REI



あなたは私とよく
似ているかもしれないけど
同じではないわ

case 6　RITSUKO



まさか
コアの書き換えなしに弐号機と
シンクロするなんて

TOKYO-3 The First Junior High School TIMES

Last Issue feat. KAWORU NAGISA

Who are you?



謎の美少年、現わる!

気まぐれな天使が空から舞い降りるかのごとく、突然、第3新東京市へ姿を現わした渚カヲル。あのエリートかつ問題児が集まる2年A組へ編入したというデータがあるが、まだ、一度もその姿を教室内へは現わしていないという。一度、碇シンジ(2-A)と連れ立ち、第壱中学校門に接近したが、彼のチャーミングな長い足は、あと一歩のところで華麗にUターン。惜しくも初登校は果たされなかった。

第壱中学校新聞同好会は、全勢力をあげ、この愛すべき気まぐれ王子・渚カヲルを特集する。乱反射する彼の魅力は、私たちを虹の向こうへと誘うに違いない。



グランドピアノを弾く美少年♥ 奏でる曲はベートーヴェンの第九だったという証言がある。



キャ……♥


何か
いつもの ひよりと
違うねぇ〜〜
カヲルくんて言ったらBLが鉄板じゃん!!
やっぱ言われたか
いやぁ きちんと見たコトなかったから見てみたんだけどさ
有名だから それは知ってたんだけどぬ──
何か今回 私には単純なBLに見えなかったっていうか
人間としての接触っていうか こう暖かいシーンっぽく感じちゃってねぇー
うまく言えないけど
えー ムズカしく考え過ぎだって〜〜
何にしてもまー こういう奥深い作品に手をつけるっていうのは ホント いろいろ大変っスねぇ〜〜
ヒットするにはワケがあるか
読んでくれてありがとぬ──

現代っ子



カポ――……ン
一次的接触を極端に避けるねキミは――
!!
パラパラ
他人を知らなければ裏切られるコトも互いに――……
……
……一次的接触って何だろう――!?
カヲルくんは物知りだなぁ……

聞かせてんのよ


トウジもケンスケも
皆 家を失って
他の所へ行ってしまった
友達と呼べる人は
いなくなってしまった——
歌はいいね
歌は 心を
潤してくれる……
——って
何してるんだい？
あ いや……
歌ってるの
聞かれるのって
恥ずかしいかな
——って……
邪魔しちゃ悪いと思って……
こそっ
それはどうも

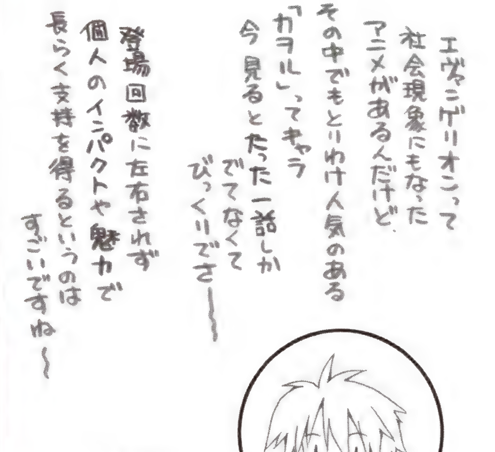
第九（だいく）

NO KAWORU, NO LIFE! TRIBUTE COMIC

ひより、カヲルを語る（かた）
「らき☆すた」出張版

美水かがみ





美水かがみ……よしみず・かがみ／埼玉県出身。「月刊コンプティーク」、「月刊コンプエース」にて『らき☆すた』を好評連載中（1～6巻発売中、以下続刊／角川書店）。らき☆すたニュース→http://www.comptiq.com/event/luckystar/


歌は（略）
こんなんで本当に大丈夫なのかな～
君が…えっと…渚君
カヲルでいいよ碇君
あ…僕も…
渚ビジョン
…シンジでいいよ
ドキューン☆
むしろBL漫画の攻める方の気持ちがわかっちゃったよ…
フッ…意外に悪くないものだね…
いいなあ…ワシもゲンドウにデレられたい…
ワシも
ワシも

こんな舞台裏は嫌だ　桂明日香



桂 明日香……かつら・あすか／北海道出身。第15回少年エース新人漫画賞・佳作『蝶子とランタン』にてデビュー。
主な著作は『BLOOD+』（全5巻／角川書店）、『花やしきの住人たち』（1〜2巻発売中、以下続刊／角川書店）、『ハニカム』（1巻発売中、以下続刊／アスキー・メディアワークス）など。





今回初めて
エヴァキャラを描いて
みましたが
ムズかしいですねェ。
特にシンジ!!
なんでかわいくならないんだろ。
なんかどっかの田舎のにーちゃんに
なってしまいました。

でも描いていてとても楽しめました。

それにしても…
1話しか出てこないキャラで
1冊の本が出来るなんて
今まであったでしょうか。
ホントにスゴイと思うと同時に
マンガ家として
勉強になるなぁと思いました。
新條もいつかこんなキャラが
作れるといいな。
主人公を食わない程度に。(笑)

新條まゆ

わずか1話にして
すべてを持っていったカヲルくん。
あの時の衝撃を
昨日のことのように思い出せます。

また石田彰さんの声がよかった!!
それまでシンジ――♡とか言ってた
周りの友達がみんなカヲルくんに
行ってしまいました。

当時メールなんかなかったから、
もう周りでFaxが飛びかって、
どんだけカヲルくんを
描いたことか…(笑)

カヲルくんはホント――に
不思議ですよね。
本来、こういう狙いすましたような
キャラってあまり人気が出ない
ものなんですが、
なんかもーカヲルくんは
「こっこんなわかりやすいキャラなんかに
ハマったりしないんだから――!!」と
叫びながら、どっぷりハマっているという…

なんというツンデレ。


カヲルくんが
使徒だとわかっても…
裏切ったな!!
僕の気持ちを
裏切ったな!!
――とは
思っても……
うおおおぉ
殺せなかったり…
結果
サードインパクト
勃発


カヲルくんっ いっしょにお風呂 入ろっかぁ
――とシンジから 誘ってみたり…
うんっ
風呂場では2人で はしゃいでみたり…
あははは やめてよカヲルくーんっ
僕は君に 会うために 生まれてきたのかも しれない…
カヲルくんっ
むぎゅうっう
それはある種の 家族愛の ようでもあり…
家族の愛情に 飢えていたシンジには かけがえのない存在に なっていっただろう





新條まゆ……しんじょう・まゆ／長崎県出身。現在、『月刊Asuka』（角川書店）にて『愛俺！～男子校の姫と女子校の王子～』を好評連載中。主な著作は『快感♥フレーズ』（全17巻／小学館）、『ラブセレブ』（全7巻／小学館）、『愛を歌うより俺に溺れろ！』（全5巻／小学館）など。

すごく成長した感じがして。かっこよかった。今でもカヲル君は私の思春期に光を当ててくれます（遠い目）。そしてもう、どんな男（キャラ）も、カヲル君を覆すことはできません。漫画は『エヴァ』という作品に対する人類補完計画だったたと思います。妄想するしかなかったということが、ここで丁寧に描かれていましたから。貞本さんは神です。漫画は2人が一緒にいた時間が長いだけに泣ける、つらい、せつないけれど、すごく幸せだと思いました。ラストのシーンは漫画では両手で祈るようにカヲル君を握りますね。あれはきっとシンジの願いだったんです！　カヲル君のことが好きな証明として握りつぶしてしまう。これはもう究極愛です。私もこれからもカヲル君への想いを胸に生きていこうと思います。ええ、きっとみんながそうだと思います。カヲル君と出会って、好きになってからこれまでいろんな男性を好きになってきましたけれど、魂は常にカヲル君を求めているんです。カヲル君はすべての女性の初恋の人に通じる、青春の幻影ですから。恋が芽生えて愛が最高峰に達する前に消えてしまった人……。この永遠に消えないときめきと苦しみの間を味わっていなくてはいけない……彼は罪な男です。



カヲルに脱がされた、彼女のつぶやき

カヲルに泣き、カヲルに笑う――。彼の魅力に虜となった者の数知れず。
これはそのうちのひとり、カヲルを「初めての男（ヒト）」と語る、ある女性（O・Cさん）の魂の叫びである

出会いは衝撃的。地球創世と同じ。惑星と惑星がぶつかり合って地球が生まれたのと一緒です。それまで、私が恋だと思っていたのは花火が一瞬パッと上がったようなものだったんだ、と。カヲル君の登場そのものがセカンドインパクトでした。今まであんな男（キャラ）はいなかった。シンジのようなちょっとひねくれている、ダメ主人公に、対になるような人は現われないんですよ。でも、『エヴァ』では出てきた。彗星のごとく。それがカヲル君。そう、カヲル君は私の初めての男です。この時期に思春期だった人はみんな恋に落ちたと思う。優しくて、知性的で、謎がある。そしてあまり語らないまま去っていった人。去ったあともずっと、カヲル君がもしもまだ生きていたら……と悶々と考えていました。みんなの中におのおののカヲル君がいると思う。ほかのキャラは呼び捨てなのにカヲル君だけ「カヲル君」ですからね。そして新劇場版はサードインパクト。初恋の人に久しぶりに会えるなんて。でも、あのときのカヲル君とは違う。

✉ カヲルくんって、できあがった人のような感じがして。その一方で、子供のような無邪気なところもある。シンジの方に感情移入した僕からしたら、ある意味シンジと正反対の彼は、理想の存在だったのかもしれないです。悩むことのない人間なんていないって知ったとき、僕自身としてはカヲルくんのことを素直に受け入れられたなと思います。今は、そういう悩みをもつ「存在」として、彼を好きだと感じられるな、と。やっぱりカヲルくんには勝てないですね。かっこいいです。

アンガールズ
山根良顕
タレント



✉ 私は「好意に値するよ」と囁いてもらえない。妻との別居計画を進めている私はピュアでも繊細でもないので、彼は私を路傍の石のように無視する。私は彼の気を惹くため「お前男のくせに細くて色白で恥ずかしくないの?」と小学生のように悪口を言うが黙殺される。苛立った私はさらに「無視すんなよ、俺は空手八級なんだぞ」と叫び彼の肩に手をかけるが瞬間、A.T.フィールドが展開され私はちぎれちぎれになって死ぬ。その後、渚カヲルも首をもがれて死んだ事を風の噂で私は知る。生きてるうちに、おすすめCDなんかを貸してあげれば。もっと互いに寛大だったなら。そうすれば、少しは仲よくできたかもしれない。そんなことを、少し私は考えていた。

滝本竜彦
作家



✉ きみが初号機の右の掌に消えてから、もう12年が経つんだね。きみがいなくなってから、あまり楽しいことはなかったよ。〈人間はさびしさを永久になくすことはできない〉ときみは言ったね。〈自らの死、それが唯一の絶対的自由なんだよ〉とも。きみの虚無の深さに、この世界が丸ごとシンクロしてしまって、ぼくたちはどんどんバラバラになっていくようだ。

　でも、人生は一度きりだけど、物語は何度でも語り直せるとぼくたちは知った。バッドエンドはもうたくさんだ。カヲルくん、だからきみはリリンの世に還ってきたんだよね?〈ぼくは、きみに逢うために〉——今度こそ、偽りでない希望の言葉を語るために。

石田汗太
読売新聞文化部記者



✉ 「歌はいいねえ」「好きってことさ」。カヲルくんのセリフは笑える。なぜだろう?

　それはたぶん、その言葉が「からっぽ」だから。実（じつ）がないから。「生と死は等価値なんだ、僕にとってはね」とうそぶくカヲルくんは、存在自体が「からっぽ」。そこが、言葉や内面の「重さ」に苦しむシンジくんを惹きつけたのだろう。

　綾波も「からっぽ」だ。だが「私が守るもの」「絆だから…」といった数少ない言葉には自分の全存在がかかっていて、その「重さ」がシンジくんを苦しめもする。

　綾波と鮮やかな好対照を見せながら、鋭く軽やかにシンジくんの心を引き裂いたカヲルくんは、魅力的だ。

小原篤
朝日新聞編集センター員



✉ 実は我々は、第1話の時点ですでに彼と出会っていた。あの、圧倒的な情報量のオープニングフィルムをコマ送りで見ると、ほんの短いわずかなカットに彼の設定画とおぼしき一枚の絵があることがわかる。

　うっかり見落としてしまうような短さではあるが、あのカットを発見したときは興奮と同時に戦慄を覚えた。「おまえは誰だ?」と。そして、いよいよクライマックスという23話が終わり、次回の予告編に彼が登場したときのショックも同様に大きかった。

　その現れ方も消え方もみごとと言うほかない。

渡辺圭
毎日新聞
デジタルメディア局記者





森下悠里
タレント

✉ たまたまTVをつけっぱなしにしていたら、『エヴァ』がはじまったんです。今まで見たことのない映像とストーリーにびっくりして。次の日学校で話題になってました。「君は僕と同じだね」というセリフに深い意味を感じてドキッとしました。カヲルくんは何か大きなものを背負っている悲しい人なのだと思います。とてもクールでミステリアスで、なかなか内側を見せてくれない。カヲルくんは幸せだったのかな。ほかにカヲルくんが進むべき道はなかったのかな……。真相は私の中では謎のままです。



山本梓
女優・タレント

✉ 「君は僕と同じだね」。きれいな銀色の髪、赤い瞳に謎めいたセリフ。すごく不思議な感じがする……と思いました。『新劇場版：序』で復活したカヲルくんがとても印象的だったので、改めてTVアニメ版も見返してみました。カヲルくんの最期のセリフ「ありがとう、君に会えてうれしかったよ」が切なくて……。今、コミックスも読んでいるんですが、出てくるセリフとか設定がアニメとちょっとずつ違っていて、それを比べてみるのも楽しいです。

THE 7 MAILS FROM MEN TO KAWORU



メガマソ・インザーギ
アーティスト

✉ ひと言でいってカヲルは"謎多き男"って感じですよね！ シンジが何も信じられなくなっていたときに、気がついたらそこにいて……。シンジのよき理解者で、友達だったのに、まさか使徒だったなんて！「僕を裏切ったな！」っていうシンジの気持ちがわかります。
でもそんなアンチヒーロー的なカヲルくんに惹かれます。これからの映画も楽しみですし、カヲルくんの本が出版されてこんなコメントまでさせてもらって本当に光栄です！ カヲルくん、最高！ エヴァンゲリオン最高！



メガマソ・涼平
アーティスト

✉ いわゆる「エヴァ」ブームのとき、僕はちょうど15歳でした。そして、彼というキャラクターに勝手に自分を重ねていたのです（無論彼のルックスに及ぶわけもなく、彼のような独特な感性を持っていたわけでもありませんが）。そして彼の登場から死までの短い時間に驚き、つまり、登場時間と自分に与えたインパクトとの差異にショックを受け、それが今のビジュアル系としての涼平に影響を与えて……。とにかく、彼の存在はエヴァンゲリオンと僕の間に勝手な共通（共感）世界を作ってくれた重要なものだったのです。

栗山千明
女優・タレント



✉ 決して15歳には思えない悟ったような落ち着き。客観的な意見を持ちつつも独自の思想を感じる台詞。カヲルくんは透明感があり、愛らしく、敵（最後の使徒）とは思えない……むしろ主人公（人類）が悪なのかとさえ思ってしまう程の純粋さを感じさせる存在でした。石田彰さんの声もぴったりで、カヲルくんの謎めいたところや品を際立たせてくれていると思います。テレビシリーズでは1話分しか登場していなくても、私の中でとても印象深く、魅力的に映りました。10年以上経った今でも大ファンであり理想のタイプです。

小阪由佳
女優・タレント



✉ どこかミステリアスで、なおかつちょっとエロティック。カヲルくんを見たとき、こんな15歳はズルイ!! って思いました。シンジくんとお風呂に入って、手が触れたときの「ガラスのように繊細だね」というセリフ、私までドキッとしました。むしろ私がカヲルくんから言われたいかも（笑）。

ラスト、「君は死すべき存在ではない」と言い残して、エヴァの、というよりシンジくんの手の中で、カヲルくんがその命を終えるシーンには、もう本当に号泣しました。

平田裕香
女優・タレント



✉ 選ばれしフィフスチルドレンであり、使徒であった渚カヲルくん。正直、私には彼が一体何でありどういう存在だったのか、今もなおはっきりとした答えが出ないまま。そんなところも含めて、ただただ彼の魅力にやられてしまいました。

だって。全然わからない。沢山の謎を、小気味良い言葉を残し美しく散っていった。終わってしまったもの、消えてしまったコトは、あとはもう自分の中で想像して、その度美しい存在になっていくしかない。

本当、もろもろやってくれる存在ですよね!

福井裕佳梨
声優・タレント



✉ 私にとってカヲルくんは……妖精（?）のような存在でした。妖艶で、神秘的で、優しくて、強くて。

『君に会うために生まれてきたのかもしれない』

繊細な口調で、孤独なシンジくんを包み込んでくれる。見せかけでも押しつけでもない素直な感情に、人間らしい温かみを感じ、共感しました。「ヒトの姿をしたシト」としてたった1話だけに存在したとは思えない、すごい存在感のカヲルくんは、私の中にもすごい存在感で、あのときのまま残っているのでありました。

宮地真緒
女優・タレント



✉ 「歌はいいねぇ。」このセリフで私のハートは射抜かれてしまいました。ミステリアスな笑顔の裏の少しさみしげな瞳。

私は王子に出会ってしまったのです。カヲルくんは私の王子様なのです。〝僕はカヲルくんに逢うために生まれてきたのかもしれない。〟1話だけでなく、もっとカヲルくんを見たかったけれど、逆に1話のみの登場だからこそ、こんなにカヲル熱が上がってしまったかもしれません。「ありがとう。君に会えてうれしかったよ。」

見る人の数だけ、渚カヲルという「偶像」は増えていく。ファンの心の中で彼は何度でも再生する。どんな姿にでもなって、私たちの前に現われる。17通のカヲルへのファンメールは、そんな「誰かにとって唯一の」カヲル像をかいま見させてくれるだろう。

THE 17 FAN ✉ MAILS

THE 10 MAILS FROM LADIES TO KAWORU



加藤夏希
女優・タレント

✉ 一癖も二癖もありそうなキャラなのに、シンジの前でのとびきりの笑顔にはキュンとしちゃいますね。しかし使徒だったなんて！　でもなぜ人を滅ぼす事に疑問をもっていたのか？　彼が最後に話していたことはなんだったのか？　とてもミステリアスな存在だなと思いました。カヲルの正体を知ったシンジは恋人に裏切られた女性みたいで（笑）……ちょっと共感する部分がありましたね。人付き合いが不得手な私にはカヲルのシンジへの好意を表す行動は勉強になりました。TVシリーズでもカヲルをもっとたくさん見たかった!!



川村ゆきえ
タレント

✉ 渚カヲルくんは、私の大好きなキャラクターのひとりです。かっこいい！　髪型も肌の色も、私には王子様に見えます。そして何よりもあの笑顔がステキなんです。特に、エヴァに握られて、顔だけが見えるラストのシーンの笑顔！　切なくてたまらない場面なのに、あの笑顔を見られるのは実はちょっとうれしかったりして、あのシーンを見るたびに、複雑な心境になったのを覚えています。カヲルくんがもっと登場してくれたらうれしいな……なんて思います。



喜屋武ちあき
タレント

✉ 1話だけの登場で、あそこまでセカンドインパクト的に印象に残るキャラはほかにはいない！　そしてあのささやきボイス！　あれさえあれば私はミサトさんのカレーでも100杯食べられるわ！「カヲル君はいいねぇ。リリン（庵野監督）の生み出した文化の極みだよ」

あとあのインパクトの大きな原因のひとつであろう、弐拾四話のカヲル君の最後の台詞から約1分間におよぶ止め絵のシーン。あれは当時から衝撃でした。あの場面にこそ私は言いたい。「好意に値するよ。好きってことさ！」

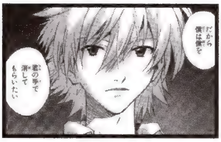
I ♥ KAWORU!

カヲルへの熱情がほとばしるラビリンスにダイブ!

THE 17 FAN✉MAILS
カヲルに脱がされた、彼女のつぶやき
NO KAWORU,NO LIFE! TRIBUTE COMIC
TOKYO-3 The First Junior High School TIMES Last Issue feat. KAWORU NAGISA
カヲル諺
KAWORU's GLAMOUROUS side 3D
カヲル検定
KAWORU'S BODY ANALYSIS カヲル身体分析
KAWORU COUNT NUMBERS

カヲル学 04

記　憶



アニメ版第弐拾四話で描かれたカヲルとシンジの物語と、漫画版9巻から11巻までで描かれたカヲルとシンジの物語は、いくつかのエピソードを共通させながらも、異なる部分も少なくない。

いちばんの違いはシンジの感情のモーメントだ。

アニメ版のシンジは、自分を認めてくれたカヲルを素直に慕うようになる。一方、漫画版はむしろ反発心が強く、それがクライマックスでカヲルを手にかけることで反転するという構造になっている。

アニメ版のカヲルは、さまざまな言葉を口にするがその言葉は抽象的すぎてシンジには伝わらない。「なにを言っているかわからないよ」と叫ぶシンジに対しカヲルは「遺言だよ」と答える。かくしてカヲルの言葉は遅効性の毒のようにシンジの深層へと沈み込んでいく。

一方、漫画版でエヴァに握りつぶされる前にカヲルはこう告げる。「君は僕を／しめ殺した感触を／その手に残すんだ」「そうしたら」「君は僕のことを／イヤでも忘れられないだろ?」。そしてシンジの操るエヴァンゲリオン初号機は、まるで抱きしめるようなポーズでカヲルを握りしめる。漫画版のカヲルはナイフのような言葉で、シンジの心に己の存在を刻みつけるのだ。

これはつまり人はいかに他人の記憶の中で生きることができるのか、ということだ。それについて2つの対照的な方法が示唆されている。

アニメ版カヲルは、解答を先送りした「謎」として宙づりとなることで、それゆえに常に心のなかにある、という方法を選んだ。自分の存在を「謎が解けるであろう」未来に留保したといってもいい。それに対し漫画版のカヲルは「謎」ではなく「解答」だ。そして「解答」とは常に過去の中にある確定した存在である。

「宙づりの未来」としてそこに留まるか、「確定した過去」として刻まれるか。これがアニメ版カヲルと漫画版カヲルの最大の違いである。そしてもしかすると、これはアニメ版『エヴァンゲリオン』と漫画版『エヴァンゲリオン』の最大の違いであるかもしれない。

ならば『エヴァンゲリヲン新劇場版:序』のラストにおけるカヲルのセリフをどう解釈すればいいか。言葉どおりに取れば、カヲルはシンジを“記憶している”。もしそうならばその記憶の中のシンジは「宙づりの未来」なのか、それとも「確定した過去」なのか。

それは今後の物語によって語られるだろう。(藤津亮太)

【本心】
カヲルが求めるもの。「次にとる行動が僕に対する君の本当の気持ちの証だ」と、シンジに決断を迫る。カヲルがシンジに望むものは、自分への想いそのもの。嫌いじゃないということの証明。また、出会いのシーンでの子猫と同じ状況にあることから、その日のカヲルの行動の裏にあった想いもうかがうことができる。「あの時のネコみたいに」と語るカヲルの表情が印象的だ。

マ

【ムカつく変態】
女子トイレをのぞき、かつ自分に「エラそうに」説教したカヲルを敵視してアスカが用いた言葉。「ムカつく」とは若者に多用される俗語。腹立たしいなどの嫌悪感を意味し、相手に対する攻撃性のニュアンスも含む。パイロットとして役に立たなくなっていく自分、そしてその代わりにやってきたと思われるカヲルという存在に対する焦燥感がうかがえる。

【無駄】
戦闘不能となったアスカを救出すべく出撃しようとしたシンジに、カヲルが言い放つ言葉。結果が見えていながら「やってみなきゃわからないだろ!?」と言い返すシンジの心情がカヲルには理解できない。他者のために必死になったり思いつめたりする姿は、カヲルにとって「無駄」と映り、のちにゼーレのもとで「人間というのは奇妙な生き物だね」とつぶやく一因となる。

ヤ

【汚れた血】
STAGE.69 タイトル。リツコの回想。ゲンドウに囚われた母と娘の消せない過去。なお、この回と次のSTAGE.70【虚無の群】には、カヲルは登場していない。

ラ

【ロンギヌスの槍】
STAGE.61 タイトル。零号機がロンギヌスの槍を投てきし、アラエルを撃破。廃人と化したアスカに代わり、カヲルが弐号機パイロットに任命される。

ワ

【忘れられない】
保持される記憶。カヲルがシンジの心に一生残した「自分の手でカヲルを絞め殺した」感触のこと。「武器は使うなよ」「君は僕を絞め殺した感触をその手に残すんだ」「そうしたら君は僕のことをイヤでも忘れられないだろ?」とカヲルは言う。手のひらの感触は、脳に送られ海馬を経て、触覚を司る大脳皮質内の前頂葉に送られる。しかし総体的な情感としてはむしろ、その刺激を判断し快感や恐怖として記憶する扁桃体に焼き付けられるのだといえる。

数字

【12th ANGEL】
第12使徒（ただし、TV版では第弐拾四話に第17使徒として登場）タブリスのこと。エントリープラグ未挿入の弐号機が起動し騒然とする発令所に追い打ちをかけるように、セントラルドグマ内にA.T.フィールドが発生。ネルフ中央作戦室発令所のモニタには「12th ANGEL」の文字が点灯。日向マコトにより使徒と確認される。

【2000年9月13日】
P68の解説に同じ。ちなみに同じ誕生日の有名人に、建築家の安藤忠雄（1941年）、ミュージシャンの砂原良徳（1969年）、陸上選手のマイケル・ジョンソン（1967年）、野球選手の松坂大輔（1980年）、女優の鈴木えみ（1985年）などがいる。

【3日】
カヲルの部屋にシンジが泊まり続けた日数。レイが死んだと思った日から、レイが生きていたとわかった日までに重なる。

【人の形をしたもの】
【仕組まれた子供】と同じく、カヲルがみずからを指し示すときに用いた言葉。カヲルを阻止しようとするシンジに「たとえ僕が使徒でも人の形をしたものに君が手をかけられるの?」とカヲルは問う。子猫、レイ、アスカなど、他者に対するシンジの反応が極めてセンシティブなものだったために、自分に対しても同じように容易には割り切れない態度になるだろうと予測している。同じく「人の形をしたもの」としては、カヲルのほかにレイが挙げられる。

【ひとり言】
首のない天使像の上でゼーレと会話するカヲルの様を指してミサトが呟いた言葉。「ひとり言を言うためにこんな朝っぱらから散歩なんて」と勘違いする。

【フィフス・チルドレン】
STAGE.57 タイトル。トウジを死なせたことに落ち込むシンジの前に、謎の少年が現われる。その名は、渚カヲル。フィフス・チルドレンだと名乗る。

【袋】
過呼吸を起こしたシンジへの処置として必要なもの。その代わりとして、カヲルはみずからの口腔を選んだ。レイの感情を流されたカヲルだからこそ、そのような選択に至ったとも考えられる。

【プライド】
STAGE.59 タイトル。弐号機とのシンクロ率低下に苦しむアスカ。パイロットの座をカヲルに譲るものかとアラエル戦に臨む。

【プラグスーツ】
エヴァに搭乗するパイロットをサポートする戦闘用スーツのこと。カヲルのプラグスーツは紫がかったグレーと青が基調。身体にフィットするデザインで、カヲルのスマートなボディラインを浮き彫りにしている。

【ベッド】
カヲルの寝床。上で寝転がり、雑誌を読んでいることが多い。シンジが泊まる際には、半分のスペースを譲る。シンジとの記念すべき(?)ファーストキスの場所もここととなる。

【Pen】
雑誌。カヲルが読んでいる号は「アートディレクターの仕事」特集。「そのとき僕が読んでた雑誌(笑)。これ描いてと、アシスタントに頼みました」
※貞本義行インタビューより

【僕と同じ】
「君は僕と同じだね」とは、カヲルが2人目のレイに言った言葉。ただし、レイには「よく似ているかもしれないけど同じではない」と否定される。

【僕のエヴァンゲリオン】
正式にネルフに配属する前のカヲルが「早く会ってみたい」と、自分の操縦するエヴァを想って口にする言葉。強力な人型兵器をオモチャのごとく専有しようとする発言には、カヲルの幼児性の一端を見るようだ。漫画版のカヲルは、このように幼く純粋で、無邪気さが感じられる。

【僕らを構成している物質は同じ】
カヲルがレイに言ったこと。カヲルとレイは、地球で生きていくために人の子の姿形へと行きついた存在。魂以外の物質的要素は同じもので構成されている。しかし、3人目のレイには「似てるけど同じじゃない」とカヲルは言う。

【ポケット】
カヲルは、常にといって過言でないほど両手をズボンのそれに突っ込んでいる。シンジと出会った際をはじめ、ゼーレとの対話のとき、そして最終目的を果たすべくセントラルドグマを降下する際、さらには初号機に扼殺されるその瞬間まで……。その姿は、他人に自分がどう見られようと無関心なカヲルのふてぶてしさを感じさせる。しかし、手のひらを隠した様は心理学的に「嘘をついている」「心の内をさらしたくない」状態ともいわれるのだ。最後、ギリギリまで使徒であることを隠し通したカヲルだが、実は態度に表われていたのかもしれない。ゼーレに召喚されて釘を刺されている場面では上記の他に両手の平を組んでいるポーズも見られるが、それらはカヲルに芽生えつつある反抗の証だろうか。

関係に敏感なシンジと接することやレイの感情に直接触れることで、カヲルは人の心に興味をもち、より近づきたいと感じるようになっていた。友達と呼べる人はいないと言うシンジに「僕のことは〝友達〟って呼んでくれないんだ。僕しか残ってないのに」と言う。

ナ

【涙】1
STAGE.64 タイトル。アルミサエルにより侵蝕される綾波。カヲルの搭乗する弐号機も、左足を切断される。

【涙】2
アルミサエルにより流されたレイの感情に同調したカヲルが流したもの。レイの感情とは「碇くんといっしょになりたい私の心」。これと同調してしまったカヲルは、「好き」という人の心というものに、興味をもつようになる。

【なんてザマ】
デュアルソーに物理融合したアルミサエルに（弐号機の）左足を切断されたカヲルが吐いた言葉。（可憐で耽美な印象のアニメ版のカヲルに対して）好戦的で男の子らしい態度のカヲルならではの言い回しだろう。A.T.フィールドを発動させれば難なくはじき飛ばすこともできた場面だが、正体を隠すためにそれをあえて抑えた。

【似てるけど同じじゃない】
カヲルがレイに言ったこと。そしてこれは、かつてカヲルがレイに言われたことでもある。その違いは「誰と出会い、どう生きてきたか」にあるとカヲルは語った。「君と僕は似てるけど同じじゃない」と続ける。カヲルが出会ってきたのはゼーレの面々を除けば、主にシンジと2人目のレイ。一方、この会話の時点では3人目とされているレイが出会っているのは、ゲンドウ、リツコ、そしてシンジとは挨拶程度。これまでにシンジと接して不可思議な人間の心の機微を感じ取ったり、2人目のレイの感情に同調をもしているカヲルは、まだ生まれたばかりでなにも知らないといえる3人目のレイに対し、優越感をもっているように見える。それらの感情の記憶こそが尊いものであるということに気づきつつある様子だ。

【ねじれた夜】
STAGE.67 タイトル。綾波の死を受け止められないシンジは、カヲルの家に宿泊。「君だけは綾波のことで心を痛めてないから」とカヲルはシンジに言われてしまう。

ハ

【バカ】
アルミサエル戦で自爆を選択したレイに対するカヲルの言葉。シンジに言うと「前歯全部折ってやる!」と激昂される。その後、シンジは過呼吸に陥り、カヲルにもたれかかるようにして倒れる。そのほか、シンジにバカと言った相手といえば、おなじみなのは「あんたバカァ?」「バカシンジ」のアスカである。

【美少年】
カヲルはコミックスの登場人物紹介にて「フィフス・チルドレン。生年月日がセカンドインパクトと同一日という他、それ以外の情報は抹消済みという謎に包まれた美少年」と書かれている。これにより、カヲルが「謎の美少女」レイと「完全無敵のパーフェクト美少女（性格以外）」アスカに匹敵する〝美〟をもつ少年であることがうかがえる。ちなみに「美少年」といえば、熊本県・美少年酒造の銘酒の名でも知られるが、その由来ともなったという漢詩の一節は、まるで輝くばかりに高潔なカヲルの姿を讃えているようでもある。
「宗之瀟灑美少年／挙觴白眼望青天／皎如玉樹臨風前（崔宗之はすっきりとあか抜けた美少年／盃をあげて目を見開き青空を見つめるその姿は／まるで白く美しい樹木が風に吹かれているようである）」（杜甫『飲中八仙歌』）

【ひとつになりたい】
STAGE.65 タイトル。アルミサエルを介し、綾波の心がカヲルに流れ込む。初号機に危険が及ぶことを恐れた綾波は……。

A素体廃棄所、射撃訓練所、MAGI（マギ）など、ネルフの最重要施設がここにある。名前の由来は生物学用語のセントラルドグマから。

【惣流・アスカ・ラングレー】

セカンド・チルドレン。弐号機パイロット。抜群の操縦センスをもつ少女だが、カヲルにしてみれば不完全なパイロットといえよう。カヲルはシンクロ率の低下に悩むアスカに「エヴァは心を開かなければ動かないよ」とぶしつけに指摘して彼女を激昂させてしまう。常にエヴァとシンクロできるカヲルにしてみれば、軽い気持ちのアドバイスだったのかもしれないし、もしくはその後の結果を見越していたと見ることもできる。その言葉はアスカのプライドを刺激し、自分に代わる「フィフス」が現われたという危機感とともにアラエル戦において心を乱す一因となる。そしてその不安は的中し、敗退し廃人と化した彼女に代わりカヲルが弐号機のパイロットを引き継いだ。

タ

【第壱中学校】

第3新東京市立第壱中学。シンジの所属する2年A組には、エヴァのパイロット候補が集められている。シンジと出会ったカヲルがいちばん最初に「連れてって」と頼む場所。しかし、それ以後カヲルが立ち寄ることはなかった。

【第九】

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲の交響曲。正式な名称は『交響曲第9番ニ短調作品125』だが、日本では『第九』と呼ばれ親しまれている。シンジと出会った際、カヲルが「さっき町歩いてる時聞いた」からとピアノで弾いていた曲。曲名を訊ねられたシンジは「『第九』（だと思うけど……）」と答える。

【辿りついた境界線】

STAGE.73 タイトル。初号機と弐号機が激しくもつれ合い戦闘。しかし、アダムとされていたものがリリスであったことを知ったカヲルは接触を中止。みずからの意志で、初号機に扼殺されることを請う。

【タブリス】

TABRIS。第12使徒でありカヲルの正体（アニメ版では第弐拾四話に第17使徒として登場）。名前はユダヤ・キリスト教伝承の「自由意志」を司る天使に由来する。ゼーレによってネルフに送り込まれたが、最後はみずから望んで初号機によって扼殺される。

【distance】

STAGE.62 タイトル。何を考えているのかわからないカヲルのことを、シンジは好きになれない。一方、カヲルは綾波と初めて顔を合わせる。

【敵】

使徒であることが判明したカヲルを指し、シンジが用いた単語。「敵のくせにどうして僕になれなれしく近づいたりしたんだ」と憤る。トウジやアスカ、そしてレイと、仲間と思っていた者たちをひとりひとり失っていくなかで、無意識のうちに惹かれ、拠りどころとなりつつあったカヲルという存在の真の姿は、シンジにとって受け入れがたいものだった。これまでの戦いで、本意ではないとはいえ仲間と思っていた他者を傷つけてきたシンジにとって、傷つけられることよりも傷つけてしまうことのほうが回避したい事態でもある。

【手のひらの記憶】

STAGE.74 タイトル。葛藤の末、シンジはカヲルの最後の願いを受け入れる。

【デュアルソー】

大型破砕兵器デュアルソー。その名のとおりチェーンソーが二重になった形状をしている。弐号機に搭乗したカヲルが、スナイパーライフルの効かないアルミサエル戦で使用。C833エリアにて装備。その戦いでカヲルはデュアルソーに物理融合したアルミサエルに（弐号機の）左足を切断されている。

【ドール】

STAGE.60 タイトル。アラエルに精神攻撃を仕掛けられ、アスカはトラウマをえぐり出されてしまう。

【友達】

カヲルがシンジに求める関係。人間

【白猫】
カヲルと出会った際、シンジが抱いている動物。お腹をすかせてシンジになついた子猫だったが、「飢えて苦しんで徐々に死ぬよりも今殺してやったほうがいい」と考えるカヲルに絞め殺されてしまう。のちにカヲルは、シンジに「あの時のネコみたいに」その手で殺してほしいと願う。望みを受け入れないシンジに対し「自分が罪悪感にさいなまれるのが怖いからだろう？　僕のことはこれっぽちも考えてない」と指摘したカヲルからすれば、猫にとってよかれと思っての純粋な行為であるといえる。なお、扼殺シーンでは野原で猫を殺したのと同じようにシンジがカヲルの首を絞めるというシチュエーションが心象風景として広がる。

【シンクロ率】
搭乗しているパイロットとエヴァの同調率のこと。シンクロ率が低いとエヴァを思い通り動かせず、高すぎると自我が消失して融合に近い状態になる。エヴァと同じくアダムから生まれたカヲルはこれを自由自在に操ることが可能で、コアの書き換えをすることなしにアスカの弐号機とシンクロする。

【好き】
アルミサエルにレイの思念を流されたカヲルが興味をもつ感情。「人が人を好きになるってどんな感じ？」「触れ合いたいとか、唇を重ねたいとか、失いたくないとか、どんな感じのものなの？」「なま温かでドロッとしてて気持ち悪くて、ゆっくり胸をしめつけてくるような…　あれが好きってこと？」とシンジに詰め寄る。

【好きじゃない】
自分のことをどう思っているか問うカヲルに対しシンジが放った言葉。「それは、前のことだろう？」と詰め寄るも、カヲルはシンジに拒絶されてしまう。

【正鵠を射る我々の切り札】
ゼーレが、使徒タブリス＝カヲルをネルフに送り込む際に用いた言葉。「正鵠」とは弓の的の中心にある黒点で、「正鵠を射る（せいこくをいる）」とは物事の急所などを正しくおさえるの意。つまり、カヲルは人類補完計画を成し遂げるべく、ゼーレがネルフに向けて放った確信的な存在であるといえる。ゼーレの支配から脱しようと目論むゲンドウにとっては脅威の存在となるはずだが、なぜかゲンドウは大きな動揺は見せなかった。

【正統な継承者】
ゼーレによると失われた白き月より生まれし使徒のこと。その始祖たるアダムの魂は、サルベージされカヲルの中にある。一方、再生されたアダムの肉体は、ゲンドウがその体内に取り込んだ。

【制服】
学校や会社など、ある組織の所属者が着用を義務づけられた服のこと。シンジと同じ制服を身にまとったカヲルは、「その制服、第壱中学のだね」と言って学校へ案内するよう頼む。本作では、セカンドインパクトの影響で季節が夏のまま変わらないため、夏服のみ描かれる。カヲルは、片ポケットで半袖の開襟シャツに、下着としてオレンジのTシャツを着用。シンジが肩掛けカバンを下げているのに対し、荷物の類を持たず手ぶらである。グレーの学生ズボンで、裾をハイカットタイプのスニーカーの中に入れている。また、そのポケットにいつも両手を入れている。

【セッケン】
シャワールームにて、カヲルが「（自分のは）ちっこくて使えない」とシンジのを借りようとしたもの。だが、狭い空間に突如押し入られたシンジは「好きでもない人間に必要以上近づかれるのは誰だって気持ちのいいものじゃない」と不快感を露わにする。結果として、カヲルはシンジに「好きになれそうにない」と言われてしまう。ただ、そんな辛辣な言葉を吐いたシンジも、その場を去ったあと「振り回されっぱなしですごく疲れる…」とトホホ顔をしていることから、そこまで深刻な意味合いではなかったのかもしれない。

【セントラルドグマ】
ジオフロントの中心部に位置する場所。カヲルが弐号機とともに使徒として侵入を果たした領域。ターミナルドグマ、ダミープラグ開発所、EV

カヲル学 03

裏切りの友



同じ汽車に乗り、同じ風景を見て、同じ時間を過ごしていたはずなのに、カンパネルラは、ジョバンニを置いて去ってしまう——。

宮沢賢治の有名な童話『銀河鉄道の夜』のジョバンニとカンパネルラは、シンジとカヲルのアーキタイプ（原型）ともいうべきキャラクターではないだろうか。

母と2人の生活を、放課後に印刷工場で働くことで支えるジョバンニ。一方、カンパネルラは裕福な家に育ち、ジョバンニとは幼なじみだったが、最近2人の関係は間遠になっていた。2人の年齢は作中に描かれていないが、推定するに10代前半ぐらいではないだろうか。

だから2人して銀河鉄道に乗ることができた時、ジョバンニは喜び、途中から銀河鉄道に乗車した少女がカンパネルラと親しくすると、嫉妬さえする。

少年の自分を唯一理解してくれる友人への恋着。それはジョバンニだけのものではなく、10代前半の少年少女が常に心に抱えている気持ちでもある。その点で、カヲルの言葉に照れて頬を染めたシンジはジョバンニによく似ている。

そして、その恋着が「友人の覚悟」によってやがて裏切られる。

カンパネルラは銀河鉄道を降りて、みずからの求める天上へと歩んでいこうとする。カンパネルラとどこまでもともに歩めると思っていたジョバンニは、カンパネルラの指さす天上がそのように見えず困惑し、取り残されてひどく衝撃を受ける。シンジもまた、心を通わせたカヲルが人類とは相容れない使徒であったことを知り、激昂する。

どちらも「裏切る側」は最初から相手とともに歩むことなどないとわかっていた。だからカンパネルラもカヲルも、悪意や意志の弱さなどとは無関係に、ごく自然な当たり前のこととしてジョバンニを、シンジを裏切る。そして残されたジョバンニもシンジも、友達の裏切りがなにを意味するのかすぐには把握することができない。



ジョバンニが別れを直感した瞬間、シンジの言うように「なにを言っているのかわからないよ!」と叫んでもなんの違和感もない。このようにカヲルとシンジの関係はカンパネルラとジョバンニの関係ときれいに重なり合っている。カヲルとシンジは、ジョバンニとカンパネルラの関係の変奏と考えることができるのだ。（藤津亮太）

るネルフはともに戦っているとされてきた。しかし、その欺瞞は露見しつつある。

【最後のシ者】

STAGE.72 タイトル。カヲルが弐号機を操りセントラルドグマを降下、アダムへと向かう。初号機のシンジはカヲルが使徒であったことに憤激し、追撃。

【最後の願い】

カヲルが望むもの。シンジに殺されること、すなわちシンジの手によって解放されること。「最後の願いなんだよ。僕のことを少しでも好きなら叶えてくれ」とシンジに頼む。シンジやレイとのかかわり合いの中で、人の心にあこがれるようになったカヲルが、最後の願いと称してシンジの気持ちを問うたともいえる。

【冴えない顔】

ゼーレ側からのカヲルに対する言葉。「僕の顔なんかどうでもいいだろ?」とカヲルはクールにかわす。その表情の原因はシンジの拒絶。シンジはカヲルに「君とは友達にならない」と言い放つ。「僕が聞きたいのはそんなことじゃない!」「僕が聞きたいのは、君が僕をどう思っているかってことだよ」と食い下がるカヲルに「放してくれよ」と心を閉ざしたのだった。

【サルベージ】

本来は海難救助を指す言葉である。「サルベージされたアダムの魂は君の中にしか存在しない」とゼーレはカヲルに言う。

【仕組まれた子供】

セントラルドグマの中で、相対したシンジに対し、カヲルがみずからを指し示すときに用いた言葉。人類補完計画というシナリオを遂行するためにゼーレにつくられ、フィフス・チルドレンとしてネルフ本部に送り込まれた我が身のこと。「これは僕の運命だ。僕は最初からこの時のために生まれ仕組まれた子供だから」とシンジに語る。

【シナリオ】

ゼーレによる人類補完計画の筋書き。「消えるのはそっちだとシナリオにはそう描かれてるんだ」とカヲルがアルミサエル戦にてつぶやいている。第11使徒を倒した後、アダムをめざすことが綴られていたものと予想される。

【シャワールーム】

アニメ版の大浴場に対し、漫画版のネルフではひとりずつ仕切られたシャワースペースが設けられている。カヲルは、シンジがシャワーを浴びているところにいきなり押し入って驚かせた。実は、カヲルがヌードで登場するのはこれが2回目。7巻にゼーレのもとで全裸の姿で保管されているカヲルのカットがある。

【自由】

カヲルに残されたもの。ゼーレの描くシナリオのうえに生まれたカヲルにとって、絶対的な自由とは、自分の意志で死の選択をすることのみ。シナリオどおり、サードインパクトを起こそうが起こすまいがカヲルという個体は消失する。だからこそ、「君が少しでも僕のことを思ってくれるなら君がその手で消してくれ」とシンジに頼む。しかし、そもそもカヲルがめざしていたアダムは、実はリリスだったことがこの直前に発覚している。その背景を踏まえると、それを知ったカヲルの選択肢はこの場合、初号機に殲滅される以外なかったともいえる。

【消滅】

STAGE.48 タイトル。ゼルエルにより零号機と弐号機が大破し、初号機が覚醒。シナリオ外の展開に危惧を感じたゼーレは、切り札である最後の使徒「タブリス」を目覚めさせるのだった。

【女子トイレ】

カヲルとアスカが初めて出会った場所。カヲルはアスカのひとり言が聞こえてきたためのぞいたのだが、その結果チカン呼ばわりされてしまう。異性を異性と意識しているようには思えないカヲルに「女子トイレ」という認識がはたしてあったのかどうかは……?

【白き月】

そこから生まれる使徒こそが、神の正統なる継承者だとゼーレは言う。

の意味をもつ言葉を否定しているので、二重否定のレトリックともいえなくもないが、ハッキリしないあいまいな表現。しかし、こと恋愛などの特定のシーンではその不安定さが逆に魅力と映る場合もある。

【首のない天使像】

ゼーレより最後の命令を受けたカヲルが立っている彫像。9巻の巻頭カラーイラストでは、黒猫を抱いて腰掛けている。ギリシャ共和国・サモトラケ島で発見され、パリのルーヴル美術館に所蔵されている「勝利の女神・ニケ」像と似ている。何をもって「勝利」とするのか明確にならないまま戦いつづける本作においては、皮肉な存在であるともいえよう。貞本義行氏曰く「(ニケを参考にしようと思ったが)当時、なかなか立体的に把握できる資料が見つからなくて。幸い、友人が写真をもっていたので貸してもらった」とのこと。

【グランド・ピアノ】

廃墟でカヲルが弾いていたもの。グランド・ピアノは、アップライト・ピアノに対してサイズが大きく音の響きも良い。シンジはその音色に誘われ、カヲルと出会った。そのときカヲルが弾いていた曲が、ベートーヴェンの『交響曲第9番』。いわゆる『第九』である。

【黒き月】

そこから生まれた人類は、神の偽りの継承者だとゼーレはいう。

【黒猫】

コミックス9巻巻頭カラーイラストにて、首のない天使像に腰掛けたカヲルが抱いている動物。黒猫は魔女の使い魔としてよく登場する。欧米では古くから不吉の象徴とされ魔女狩りをされたり、その影響か日本でも「黒猫が前を横切ると悪いことが起きる」といわれることが多い。しかし、昔の日本では魔除けの象徴ともされ、愛着をもたれていた。作中に黒猫は描かれていないが、ミステリアスな空気をまとってシンジたちの目の前に突如現われたカヲルのイメージに重なるものがある。

【交錯】

STAGE.68 タイトル。綾波生存の報を受け、シンジはカヲルの部屋から出て行く。しかし「3人目」だと名乗る綾波は、以前と様子が違っている。

【心届かず】

STAGE.66 タイトル。アルミサエル撃破のため綾波は自爆を選ぶ。深い喪失感に襲われるシンジ。カヲルの心ないひと言に激昂する。

【心の壁】

カヲルがA.T.フィールドを説明するときに用いた言葉。「何人にも侵されない聖なる領域」であり「誰もがもっている」という。

【ごめん】

カヲルの部屋に何日も泊まり込んだシンジが去るときに言う言葉。カヲルは「ほんとはそんな事思ってないんだろ?」と冷笑する。レイが死んだと思い落ち込んで部屋に入り浸っていたのに、レイが生きていることがわかった途端に部屋を去るという、極めて男の子らしいともいえるデリカシーのない行動をするシンジに苛立つカヲル。その後、読んでいた雑誌を床に投げつける。

【こんなトコに来るはずじゃなかったのに】

廃墟にいたカヲルの言葉。転校生かという問いを曖昧に肯定し「道に迷った」としながらも、シンジが学校へ行くのをやめると「君が行かないなら僕も行くのやめたよ」と言って呆れさせる。そして、本来の目的地であるネルフへと向かうのだった。明確な使命をもってシンジの前に現われたはずのカヲルだが、あきらめを含んだせつなさが感じられるセリフであり、また、運命の人物へのテレも感じられる。不確定性を言語化することで、2人に起こるであろう予定調和な未来を遠ざけようとしたのかもしれない。

サ

【サードインパクト】

当初は、アダムと使徒を物理的接触させると起こる、人類を破滅に導く大爆発のことだと言われ、それを阻止するために、ゼーレとゲンドウ率い

無邪気さの表われではないだろうか。

【運命】
カヲルが背負うもの。カヲルの運命とはゼーレの描くシナリオと同義。アダムに接触し、サードインパクトを起こすために生まれてきた。しかし「自らの意志で運命に逆らうこともできる」とカヲルは言う。また『運命』といえば、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの『交響曲第5番ハ短調』の日本の通称でもある。

【A.T.フィールド】
カヲルはこれを「何人にも侵されない聖なる領域。心の光」と呼び、さらに「誰もが持ってる心の壁」であると言う。アルミサエル戦では正体を伏せるためにカヲルは A.T.フィールドを発動させせなかった。

【evian】
ミネラルウォーター。綾波レイが死んだのち、過呼吸で倒れたシンジを運び込んだ医務室の冷蔵庫からカヲルが取り出した。「アシスタントにちょっと水を買ってきてと頼んで、届いたのがevianだった」※貞本義行インタビューより

【エヴァンゲリオン初号機】
ネルフが所持する人型兵器で、正式名称「汎用人型決戦兵器　人造人間エヴァンゲリオン　試験初号機」。タブリス＝カヲルが操る弐号機を撃退し、殲滅させた。

【エヴァンゲリオン弐号機】
ネルフが所持する人型兵器で、正式名称「汎用人型決戦兵器　人造人間エヴァンゲリオン弐号機」。弐号機はエヴァの量産化を前提として開発された。アラエル戦で廃人と化したアスカに代わり、カヲルがパイロットとなる。その後、カヲルに操られセントラルドグマへ侵入。初号機に追撃され活動停止する。

【応戦】
STAGE.63 タイトル。アルミサエル襲撃。零号機と弐号機が迎撃に出る。カヲルは驚異的な戦闘センスをみせるが……。

【おもしろい事】
「なんだかおもしろい事になってきたね」とは、アラエルの心理攻撃によるアスカへの精神汚染が始まった際のカヲルの言葉。ゼーレの描くシナリオを知るカヲルにとって、予定調和の展開であったのだろうか？　高みの見物としゃれ込んでいるかのような発言。それを聞いたシンジに「なにがおもしろい事なんだよッ」と胸ぐらをつかまれる。

カ

【過呼吸】
過度のストレスにより起こるシンジの発作。体内の炭酸ガスの必要量が減り、アルカローシスの状態をきたす。カヲルの前で、度々起こした。一般的な対処方法は、ペーパーバッグ法。紙袋などを口にあて、吐いた空気を再度吸い込むという行為をくり返し、血中の二酸化炭素濃度をあげる。カヲルの行なった人口呼吸による対処方法というのは、ポピュラーではないが、リラックスできストレスが緩和できるという点で、恋人同士であれば有効な手段であると言えるかもしれない。

【キス】
接吻。過呼吸の対処法としてカヲルがシンジにしたこと。レイとは握手、アスカとはキス未遂で終わっているシンジのファーストキスとなる。

【奇妙な生き物】
カヲルが人間を指すときに用いた言葉。他人のことで必死になるシンジをして「奇妙な生き物」だと訝しがりながらも「見てて飽きない」と興味を示す。人間からすれば、さまざまな姿形で現われる使徒のほうがよっぽど奇妙である。

【拒絶】
STAGE.58 タイトル。シンジは、転校生らしきカヲルを学校へと案内。しかしシンジが帰ろうとすると、今度はネルフへ連れて行けと言い……。

【嫌いじゃない】
シンジのカヲルへの気持ち。「嫌いだなんてひと言も言ってない」とシンジに言われ、カヲルは澄んだ微笑を見せる。「好き」というワードには至らなかったものの、その本心はその後のシンジの行動に表される。否定

DICTIONARY OF KAWORU COMICS Ver.

９巻から１１巻まで、圧倒的な存在感を見せつけたコミックス版の渚カヲル。アニメ版に比べて登場シーンが多い分、たっぷり増量した彼にまつわるエピソードを、関連用語から一気に振り返る!

ア

【アダム】
サキエルからタブリスまでの使徒を生み出した生命の起源のひとつといわれる。名前の由来は、ユダヤ・キリスト教伝承により最初の人間（男性）であるとされるアダムから。南極で発見され、卵に還元する際に覚醒し、その際に起きた衝撃が、セカンドインパクトだという。その後、肉体は胎児状にまで復元され、ゲンドウの体内に取り込まれた。そのサルベージされた魂はカヲルの中に宿っている。

【アダムの末裔】
STAGE.71 タイトル。カヲルは、自分をどう思っているのか答えるようシンジに迫る。拒絶するシンジ。そしてゼーレはカヲルに希望を託す。

【綾波レイ】
ファースト・チルドレン。零号機パイロット。レイの深層心理は水と光によって構成されており、その体のスペアパーツが大量に生産されていた。作品では3人のレイが登場している。カヲルはレイ本人に会う前に、彼女の搭乗した零号機がロンギヌスの槍を投てきする姿を見ているため「もっとゴツイ女の子かと思ってた」と言う。そのレイとはシンジに対し恋愛感情をもつまでに成長していた2人目のレイ。レイを自分と同じ存在だと思っていたカヲルだが、レイに違うと言われて驚く。のちに、それまでの経験を失って現われた3人目のレイに「同じ感じがする」と言われたカヲルは、以前彼女が自分を拒絶した言葉で返答。つまり2人の違いとは、シンジに心を動かされたという経験の有無にほかならないだろう。

【アルミサエル】
第12使徒（ただし、TV版では第弐拾参話に第16使徒として登場）。二重螺旋の円環構造をした侵蝕型。名前の由来はユダヤ・キリスト教伝承の「子宮」を司る天使アルミサエルより。カヲルのデュアルソーに侵蝕し、カヲルの搭乗する弐号機の左足を切断した。その後、レイの搭乗する零号機に侵蝕、融合、その感情をカヲルに流し込んだ。零号機の自爆によって殲滅。

【碇シンジ】
サード・チルドレン。父・碇ゲンドウによって突然ネルフに呼ばれて初号機パイロットとなった。カヲルにとっては、初めはゼーレから「張り付け」という命令を受けた対象でしかなかったが、しだいに興味を感じる存在に。使徒・アルミサエルを介してシンジを想うレイの心を共有したのちには、「もし君が僕を好きになったらどんな気分になるんだろう」と迫る場面も。最終的には、シンジにとって忘れられない存在になるべく、彼の手によって絞め殺されることを願う。

【異常接近】
親しくもないのに顔をのぞき込むように話しかけてくるカヲルに対してシンジが抱いた印象。「なんでこいつこんなに異常接近するんだ?」とシンジは動揺するが、カヲルはなぜ一定の距離内に入るといやがられるのかが理解できない。他者に興味をもたないカヲルにとって、一瞬の関心をそそられた対象に接触しようとするのは自然なこと。漫画版のカヲルがもつ

フィールというか、履歴書みたいなものなんですよ。ひと言で言えば「僕、こういう人間です。わかってくださいよ」ということに、尽きる（笑）。多かれ少なかれ作品というのはそういうものだと思いますけど。でも特に庵野さんは、絶対に嘘をつかないというか、いつも〝現状〟を描いているんだと思っています。「自分はこうです。今はこうです。ここまでわかりました」というのを真摯に描きつづけているんだと思います。

――同じように漫画版では貞本さんご自身のことを反映されていくのでしょうか？

いや、僕は庵野さんのように他人に語るべき人生を送ってるわけでもないので（笑）。自分を全面に出すという方向には行かないとは思うんだけど……ただ、庵野さんの作品を僕がそのままトレースしてもしょうがないので、僕は僕なりにテーマを考えて、少し違うアプローチで描いていくしかないんじゃないかなあと思っています。『エヴァ』にもいろいろなラストがあると思うけれど、これもまた違ったものになるんじゃないかと思います。エンターテインメントというのは作品であるという以前に刺激物という側面が強いので、以前と同じことをやってもしかたがないですから。と言っても、まったく違うものにしちゃったら、それは『エヴァンゲリオン』じゃなくなってしまうので、つかず離れず。同じように見えて違う、また違った情景が見えてくるというようなものにしていきたい。まあ、そういうスタンスは今回の新劇場版も同じだと思いますけどね。

――TVシリーズのカヲル、漫画のカヲル、新劇場版のカヲルと並べて見てみると、やっぱりそれぞれに個性がありますね。

時代性の問題もあると思うけど、変化していってるよね。『序』のカヲルシーンの原画を僕が担当したせいもあって、新劇場版のカヲルは、髪型や雰囲気が漫画版のカヲルに近い感じになっていますしね。後ろハネがちょっと大きくて、さらにクールな感じ。あ、あと、そこには『時かけ』（『時をかける少女』／貞本がキャラクターデザインを手がけた長編アニメ映画）の千昭の要素も入ってるかも（笑）。千昭は高校生なので、顎とかをがっしり描いてるから、またちょっと違う雰囲気なんだけど。

――実際に、カヲルのような友達がいたら、どう感じると思いますか？

自分のことにこんなに興味をもってくれる友達がいるということは、幸せなことだとは思いますね。でも、あんまりベタベタされたら、うっとうしいと思っちゃうかもしれない（笑）。基本的に友達って、ずうっと連絡とってなくて久しぶりに会っても、いつでも昔のまんまのテンションで話せるみたいな関係が理想だとは思いますからね。僕も、この業界と全然関係のない生活をしているような学生時代の友達と会うのが楽しかったりしますから。ただ、さっきも話しましたけど、小学生くらいで出会ってたらあこがれてたと思うね！　そういえば、カヲルってわりと小さい男の子からの人気も高いような気がする……。知り合いの息子さんに、まるっとした体の大きい小学生の男の子がいてサインを頼まれたんだけど、「何を描いてほしい？」と聞いたら、カヲルを指名するんだよね。「かっこいいから」だって。その子には3回くらい会ってるんだけど、会うたびにカヲルのイラストをねだられるの。ほんとに好きなんだなあと思ってうれしいんだけど、まさに男が男にあこがれるのってこういう感じだよなって思うんだよね。

――最後に、新劇場版でのこれからのカヲルの活躍についてお聞かせください。またこれまでにない新しいアプローチをシンジに仕掛けてくるのでしょうか？

そうですねえ。すでに『序』でのシーンから、かなり含みのある立ち居振る舞いをしてますからねえ。もちろん『破』にも……。今はまだ「お楽しみに！」としか言えず申し訳ありませんが、これからもどうぞ渚カヲルをよろしくお願いします。

貞本義行●さだもと・よしゆき／漫画家、キャラクターデザイナー、アニメーターとして幅広く活躍。キャラクターデザインとしての代表作に『王立宇宙軍～オネアミスの翼』『ふしぎの海のナディア』『新世紀エヴァンゲリオン』『トップをねらえ2！』『時をかける少女』などがある。月刊少年エースにて漫画版『新世紀エヴァンゲリオン』を連載中。『ヱヴァンゲリヲン新劇場版：序』では主・キャラクターデザインを務めるほか、作画監督としてカヲルシーンの作画をすべて担当した。





るシーンがほぼ静止画でおよそ60秒も続くという印象的なものでしたが、漫画版ではゆっくりと両手で包みこんでいくような描写になっていますね。

一瞬、漫画でもアニメと同じようにページを開いても開いても、エヴァがカヲルを握ってるコマが続くというのを考えたんですが（笑）、ちょっとギャグっぽくなっちゃいそうなのでやめました。結局、弐拾四話に匹敵するものっていうのを考えたら、ああなりました。シンジはかつて猫を殺したカヲルのことを激しく非難したわけだけど、それと同じことを、シンジもまたカヲルに対して行なうんですね。ちゃんとみずからの手で、両手で祈るように、握る……そうして初めて、最後に少しだけシンジはカヲルのことを理解することができたのかもしれないと……。

――TVシリーズでは使徒として死への自由を願ったカヲルですが、漫画版では好きだということの証明としてシンジに行動を求めていますね。

「好きだったら殺してよ」という、ね。要するにカヲルにあるのは、好きだって言ってほしかった、わかってほしかった、忘れないでほしいっていうシンプルな想いなんだと思う。なのに、シンジは最後まではっきり言ってあげなかったけどね（苦笑）。ただ、シンジが最後にカヲルにしたことというのは、シンジの中でいつまでも飲み込めないものになるんだと思う。

――「僕のことをイヤでも忘れられないだろ?」と問われて「きっとそうだ」と返してはいるように。

うん。どんなに考えて決断したとしても、「だけど……」という想いはずっと残る。カヲルの殺した猫の話もそうだけど、カヲルがしたことってよかったことなのか悪かったことなのか、結局わからないですよね。そうやって人生にはあらゆる選択肢とか価値観が転がっていて、はたしてどうすることが正解だったのかわからないことって山ほどあるじゃないですか。答えなどないということは頭ではわかっているのに、ずっと頭に引っかかっていて、常に考えてしまうことってありますよね？　そういうことが、僕の中ではわりと毎回テーマとして立ち上がってきます。『エヴァンゲリオン』以前の漫画を描いているときから、考えつづけているんです。答えがないということは、非常に不安定なものなんですけど、でもその不条理こそが人生の条理だと思うので、だからその要素はいつも入れるようにしてるんですね。たとえば――僕、ずっと猫を2匹飼っていて。1匹が亡くなってしまうとまたどこからか1匹連れてきて……という感じなんですけど、前にいた猫がね、ずっと家猫だったんだけど、そのうち外に出るようになって。初めは庭でうれしそうに遊んだりしてて、そのうちもっと遠くへ遊びに行くようになってね。そうしたらある日、家のすぐ前で車にひかれて倒れてしまっていて。虫の息でだんだんと硬くなっていくその子を抱きながら、「この子は幸せだったのかなあ」って思って。外に出したことがよかったことなのか悪かったことなのか、自分でもわからなくなってしまった。「幸せだったに違いないと思うようにしよう、でも……」とずっとぐるぐるしているんですよ。答えがないのに、いつも考えてしまうこと……いや、答えがないからこそ、ずっと考えるしかないんだと思うんだけど、そのせつなさというのが人間だなあと。

――「答えがないから考えてもしかたがない」と言って忘れてしまうのではなく……。

うん。心に留めて考えつづけるということが〝想い〟の強さなんじゃないかなと思っています。

――カヲル亡き後、漫画版の今後の展開はどうなっていくのでしょう?

カヲルが最後の使徒なわけですから、これからは人間同士の戦いになるんでしょうね。ドラマの部分でいったら、どうしてこのストーリーが始まったのかというところに還っていくような気がします。つまり、『エヴァ』のスタート地点というのは、父親に呼び出されて戦う少年の話、なんですよ。親に期待されてるとか、期待されてるようでされてないとか、少年が親を意識しつつどうやってひとりの人間として生きていくのか。そんなところを描いていくことになるのではと思います。たぶん、旧劇場版の流れと同じようになりつつも……でもあれは庵野さんの作品だからね。つくられた時代も違うし、つくってる人も違う。アニメ版『エヴァ』というのは、結局、庵野さん自身の「僕はこういう人ですよ」っていう名刺というか、プロ

いうのは、手と手が触れ合うレベル止まりなんです。毎回、手が触れるということの意味合いが違っていくところが、『エヴァ』のおもしろいところでもあるし……。だからあえてそれ以上、チルドレンたちの関係を進めようとは思わない。だから逆にカヲルは唯一その一線を越えてくるイレギュラーな存在ですね。あと、使徒は一度に2体以上は襲来しないという設定だったのに、どうなってるんだ!? みたいな、そんなところも特殊ですよね（笑）。……いや、自分の中では言い訳を用意してたりもするんですよ？ こいつは使徒といっても特殊だから、とか。

——使徒の数もTVシリーズとは違いますね。

漫画版には入りきらないというのもあって、少なくなってます。番号とかはねえ、もういつもネームを切るときに「えっと」と数えながらやってます。たまに数え間違えたりもしつつ。

——ええ（笑）。

そこはあんまり深く追及しないでほしいところではあります（笑）。僕はSF的な設定みたいなのにはあんまり興味がない人間なんです……。

——でも反面、漫画版ではキャラクターの感情曲線というか、ドラマの部分がすごくていねいに描かれていて。スムースに感情移入できるので、物語にのめり込んでしまいます。

ありがとうございます。ただ、かといって、漫画版がTVシリーズ版を説明しているのかといえば、そうじゃないんですよ？ 漫画はあくまで僕が「こうかな？」と考えた物語であって、それはひとつの解釈に過ぎないし、答えではないから。たぶん、僕がかみ砕きながらやってるということもあって、わかりやすくなってる部分もあると思います。でも、わかりやすくなることが『エヴァ』にとってよいことなのかどうかはわからない……。

僕は、あまり微妙な表現をして、伝えたいことが伝わらないのはいやだなあと思っちゃうので、どうしてもわかりやすくしちゃうんだけどね。ただたびたび、「でも、これ少年漫画だよなあ！」ということを思い出しては、気を楽にしたりもしますね（笑）。

——漫画版で思い入れの強いシーンはありますか？

シャワールームの場面は好きですね。庵野さんの十八番の銭湯ではなく、シャワーに置き換えた。なんかこのシチュエーションでおもしろいシーンをつくれないかなあ、という。究極に無防備になる場所ともいえるパーソナルスペースに立ち入って、狭い中でぐんぐん近寄ってくるというのは、実にカヲルらしいなと思うしね。あと廃墟の中でピアノを弾いているという妙さとか、シンジが部屋に来てウダウダ言ってるときの態度も気に入ってます。「勝手にすれば？」とか言いつつ、「ベッド半分使っていいよ」とちょっと優しくするあたり、かわいいじゃないですか。

——部屋と言えば、カヲルはよく自室で本や雑誌を読んでいますが、そんな中で「Pen」を読んでいるのが確認できますね。これもまたカヲルの社会勉強なのでしょうか？

いや、深い意味はないです（笑）。こういうのは雑誌の枠だけ描いて、あとはアシスタントさんにお願いするんだけど、「スコラじゃちょっと違うし、じゃあこれで」って近くにあった雑誌を渡したんだと思いますよ。「evian」を飲んでいたりするのも、そんな感じですね。「evian」か「Volvic」そこのコンビニで買ってきてと頼んだら「evian」が届いたので「evian」にしました。まあ、水というのがわかればよかったんです。

——それにしても、TVシリーズでは1話のみの登場だったカヲルのエピソードがここまで膨らむというのは、やはり貞本さんの中でカヲルというキャラクターの存在が大きいからなのでしょうか？

どうだろうな。特定のキャラに思い入れがあるということはないんだけど。ただ、カヲルの場合は、あの猫のシーンからスタートした以上は、最後にもまたあの猫のシーンに重なるシーンに戻ってこなくちゃ、とは決めていました。だからそのラストにたどり着くまで描きつづけたという感じ。逆に言えば、どうやったらそこに行けるかというのを逆算しながら、そこまでのシーンを組み立てていったというところがあります。それまではただの猫殺しかのように言われてたわけですが（笑）、ようやくつながったときには自分でもうれしかったですね。長かったよね。まさか3巻にもわたるとは思ってなかったんだけど。

——TVシリーズ弐拾四話のラストは、初号機が片手でカヲルを握ってい

迫ってきていて、干渉しようとしてきている。カヲルというのはその使徒の最終形で、ついに人間の姿になって近づいてきたもの。なんだけど、基本的には人間のことがよくわかってない。だからすごく好奇心旺盛で「人間ってどうしてそういうことするの?」って興味津々なんだよね。カヲルは常に、すごくプリミティブで純粋な気持ちで行動してるんだと思うんですよ。

——登場シーンの猫のエピソードからして、衝撃でしたが。

あれ、よく残虐とか言われてしまうんだけど、そういうつもりで描いたわけではないです。幼少期特有の残酷さというよりは、カヲル本人が言っていることそのままだけど、本当にあの猫を想ってああしたんだよね。かわいそうだと思ったから、殺してあげた。もちろん、シンジから見たらひどいこと以外の何ものでもないし、「信じられない!」って感じなんだろうけどね。漫画版では、もともとあった設定を意識して、子供っぽいカヲルってどんな感じなのかなって考えてつくりました。僕の中にはずっと、無邪気なカヲルのイメージというのが強く残っていたから。シンジとの関係も、小中学生の男の子同士によくあるような関係を描いているつもり。男って、女の子にあこがれるよりも大人っぽい男友達にあこがれたりするからさ。そいつの仕草をまねしてみたりとか、僕にもそういうことありましたからね。小学5年のときに東京からの転入生が来て、「東京もんが」って思うんだけど、やっぱり垢抜けて見えて、みたいな。「だからさー」の〝さー〟の言い方に対しても「うわっ気持ちわりい」とか言ってるんだけど、かっこよく思えたり(笑)。なんかそんな感じなんだろうなあって。それは恋とも違っていて……。微妙な年ごろの微妙な感情なんだよね。

——ただ、そんな2人にも、アルミサエル戦後にまた動きがありますよね。

レイというキャラクターを介して、変わっていきますね。レイというのはカヲルと似た存在でありながら、シンジとの絆をもっていて。アルミサエル戦でレイは、自分が消えてしまうというタイミングになって初めて、みずからのシンジへの恋心みたいなものに気づくわけだけど、同時にその心がカヲルの中にも流れ込んでくるという展開です。レイの感情に触れて、カヲルはさらにシンジに対する興味を深くする。「人間が人間を好きになるって、どういうことなの?」と。

——シンジの態度もだんだん変化していきます。

レイを失って、アスカもダメになって、無意識のうちに他者を求めていて……という状況でカヲルと近づいていくんだけど、でもレイが生きてたってことになったら、すぐレイのところに飛んでいったりして(笑)、まあ、ゲンキンだよね。シンジにとっては、トウジみたいな仲間がいてくれればいちばんよかったんだろうけど、トウジも自分の手で殺したようなものだと思っているわけだから、もう素直に友達を求めることはできない。だから、口では「友達はもういらない」と言う。カヲルはカヲルで、レイの心が流れ込んでいる状態だから、半分はレイの感情に引っ張られているわけだけど、その心を以てして3人目のレイに嫉妬するという、ちょっと複雑なことになっているよね。変な三角関係。

——カヲルとシンジのキスシーンというのも、その複雑な想いから生まれたものなのでしょうか。

これは、ちょっと確信犯的に入れた部分もあるんですけどね(笑)。基本的にはキスはキスでも純粋なキスとして描かない、というところから生まれたシーン。何かで見たんですよね、過呼吸への対処法のひとつとして、ああやって口を使うというのを。これはキスシーンとして使えるなというのは、ずっと思ってたんです。ただ、やっぱり気恥ずかしかったので、ほとんど下書きをしないで描き上げましたね(笑)。それで、ペン入れの修正で原稿がホワイトだらけになってしまった。その後のカヲルの態度も照れ隠しですよね。「治った治った」と言ってふざけるのも。あれはカヲルの照れ隠しであり、僕の照れ隠しです(笑)。

——カヲルの率直な無邪気さとシンジと触れ合いたいというレイの気持ちとが混ざり合わさってできた行動なんですね。

まあ、実際のシンジとレイ、それからアスカもそうだけど、彼らの関係と

ヲル像というのができあがってきたんじゃないかって思いますね。これはどの回にも言えることですけど、『エヴァ』の脚本っていつも長めに書かれていたんですよ。まともにやったら2本分はあるような分量のものを庵野さんが削って成形するという流れだった。だから、没になったカヲルのシーンも、いろいろあったんじゃないかなぁと思いますね。

——キャラクターデザインをしたときに、外見的なモデルになっているものはありますか？

うーん、それはない。ただ、最後の方に出てくる使徒ということで、今までに使徒が接してきた人間の集大成みたいなデザインにしたら、どうかなというのは思ってた。だから、どこかしらシンジに似ていて、レイに似ていて、アスカに似ている……というふうになっています。あとは、色っぽさみたいなものはほしいなあと思ったので、鎖骨であったり腰であったりというところに少年ならではの艶っぽさを意識していますね。痩せているんだけど骨格はけっこうしっかりしてる。シンジとかぶらない方向で、よりかっこいい男の子という路線ではありますね。服装はね、ただの学生服なので特徴つけにくくて。トウジのジャージみたいなのだったら、まだわかりやすいんだけど、スタンダードな着こなしでシンジと差別化できる箇所といったら、Tシャツくらいでした。中学生の男の子が普通に着るものだと思いますけど、まあ、オレンジということで少し個性を出して。

——スニーカーはハイカットですよね。コンバースみたいな。中にズボンの裾を入れて履くのが、カヲル流。

やっぱりちょっと都会的でおしゃれな感じを、出したかったというのはあるのかなあ。けっこうね、今まで描いてきた男キャラって、『オネアミス』（『王立宇宙軍～オネアミスの翼』）もそうだし、『ナディア』（『ふしぎの海のナディア』）もそうだし、どこかしらダメなところがあるというか……。シンジもまあ頑張っているとは思うんだけど、結果的にダメ人間ふうじゃない？　そういう意味でカヲルは、めずらしいタイプだったんだよね。はなからかっこいいキャラで、ガイナックスでは求められてこなかったタイプの男キャラなんだよ。シャープな顎のラインとか、目線や口元……強いて言えば、ジャニーズJr.とかかな（笑）。具体的に誰というわけではないけれども、総体的なイメージとしてのジャニーズJr.。なんかね一回、TVシリーズ放送当時にジャニーズJr.の子たちと接する機会があったんですけど、本当に綺麗な肌をしてるし、かわいくてね。女の子みたいな顔だし、手足は細くて長くてまっすぐだし。ああ、男になる前の少年って、こんな感じなんだろうなって思った記憶がありますからね。

——貞本さんはTVシリーズ弐拾四話の制作には深くかかわっているのでしょうか？

僕は途中で漫画の連載も始まったので、TVシリーズ制作自体にはそこまでガッツリとは入っていないんですけど、弐拾四話では後半のレイアウトを手伝ってますね。現場は摩砂雪さんも含めて、すごいパニックになってて、「あと○○週間しかないんだよー！」とかいう中でとにかくカットを埋めなきゃって作業でした。

——できあがった弐拾四話を初めに見たときの感想とは？

いやあ、びっくり（笑）。第一声で何を言うんだろう？　と思ったら、アレですから。最初「歌はいいねえ」っていうのが、おっさんがお風呂に入ったときによく言う「風呂はいいねえ」みたいな感じに個人的には思えて。もちろん今見るとそうは思わないし、当時、自分が何を期待してたのかわかんないんだけどね。たぶんかってに、もっと少年っぽい声を想像してたんだろうね。結果的には、やっぱり石田さんの声にもっていかれるというか、そのアンバランスさがカヲルの魅力になった。シナリオもほんと、名言集だけでつくられたキャラって感じで、もう外さないですからね、本編のカヲルは。とにかく、こりゃ人間ではないなっていうのが、直感的にわかる、理解不能な雰囲気になったよね。かなり変なヤツだよなあと思うんだけど（笑）。

——対して漫画版では、血肉を感じる存在になっていると思います。カヲルの人間味が増したというか……。

そうですね。でも、僕としては人間味というよりは、人間未満な存在として描きたいと思ってました。カヲルのひとつ前の使徒・アルミサエルも、その前のアラエルもそうだけど、使徒はどんどん人間の心に





貞本義行

インタビュー

INTERVIEW : YOSHIYUKI SADAMOTO

——今回は、カヲル君の誕生秘話などからお伺いできればと思っているのですが。

うん。カヲル君ね。昨日もマッキー（鶴巻和哉）がいたんで「どうだったんだっけ?」とかおさらいもかねて話し合っていました。で、いちばん初めにカヲルをデザインしたのなんて、もう16、7年も前のことなので……ほとんど忘れちゃってるよねって。

——ええ!?　そこをなんとかお願いいたします。

はい（笑）。ええとたしか、最初にデザインしたときには、彼が最後の使徒だとかっていう設定にはまだなってなかったんじゃないかなあ。発注時の情報としてあったのは、カヲルはTVシリーズの終盤に出てくる人型の使徒ってことくらいだよね。ただ、いろんな形のいろんな習性をもつ使徒が続々と出てきて、使徒がだんだん人に近づいたものに進化していくというヴィジョンはすでにあったんだろうね。で、企画書段階では「猫と転校生」というサブタイトルがついてた。これは庵野さん的には、『帰ってきたウルトラマン』の「怪獣使いと少年」（第33話）というのを意識してたんだと思う。ムルチっていう怪獣が出てくる回なんだけど。

——「猫と転校生」というと、漫画版のほうにぴったりなタイトルですね。

今となっては、そうなんだよね。ただ、TVシリーズ企画時の最初のアイディアとしては、猫を抱いた少年がやってきてネルフは進入を許しちゃって、それが使徒だと判明してシンジたちは戸惑いながら戦うんだけど、でも実は少年は使徒に体を操られているだけで、本当の使徒の本体は猫のほうだった……というようなものだったんですよ。キャラクターデザインも今のカヲルよりもだいぶ頭身が低くて、小学生くらいの小柄な少年というイメージで進めていた。というか、カヲルだけじゃなくて、シンジたちも14歳じゃなくて、もっと子供という設定も考えていたんだけど。

——カヲルの名付け親というとどなたになるんでしょう?

これも昨日、マッキーに聞いてみました（笑）。結論としては、薩川（昭夫）さんなんじゃないかなあ、と。「渚」と書いて「シ者」と読ませる、みたいなのは脚本を書いていて出てきたんだと思うんですよ。「これは薩川さんのセンスだよね」ってことになりました。この回はすごくね、薩川さんワールドが広がって、ジュネっぽいというかなんというか……耽美系キャラとしてのカヲルを暴走させたというのがいちばん大きい気がしますね。初めの方のバージョンなんかはバリバリそんな感じで、夕焼けの中をカヲルとシンジが2人で川で裸で泳ぐとか、そんなシーンを考えていたと聞きました。

——幻の準備稿と言われているものですね。

そうそう。それを庵野さんが銭湯にしたわけです。そういう、薩川さんから出てきたイメージを庵野さんが独特な方向に広げた結果、今みたいなやや退廃的なカ

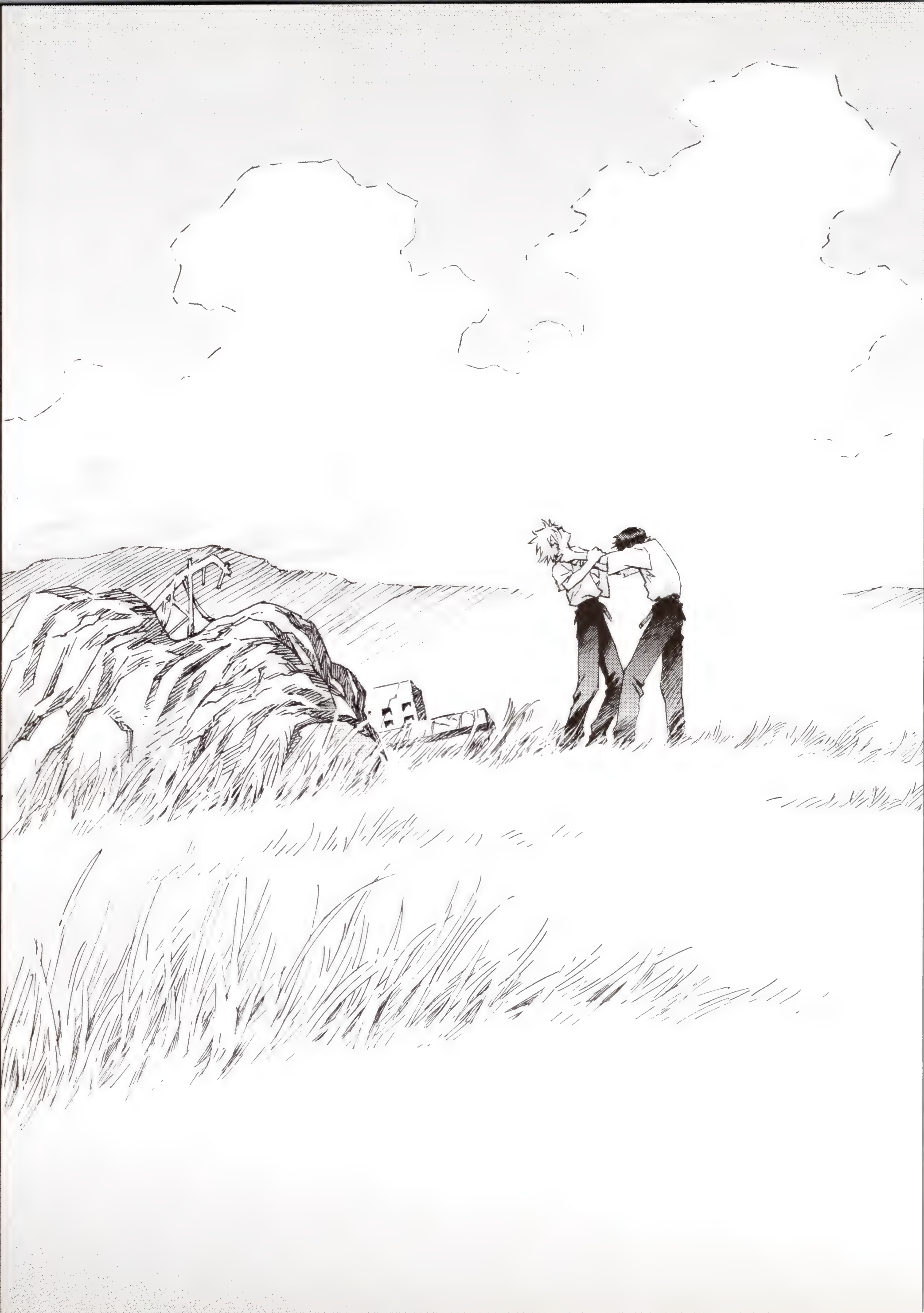


惹かれていたんだ、僕は
いつのまにか
心の深いところで

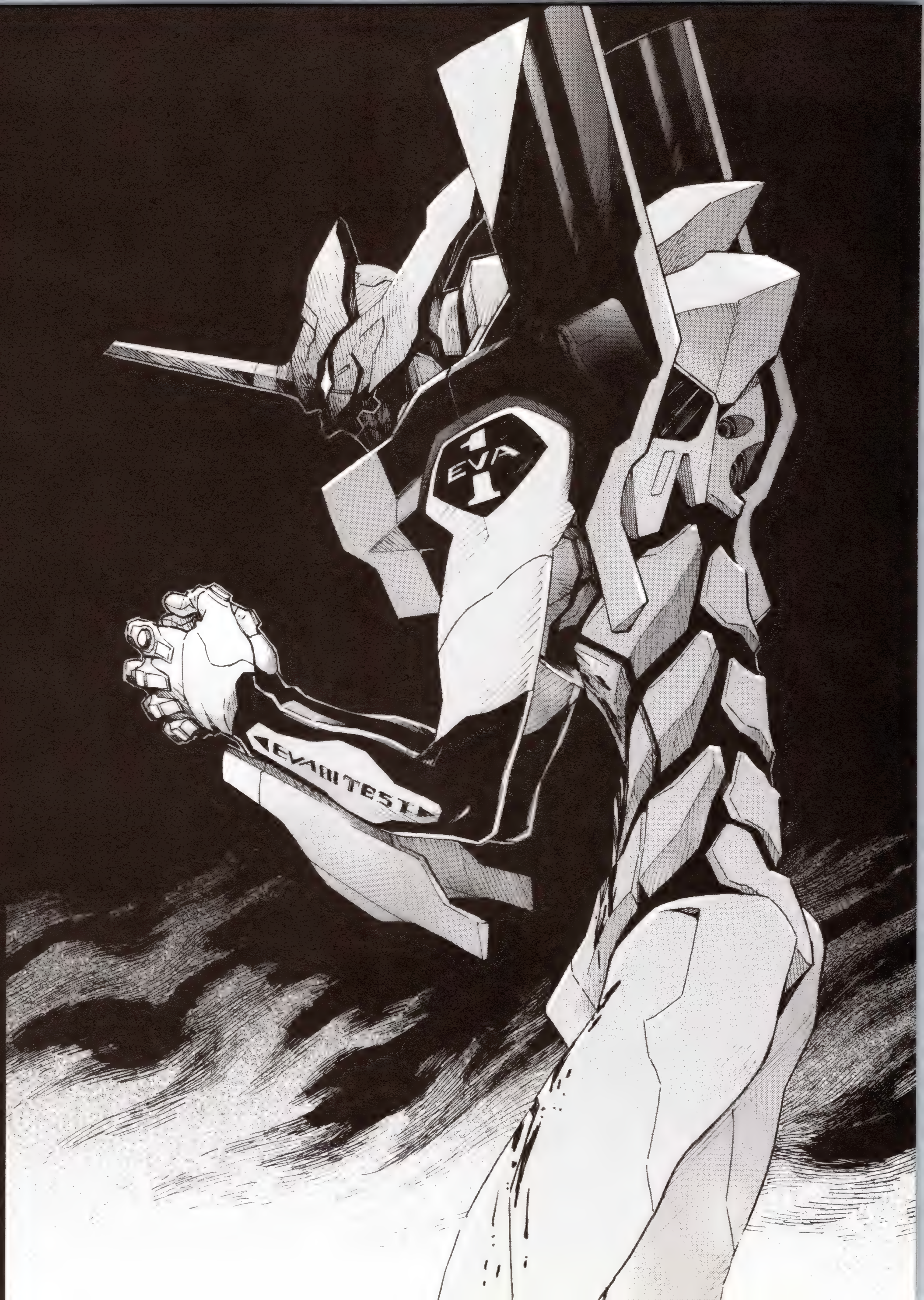
あんなやつを
好きになっては
いけないと
思っていたのに

友だちはもう
いらないと
思ってたのに

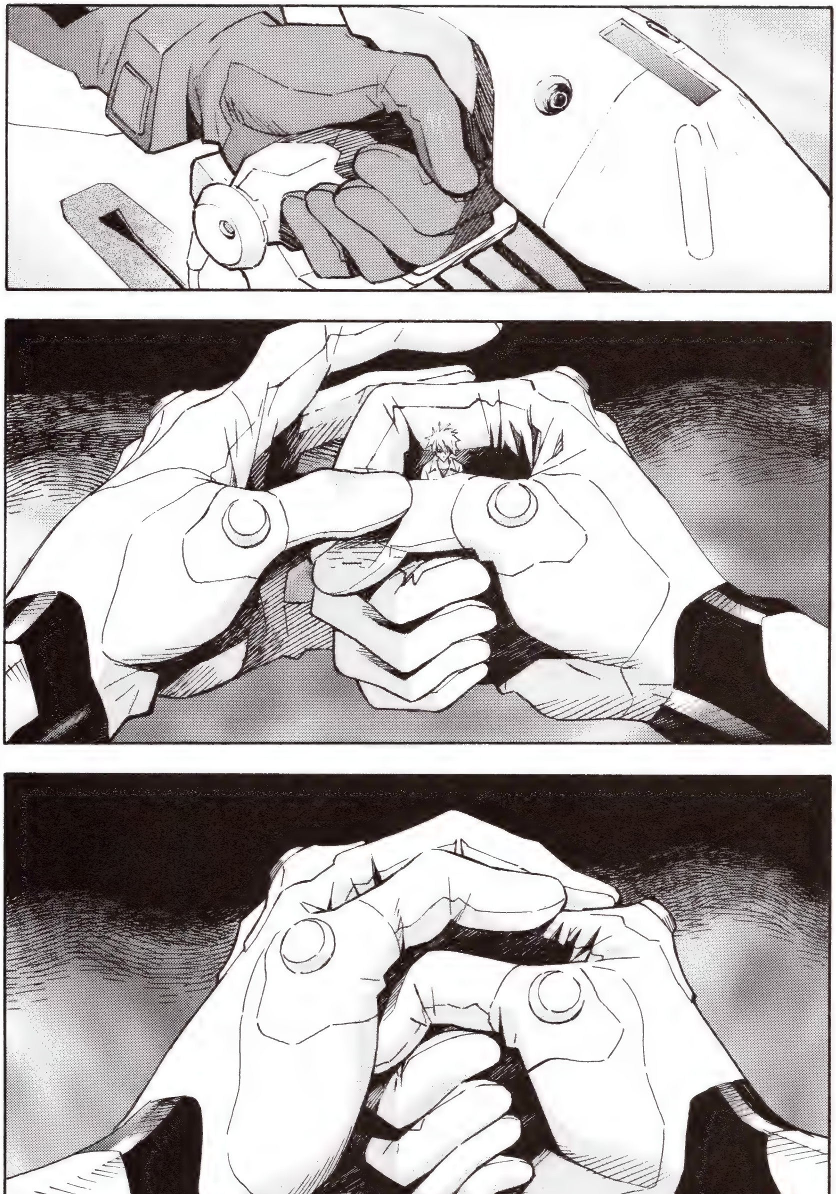
それなのに
なぜ人は
自分以外の者に
惹かれてしまうんだろう



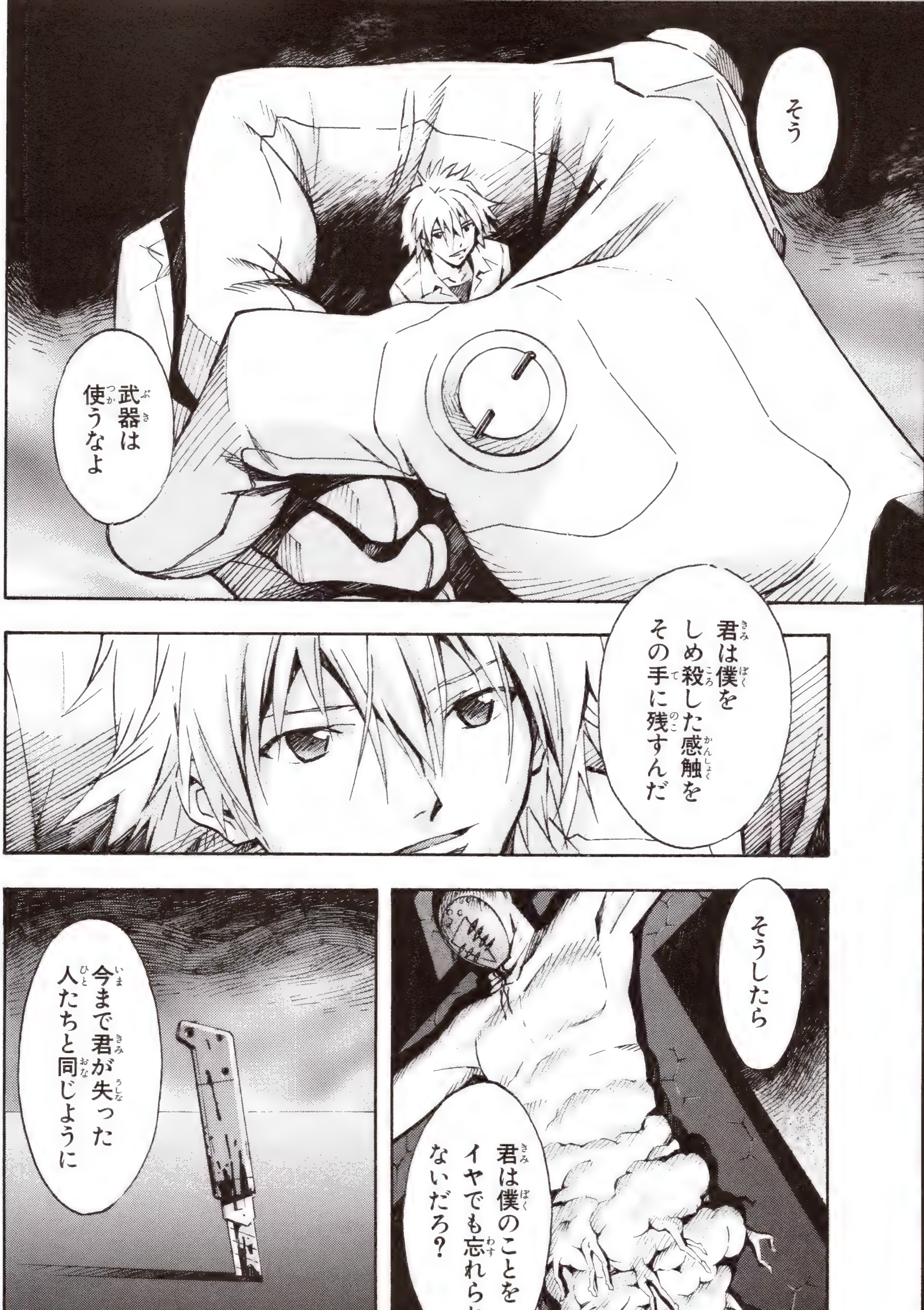




Death




たぶんね
きっと そうだ
01


そう
武器は使うなよ
君は僕をしめ殺した感触をその手に残すんだ
そうしたら
君は僕のことをイヤでも忘れられないだろ?
今まで君が失った人たちと同じように




次に君がとる行動が
僕に対する君の本当の気持ちの
証だ
01


嫌いじゃない
嫌いだなんて
ひと言も言ってない
じゃあ
君の本心を見せてみろ


そんなふうに言われても
抵抗もしない相手を殺すなんて
僕にはできない
なんで？
最後の願いだって言ってるのに
できないのは自分が罪悪感にさいなまれるのが怖いからだろう？
僕のことはこれっぽっちも考えてない
そんなに嫌いなんだ
僕のこと


親もいないし
食べ物もないし
飢えて苦しんで
徐々に死ぬんだよ
だから今
殺してやったほうが
いいんだ
できないよ

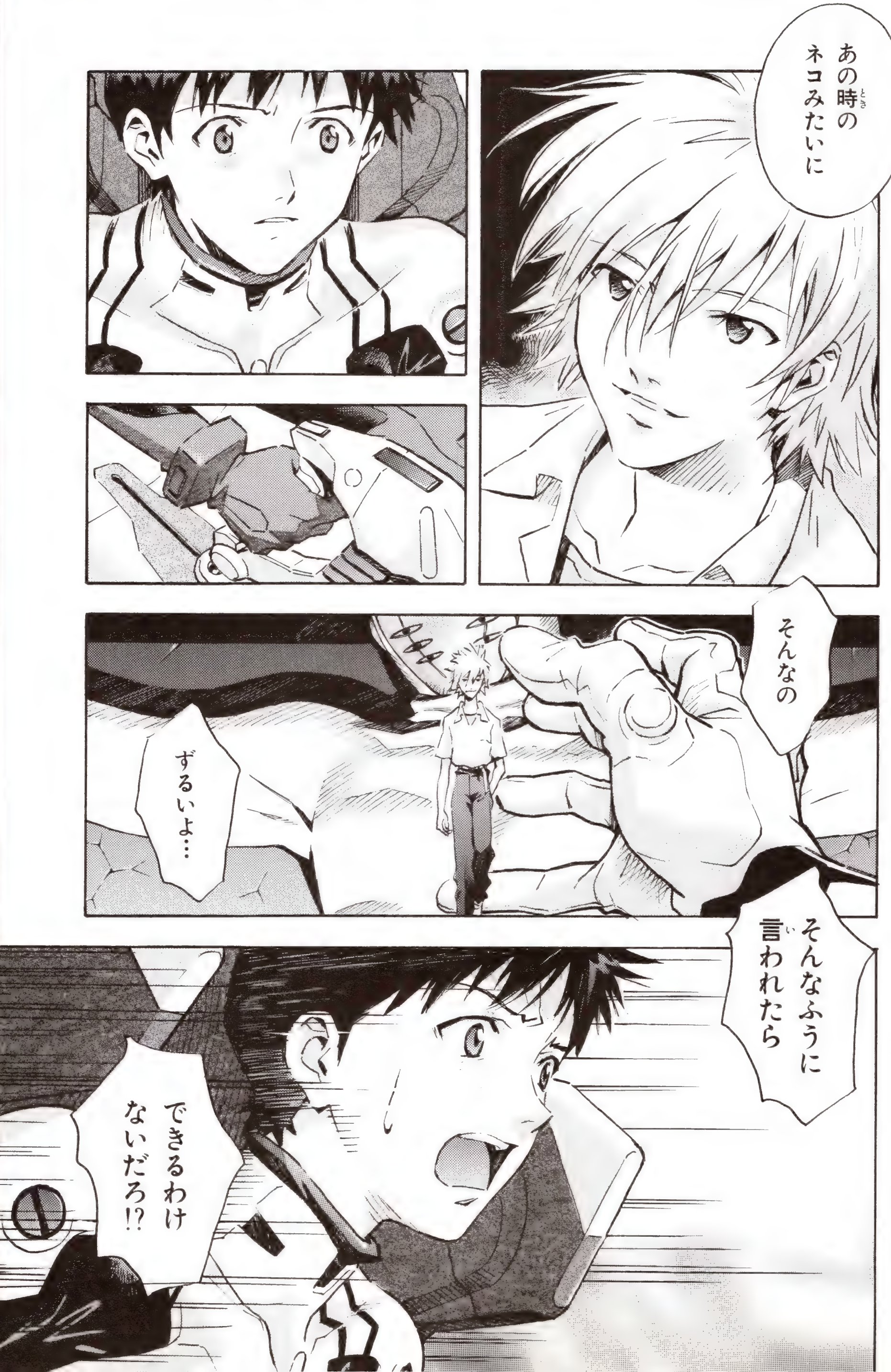

このネコ
ほっといても
どうせ死んだよ

Death［死］

貞本義行が描いたカヲルは、私たちが知っていたすべてに達観した大人びた少年ではなく、どこか幼な子のように純真な少年だった。シンジはかたくなに、カヲルのことを受け入れようとはしない。しかし人らしい感情を知りえなかったカヲルは、綾波のシンジに対する思念が自分の中に流れ込んできたことによって、「人を好きになること」そして「人が自分を好きになってくれること」を求めるようになる。秘密結社・ゼーレは語る。「人はお互いを理解できぬまま　憎しみ合い傷つけ合うことしかできぬ愚かな生き物」と。だが、使徒であり人類を滅亡させる存在であるカヲルは、あえて人の手による死を選んだ。それはカヲルの絶対的自由、最後の願い。シンジが彼を受け入れた瞬間が、永遠の別れの瞬間となる。

そして物語は終わりの始まりを迎える。


最後の願いなんだよ
僕のことを少しでも好きなら
叶えてくれ


あの時のネコみたいに
そんなの
ずるいよ…
そんなふうに言われたら
できるわけないだろ!?


何を言って…
聞こえなかった?
君に消してもらいたいと言ったんだ
君が少しでも僕のことを思ってくれるなら
君がその手で消してくれ


まあ
サードインパクトを
起こそうと起こすまいと
どっちにしろ
僕という個体は
消えてなくなるから
本当は 僕にとっては
サードインパクトなんて
どうでもいいんだよ
僕に残された
絶対的な自由は
自分の意志で
自らの死の形を
選べるってことだけだ
だから
僕は僕を
君の手で
消して
もらいたい


自らの意志で運命に逆らうこともできる
勘違いするなよ
君のために言ってるんじゃない
このまま引き返したりしたら老人たちが黙ってないだろう
あいつら速攻で僕を消すだろうな
老人？
もともと僕の命はあいつらが握ってるのも同然だからね


これは僕の運命だ
僕は最初からこの時のために生まれ仕組まれた子供だから
やめろッ!!
でも
僕にも意志はある


A.T.フィールドも必要ない
戦いや争い人を失う苦しみや悲しみ
君はそのすべてから解放されるんだ
それでも君は
僕を止めるっていうの?
…サードインパクトは
起こさせない!!
そのナイフじゃ脅しにもなんないよ
さっきわかっただろ?

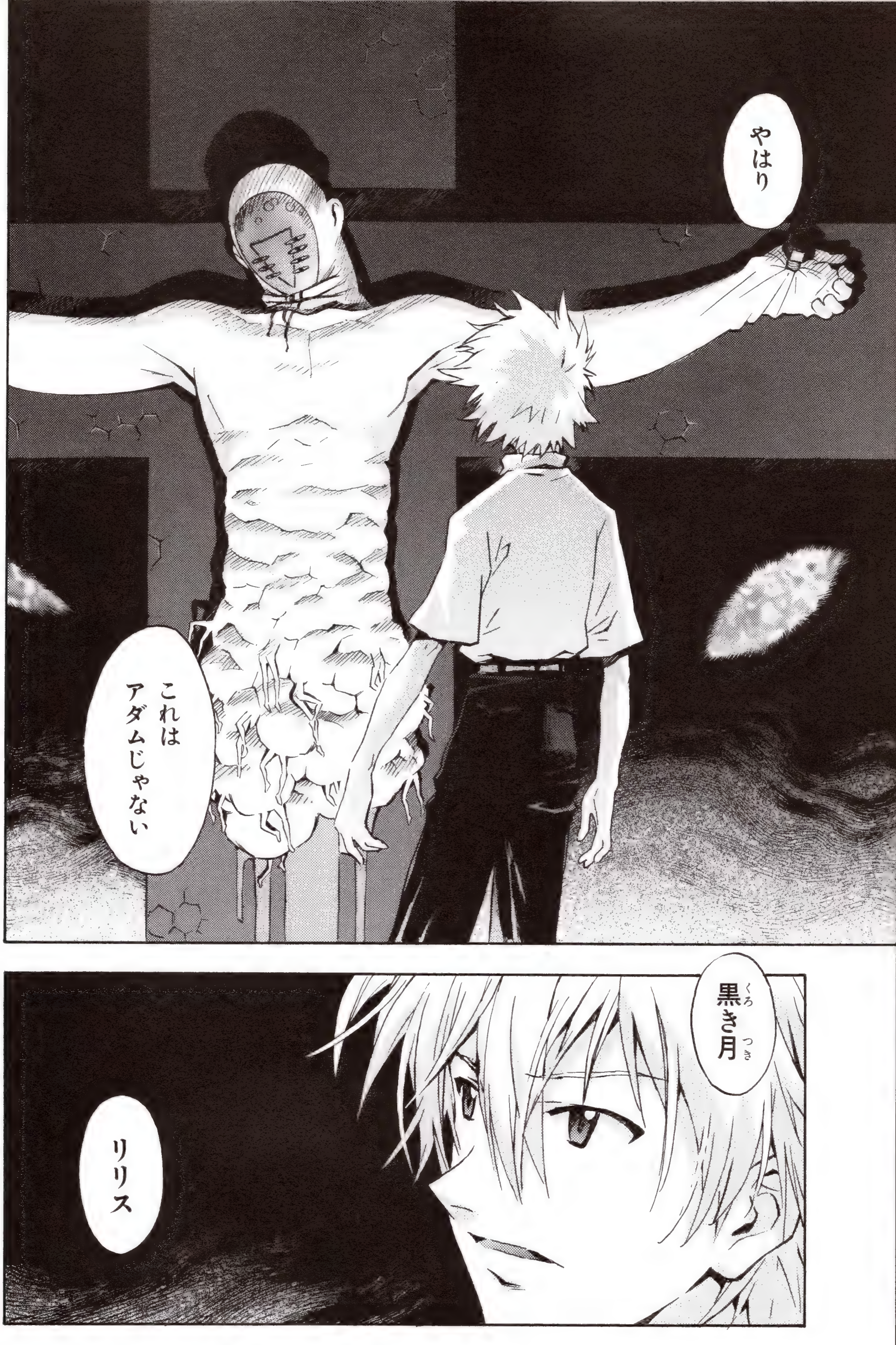

今なら戦わなくて済む
戦わなくて済む…か
相変わらずムシがいいなあ
引き返せ
もうひとついいことを教えてあげるよ
サードインパクトが起こったとしても
人はただ滅びるんじゃない
新しい形で生まれ変わるんだ
ひとつに結合して単体の生命としてね
そうすれば君の望んでいるとおりの世界が訪れる


それ以上少しでも進んだら
…容赦しない
どうかな
たとえ僕が使徒でも人の形をしたものに君が手をかけられるの？
でも僕がこれに接触すれば
サードインパクトが起こるらしいよ
接触した生命を含め すべての種が一瞬で滅びる
もちろん君たち人類もね
どっちにしても君にはつらい選択だ


はあ
はあ
はあ
01




——そうか
最初からここにいたんだね
このジオフロントは君が最初に来た時にできたってわけか
そしてずっと待っていた
継承者がここまで来るのを


やはり
これは
アダムじゃない
黒き月
リリス

Will [意志]

ただ、現象として瞬くだけの存在──カヲルはサードインパクトの起爆剤として送り込まれた使徒だった。サードインパクトによって死ぬか、秘密結社・ゼーレに殺されるか。カヲルに残された道の先にあるものは“死”しかない。カヲルはひとつだけ残された意志を明かす。それはシンジの手によって消してもらいたいという死の形の選択だった。

「期は熟した。行くがよい、タブリス」

「わかってるよ。最初からそのために、僕はいるんだから」


何故
ダミーシステムを破壊した


放して
くれよ
頼むから

I don't like you.




友達は
もう
いらない
友達を
失う苦しみは
もうたくさんだ
またあの
苦しみを味わう
くらいなら
友達なんか
最初から
いない方が
マシだよ
こんな
ことなら
最初から誰とも
出合わなければ
よかった
前みたいに
ひとりのままで
よかったんだ
僕が聞きたいのは
そんなことじゃない！


何か
言えよ
無視すんな
何か言えよ!
君とは
友達に
ならない


君にはもう
僕しか残ってないのに…
セカンドはあのとおり
ずっとベッドで人形みたいに寝ているだけだし
ファーストは
もう君の知ってるファーストじゃない
君の知ってるファーストは
君を助けようとして死んだ
かわいそうにね


誰もいなくなってしまった
友達と呼べる人は誰も…
僕は?
僕のことは"友達"って呼んでくれないんだ

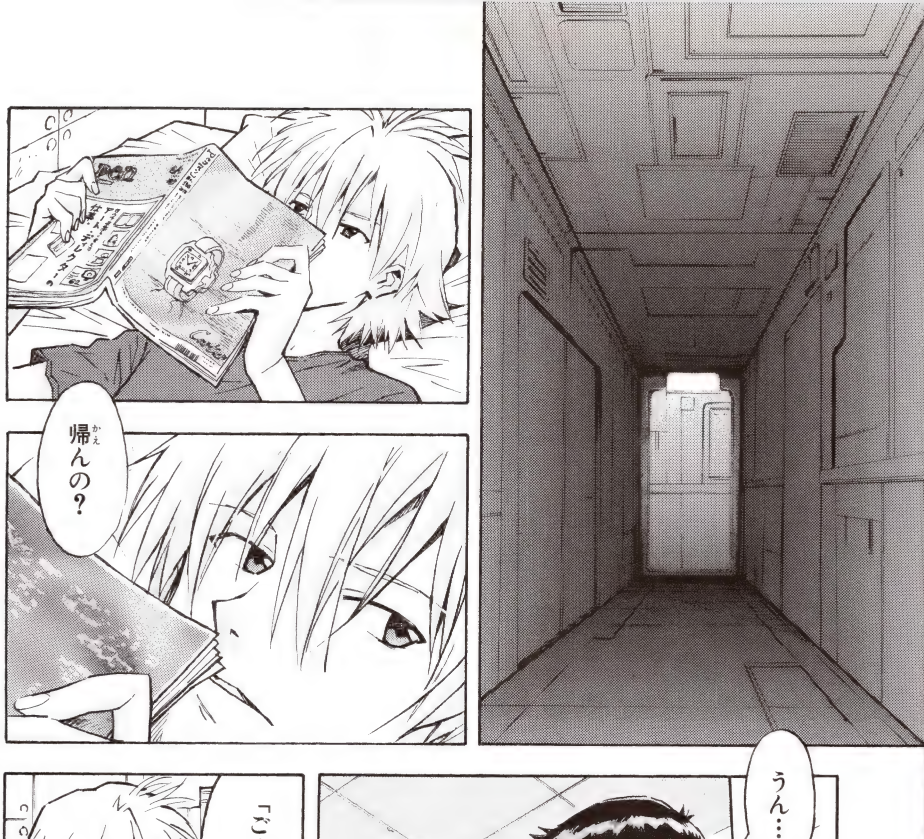

だって
そうだろう?
僕たち
笑って会う
なんてこと
もう絶対に
無理だもんな
じゃ
がんばれよ
さいなら
ピ
23日午後
2時18分の伝言
デス
ケンスケも
委員長も
クラスの
みんなも
家を失って
他の所へ
行ってしまった

I don't like you. [好きじゃない]

もし、自分の“好き”という感情を受け入れてくれなくても、“嫌い”でさえいてくれれば、何らかの関係がありえた。しかし、もし自分の感情に“無関心”でいられたら。それは何の関係もないことになる。人から愛されたい。相手が自分をどう思っているのかが知りたい。人らしい感情の芽生えたカヲルはみずからの想いを、シンジにぶつける。




感謝はしてるよ
じゃあ…
プシュン
ゲンキンなやつだな
ファーストが生きてるって分かったとたんさっさと帰るなんて


帰んの？
うん…
何日も泊まり込んじゃってごめん
「ごめん」……ね
ほんとはそんな事思ってないんだろ？

Jealousy [嫉妬]

それはカヲルに芽生えはじめた、初めての感情。言葉にできない衝動。理解できない欲望。綾波レイの感情が侵食したとき、カヲルは今まで自分の知らなかった、心の動きを感じる。相手が自分の思いどおりにならないことが気になり、心が安まらない。人を想う気持ちが強くなるばかりに、その人を憎んでしまう。そして、まわりの人々を受け入れられなくなってしまう。ねたみ、そねみ、ひがみ、うらみ……。芽生えはじめた、負の感情にカヲルは動揺する。


もしもし
あ……ミサトさん…
……はい
え!?
綾波が…
生きてる?


男は男を好きにならないよッ
なんでそんなに僕を嫌がんのさ？
君がヘンな事するからだ！
ばっ


あんなモノが自分に向けられたらどんな感じなの？
もし君が
僕を好きになったら
どんな気分になるんだろう
ば……


急に何言って…
あの使徒と闘った時…
ファーストの思念が
僕に流れこんできた
なま温かでドロッとしてて気持ち悪くて
ゆっくり胸をしめつけてくるような…
あれが
「好き」ってこと？


ねえ
どんな感じ？
はあ
はあ
人が人を好きになるって
どんな感じ？
触れ合いたいとか
唇を重ねたいとか
失いたくないとか
どんな感じのものなの？


はあ
な…
はあ
あは
一応呼吸落ちついたね
袋じゃなくてもいいんだ
なにすんだよ!


ふ……
う……
SOMY




えーと
ふ…う…
はっ
はあっ
袋かなんか取ってこないと…
スーハー


はっ
はっ…
はっ
はっ
あ…
ヒュウッ
はっ…
は…
また過呼吸か…
はあ



ヴーーッ
ヴーーッ
ヴーーッ
う……
ヒュウッ

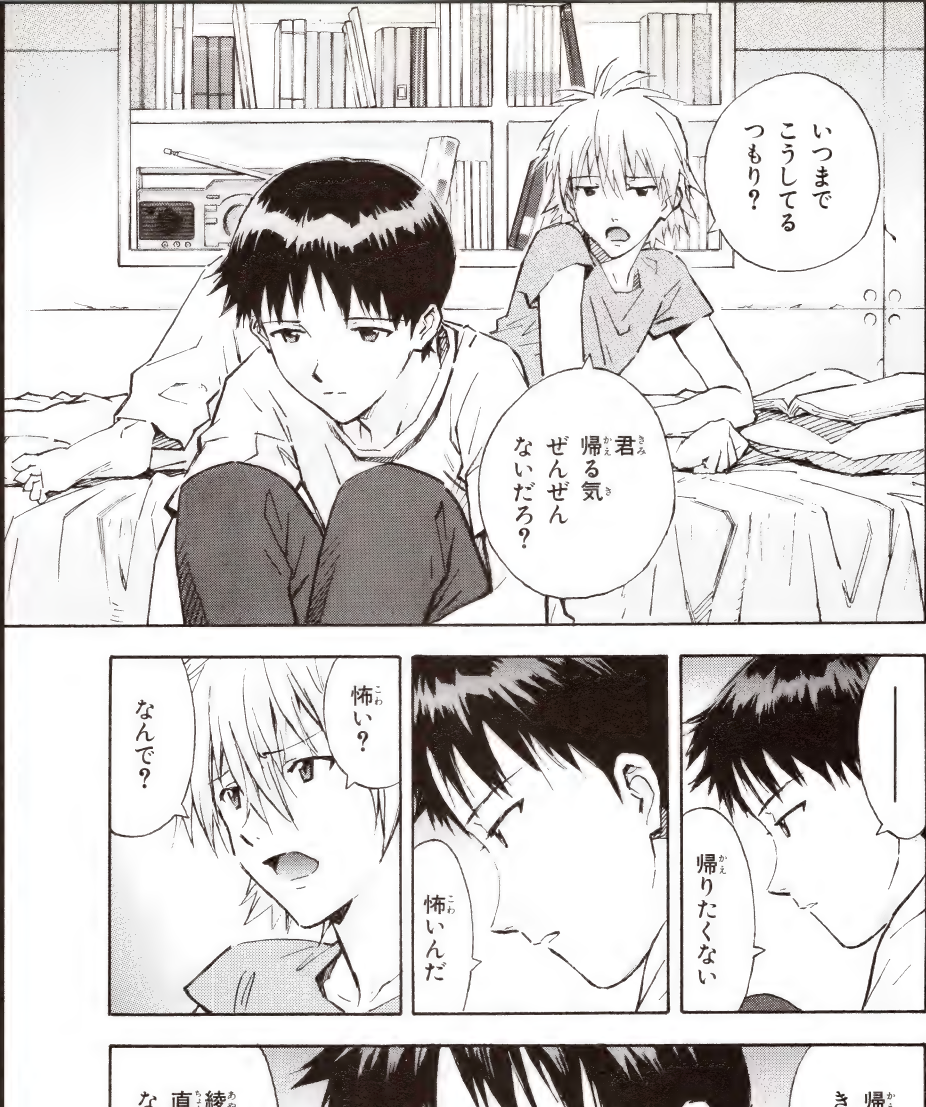
Kiss［キス］

使徒であるカヲルの中に芽生えたもの、それは「人を好きになる」という感情への興味、関心。少年の姿でありながら、人の手によってつくられたカヲルはこれまで知りえなかった、人と触れ合いたい、唇を重ねたい、失いたくないという気持ちを知りたいと思う。「人が人を好きになるってどういうこと?」――――――――――そして行動に移す。


僕のことは嫌いだけど
ここは居心地いいってワケ？
ずい分おもしろいこと言うね
勝手にすれば？
勝手に
……ベッド半分使っていいよ


だからここがいいんだ
君だけは
綾波のことで心を痛めてないから
くく…
あははははは
あはは


家に帰ったら きっと…
ミサトさんも悲しんでる
でも ミサトさんはきっと
必死で僕をなぐさめようとする
そしたら僕はもっとつらくなる
ミサトさんだけじゃない
きっと他の人もみんな悲しんでる
そんなところへ行っても綾波の死を思い知らされるだけだ
でも
ひとりでいるのはおし潰されそうでもっと怖い


いつまでこうしてるつもり?
君帰る気ぜんぜんないだろ?
――
帰りたくない
怖いんだ
怖い?
なんで?
帰ったらきっと
綾波の死に直面しなきゃならないから…

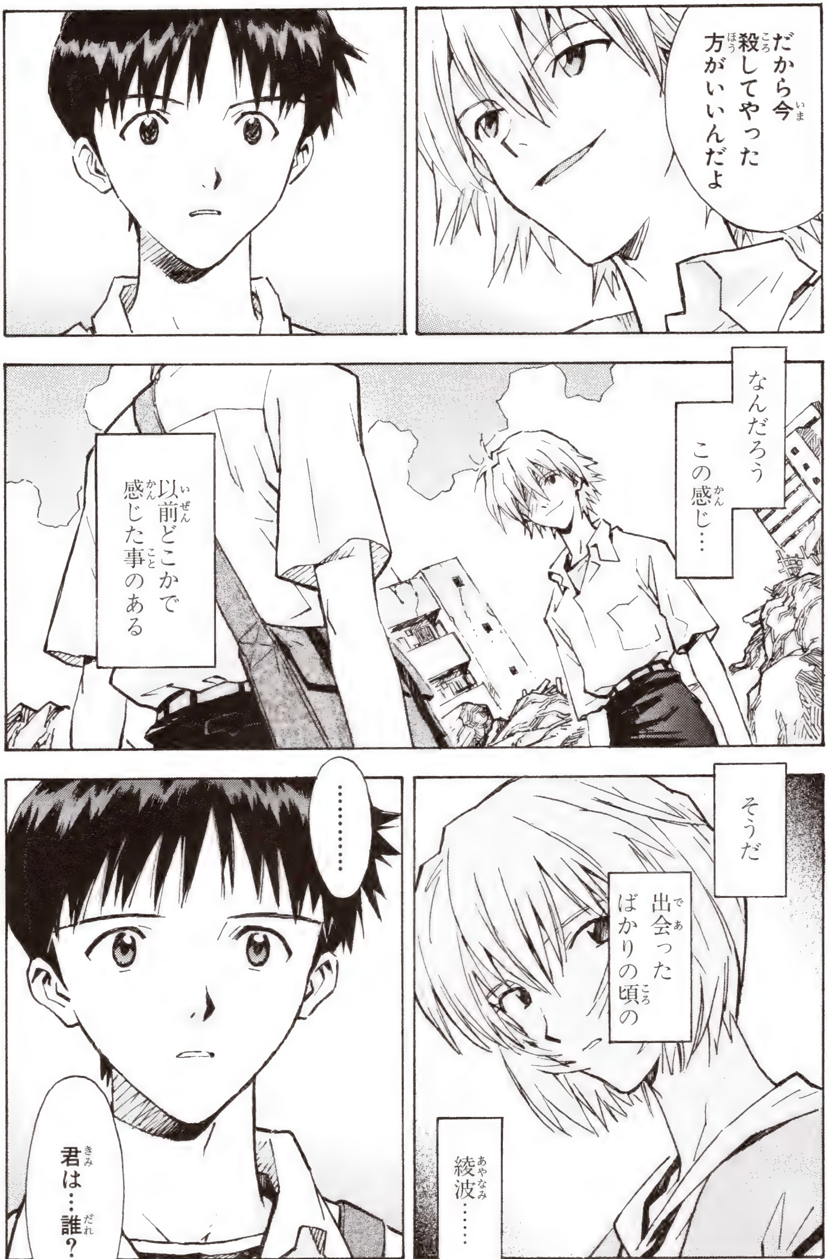


I don't want to go home.

[帰りたくない]

綾波レイが死んだことに傷つくシンジは、カヲルの側で、「ひとりになりたくない」「帰りたくない」と言う。自分のことを“好きじゃない”と言い放ちながらもなお自分に頼る。だけれども想っているのは、自分のことではなく綾波レイのこと。そのジレンマにほんの少し苛立ちを感じながらも、カヲルは傷ついたシンジに優しい言葉をかける。


僕は
渚カヲル
フィフス・チルドレンだよ
聞いてない？
碇シンジ君


だから今
殺してやった
方がいいんだよ
なんだろう
この感じ…
以前どこかで
感じた事のある
そうだ
出会った
ばかりの頃の
綾波……
……
君は…誰？


だって君ついて来られて困ってたんだろ?
だからって殺すことないだろ!
だってこのネコ
ほっといてもどうせ死んだよ
親もいないし食べ物もないし
こんなトコ君と僕以外に誰も来るはずもないし
飢えて苦しんで徐々に死ぬんだよ


やめろよっ
ポサッ
もう
死んだよ
なんで…
こんな事…



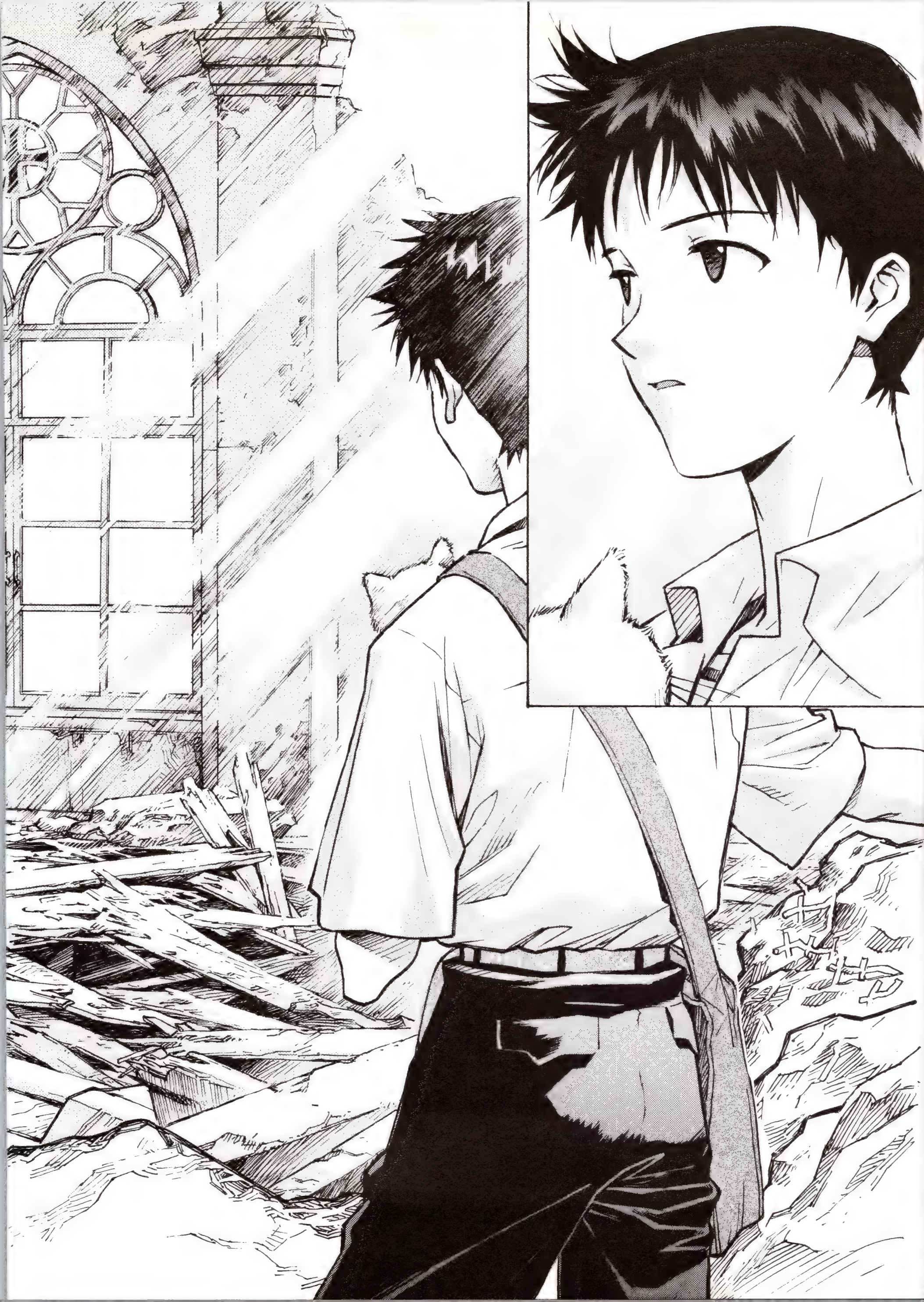

君は？なんでこんなトコにいんの？
君も道に迷ったの？
いや僕は…えーと…
なんでネコ抱いてんの？
おまえ もう行きな
ついてくんなよ飼ってやれないんだから
行けってば


その制服
第壱中学のだね
あ…うん
連れてってって
え？
道に迷った
こんなトコに来るはずじゃなかったのに
君…転校生？
まあね


知ってる?
この曲
え?
さっき町
歩いてる時
聞いた
何て曲か
知ってる?
「第九」……
だと
思うけど…
ふーーん







Entrance [登場]

少年は突然、現われる。ピアノが奏でる歓喜の調べとともに——。クラスメイトを死なせてしまったことで自責の念を抱く、碇シンジの前に出現した、渚カヲル。彼の存在は“救済”なのか？　それとも“裁き”なのか？　シンジとはまるで違う論理、違う生き方、違う感覚。シンジとカヲル——2人は、時に反発し、時に引き合いながら、知らず知らずのうちに近づいていく。貞本義行が描く漫画版「新世紀エヴァンゲリオン」において渚カヲルは、惣流・アスカ・ラングレーの敗北や綾波レイの自爆死を目の当たりにし、そしてシンジとともに時間を過ごすことで、これまで知りえなかった新しい感情が芽生えてくる。この章では、漫画版の渚カヲルのハイライトエピソードを、ダイジェストで紹介していく。

COMICS Ver.

Presented by

YOSHIYUKI SADAMOTO

original by GAINAX・khara

カヲル学 02

第九という音楽



TVシリーズ版第弐拾四話ではベートーヴェンの交響曲第9番、いわゆる第九を口ずさんで登場したカヲル。漫画版では廃墟の中のピアノで第九を弾きながら登場する。

漫画版の印象的なシチュエーションはおそらく、音を実際に聴かせることのできない制限を、ビジュアル上のインパクトで補おうというアイディアの産物だろう。ともかく漫画でもTVシリーズほどではないがカヲルと第九の関係は踏襲されているのである。

しかしどうしてカヲルは第九を口にしていたのだろうか。TVシリーズでは第九以外にも、ヘンデルのメサイアが流れるなどクラシックの名曲を生かした演出があったが、ここはあえて第九にのみこだわって考えてみよう。

そもそも第九はどうしてここまで高名なのか。

第一にその音楽史的価値。それまでの古典派の音楽を集大成し、同時に来るべきロマン派音楽の幕開けを告げるという記念碑的作品が第九なのだ。

第二に「歓喜の歌」に象徴される思想性。「歓喜の歌」はシラーとベートーヴェンの啓蒙思想が反映された歌だ。つまり市民革命を駆動し、現在の社会の礎となった思想がそこに凝縮されており、「歓喜の歌」を歌うことはそのまま近代社会を言祝(ことほ)ぐことでもあるのだ。

第三に政治的な存在感。第一と第二の価値を背景に政治的な場所で演奏されることも少なくない。いちばん象徴的なのは、EUが「歓喜の歌」の演奏のみのヴァージョンを国歌として採用していること。また1989年には、ベルリンの壁崩壊直後に、Freude(歓喜)をあえてFreiheit(自由)に替えて演奏され、東西冷戦の終結を象徴的に飾っている。

第一～第三を兼ね備えていること、それこそが第九の圧倒的な個性といっていい。

この個性をひと言で言い直すなら、「人類の文化の象徴」ということができるだろう。もし人類を代表する一曲を選べといわれたとき、この背景を知っていれば、第九が選ばれても納得する人は多いはずだ。

当初はやみくもに攻撃するだけだった使徒は、後に人類を、人の心を理解しようと試みるようになる。そしてカヲルは、すでに人類を、人の心を理解した存在としてシンジの前に現われる。人類のすべてを理解しうる最後の使徒タブリス。それを象徴しているのが、第九を口ずさむ、という行為だったのではないだろうか。

(藤津亮太)

は、単に第十七使徒の出現を予期するだけではなく、使徒の死の先にやがてくるであろうゼーレとの暗闘の予感もまた秘められたセリフなのである。

（項目18）
「僕は君に会うために生まれてきたのかもしれない」

自分の存在に自信がもてない人間にとって、この言葉は最大級の肯定の言葉だ。だがこの言葉を発した人間にとってはどうだろう。「君に会うこと」が生きることとの意味だとしたら、この言葉を発した人間は、その後どう生きればいいのだろう……。

（項目19）
翼のある石像 2

初登場の場面で腰掛けていた石像に似ているが、こちらは湖の岸から遠く、翼のディテールも細かいので別の石像と考えられる。なおこの石像が出てくるシーンがあるのは、第弐拾四話の放送版に手を加えたビデオフォーマット版のみ。

（項目20）
WAVELENGTH BLOOD TYPE BLUE

その存在が使徒であるかどうかを分析した場合、その分析パターンが「青」であると対象が使徒と確定する。その際、モニタ上にはこのような表示がされる。

（項目21）
「エヴァシリーズ。アダムより生まれし、人間にとって忌むべき存在」

エヴァシリーズは、人類が使徒と戦うための唯一の手段である。それがなぜ「忌むべき存在」なのか。

（項目22）
「リリンもわかっているんだろう？　A.T.フィールドは誰もがもっている心の壁だということを」

A.T.フィールドとは、「Absolute Terror Field（絶対恐怖領域）」と呼ばれ、通常の推進物、波動をいっさい受け付けない一種のバリアのような存在である。これは使徒、およびエヴァシリーズが特別にもっていると考えられていたが、カヲルはそれを「誰もがもっている心の壁」と呼んだ。ここにおいて使徒と人間の間に明確な差異はそれほどないことが示唆されている。

（項目23）
「リリス……」

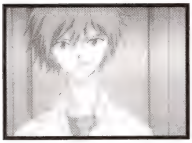
セントラルドグマの底部、ターミナルドグマにあるものは、長らくアダムと言われていたが、カヲルがそこに見たものはアダムではなくリリスであった。この事実を看破したのはカヲルが初めてだった。

（項目24）
止め演出

アニメにおいて長い時間、画を止めて見せるというのは、かなりきわどい演出手法だ。なぜなら画を止めた瞬間、それまでリアリティを保って見えた映像が、単なる「絵」であることがばれる可能性が急激に高まるからだ。だからこそアニメは、それが口パクであれ、目パチであれ、カメラワークであれ、必ずどこかを動かそうと演出する場合が多い。その中にあって、初号機が渚カヲルを掴んだ瞬間の長さは特筆に値する。静止している時間の長さが逆に、初号機の指先に込められた力、シンジの逡巡をまざまざと感じさせる力に転化しているのだ。絵が動いていない分、第弐拾四話のテーマともいうべき第九が鳴り響き、そのシーンのテンションを高いまま維持している。

カヲル学 01

カヲルという名前



カヲルという名前のいちばんの特徴は、非常に中性的な名前である、という点にある。

たとえば『グイン・サーガ』で有名な栗本薫。彼女の代表作に第24回江戸川乱歩賞を受賞した『ぼくらの時代』というミステリがある。おもしろいことに、この小説の主人公は、栗本薫だが、こちらの薫は青年なのである。薫という名前がいかに男女の境界を越えうる名前かがよくわかる。もちろん現実でも、薫という名前は男性にも女性にも広く用いられているのはいうまでもない。

名は体を表す。第弐拾四話に登場したあのキャラクターは、カヲルという名前を与えられたからこそ、あれほど中性的な魅力を身にまとうことができたのではないか。カヲル以外の名前であったら「好意に値するよ」なんてセリフになんの魅力も生まれなかっただろう。かくしてカヲルは、シンジにとって「敵であり仲間」かつ「男でも女でもない」という境界線上の存在として描かれることになる。

ここで思い出すのは永井豪による『デビルマン』の原作のことだ。最大級のネタバレになってしまうので細かくは書かないが、『デビルマン』でも「敵であり仲間」かつ「男でも女でもない」存在が非常に重要な役割を担って登場している。その点で、カヲルというキャラクターは、中性的な名前を通じて、『エヴァンゲリオン』に大きな影響を与えた『デビルマン』へと接続しているともいえる。

ところで「薫」というのはいつごろから男性の名前として使われるようになったのだろうか。具体的なことはわからないが、『源氏物語』の第三部「宇治十帖」の中心人物に、薫の君という登場人物がいる。『源氏物語』の登場人物は全員本名ではなく通称で呼ばれているのだが、薫の君は、生まれたときに体からいい薫りがしたことにちなむという。

この薫の君は源氏の息子だが、母・女三宮の不義によって生まれた子供で、源氏とはうち解けられないまま成人する。そのためか優柔不断で非常に鬱屈した精神のもち主である。この主人公の造形は後の王朝文学に大きな影響を与えたという。

このプロフィールを見て、誰かを思い出さないだろうか。そう、薫の君は碇シンジととてもよく似ているのだ。つまりカヲルは薫の君という同名の人物を通じてシンジとも深いところで接続していたのである。

それがカヲルという名前なのだ。(藤津亮太)

（項目10）

2000年9月13日

この日はセカンドインパクトの起こった日であり、カヲルの誕生日でもある。彼のそのほかの経歴などはいっさい不明にもかかわらず、誕生日のみデータが残されていたのはなぜなのだろうか。

（項目11）

MENTAL TOXICITY LEVEL

翻訳すると「心的毒性度」となる。エヴァからの精神汚染度を表示している。

（項目12）

「君は僕と同じだね」

綾波レイにそう言葉を投げかけるカヲル。2人とも、本来は魂をもたない存在で、サルベージされた魂をもっており、2人のパーソナルを移植したダミープラグが存在する。カヲルのダミープラグは、ゼーレがネルフを攻撃するためにつかった伍号機から拾参号機までに搭載されている。

（項目13）

「帰る家、ホームがあるという事実は幸せにつながる。よいことだよ」

帰る家をホームと言い直しているのは、そこに「故郷」という意味も込めたかったからなのか。使徒は常にどこからともなく現われて、ネルフ本部地下にあるセントラルドグマのアダムをめざす。つまり使徒は、出発点をもたず、同時に目的地をもつことも否定されている、宙づりの存在なのである。だからこそ、カヲルが「ホーム」に言及しているという意味は深い。カヲルはホームを欲していたのだろうか……。

（項目14）

「一次的接触を極端に避けるね、君は」

手と手を取り合うこと。それは、触覚を通じて他人と向き合うことでもある。他人の手から伝わる体温はあたたかいが、同時にその手が自分の首を絞める可能性だってある。このアンビバレントな状態こそが、カヲルのいう一次的接触の本質ではないだろうか。

（項目15）

シャワー

シャワーに行くといいながら、実際の画面には日本式の大浴場が登場する。庵野秀明監督作品では、入浴シーンがしばしば登場する。そこでは、人は身も心も鎧を脱ぎ捨て、胸の内の真実をさらすのである。『トップをねらえ！』では、ライバルとして登場したユング・フロイトと、主役であるタカヤ・ノリコとアマノ・カズミがうち解けるのは、宇宙を臨む大浴場だった。『ふしぎの海のナディア』ではノーチラス号の大浴場で、エレクトラが自分の悲劇的な過去を語り始めている。そういえば『エヴァンゲリオン』でも、葛城ミサトがセカンドインパクトで負った傷に言及するのは、アスカと一緒に入った温泉だった。

（項目16）

英字サブタイトル

The Beginning and the End, or "Knockin' on Heaven's Door"。

直訳すれば「終わりと始まり、あるいは天国の扉を叩く」。

「Knockin' on Heaven's Door」は、ボブ・ディランの歌のタイトルで知られているフレーズでもある。

（項目17）

「まもなく最後の使徒が現われる」

このセリフは「それを消せば願いがかなう」と続く。人類補完委員会（ひいてはその実体であるゼーレ）と特務機関ネルフの目的は、ある段階まで一致していた。人類補完計画を実現するため、その条件としてすべての使徒を倒す、というのがそれである。しかしネルフの司令官であるゲンドウは、ゼーレとはまた別のかたちでの人類の補完を考えていた。この対立がついに表面に出るのが、最後の使徒である渚カヲルが倒された後である。つまり碇ゲンドウのこのセリフ

ンパクトにより地球は大規模な環境異変が発生し、日本は四季を失い、1年の大半が夏となった。その中にあって、ヒグラシの鳴き声は、もとの生態系が戻りつつある証だという。ヒグラシのもの悲しい鳴き声は、カヲルとシンジの出会いの場にも流れている。

(項目5)
交響曲第9番

古典派の音楽の完成者であるルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの作曲による交響曲第9番ニ短調作品125のこと。第四楽章に独唱と合唱を伴うため俗に「合唱」「合唱付き」などの呼び方をされる。カヲルが石像の上で口ずさんでいたのは、この独唱・合唱部分の主題で一般的に「歓喜の歌」と呼ばれるものである。「歓喜の歌」はシラーの詩「歓喜に寄せて」をベースに、ベートーヴェンが改作を施したものを歌詞としている。一説にはフリーメイソンリーの理念を詩にしたものだともいわれている。カヲルが口ずさんでいた部分の歌詞は以下の通り。

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium
Wir betreten feuertrunken.
Himmlische, dein Heiligtum!

歓喜よ、美しき神々の火花よ
天上の楽園の乙女よ
我らは炎のごとき情熱に酔い
汝の聖なる場所に足を踏み入れる

第弐拾四話では、劇伴としてこの第9交響曲のみを使用。シンジがSDATで聞いている曲も第九で統一されている。圧巻はクライマックスの戦闘シーンで、第九が鳴り響く中、約7分間にわたって初号機と弐号機の戦闘が描かれる。

(項目6)
翼のある石像

カヲルがシンジと会ったとき、カヲルは翼のある石像の上に腰掛けている。顔の部分と翼の一部が欠けているが、ガーゴイルかなにかのようである。朽ちかけた翼は、なにやら堕天使を連想させる。

(項目7)
「歌はいいね」

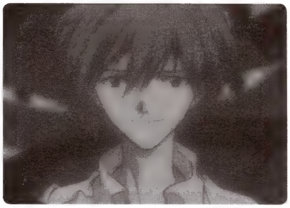
カヲルの第一声。この後、「歌は心を潤してくれる。リリンの生み出した文化の極みだよ」と続く。リリンという言い回しも含め、そこには人類を遠目に見るような距離感が存在する。このセリフの中にすでに、カヲルの正体は潜んでいるのである。そんなカヲルが友愛を讃える歌を口ずさみ、賞賛するというのは非常に皮肉っぽいシチュエーションでもある。

(項目8)
リリン

ヘブライ語で、アダムが最初の妻リリスとの間に儲けた子供(悪魔たち)につけられた名前。リリスの複数形でもある。リリスはユダヤ教では、女悪魔とされている。後に明かされた事実によれば、使徒とは、アダムから生まれた別の可能性としての人類だとされており、人類は第十八使徒に相当するという。人類から見れば使徒こそが異形の存在だが、使徒の側から見れば人類もまた異形の存在、ということか。

(項目9)
「僕はカヲル。渚カヲル。君と同じ仕組まれた子供、フィフス・チルドレンさ」

汎用人型決戦兵器エヴァンゲリオンは、14歳の「チルドレン」と呼ばれる子供たちでないと操縦することができない。ファースト・チルドレンは零号機パイロットの綾波レイ。セカンド・チルドレンは弐号機パイロットの惣流・アスカ・ラングレー。サード・チルドレンは初号機パイロットの碇シンジ。フォース・チルドレンは、鈴原トウジで3号機に搭乗するが、第十三使徒バルディエルに乗っ取られ、初号機と戦うことになる。それぞれのチルドレンはエヴァのコアと密接な関係があり、それが両者のシンクロ率に大きな影響を与えている。その点で、コアの変換もせずに、弐号機とシンクロしたカヲルは、いかにも特異である。


謎が謎を呼ぶ、アニメ版における渚カヲルのさまざまなセリフや行動。もっともっとカヲルのことが知りたいというアナタに、アニメ評論家・藤津亮太による「アニメ版・渚カヲル」キーワード解説をお届け！

KEYWORD EXPLANATION
ANIMATION Ver.

藤津亮太（ふじつ・りょうた）／アニメ評論家。1968年静岡生まれ。雑誌『Newtype』、『CONTINUE』、DVDブックレットなどで執筆活動を行なう。主な編著に『「アニメ評論家」宣言』、『ガンダムの現場から』（共編）などがある。

（項目1）
オープニング

渚カヲルの姿は第壱話から見ることができる。「残酷な天使のテーゼ」開始1分を超えて、サビに入ったところで、赤地にラフなタッチで描かれた少年の画像が短くインサートされる。これこそ渚カヲルが視聴者の前に姿を現わした瞬間だった。だが、このキャラクターが何者であるかは物語が進んでもなかなか明らかにされることはなく、『エヴァンゲリオン』を彩る謎、世界の広がりを示す情報のひとつに留まっていた。カヲルが、シンジにとっていかに大きな存在となるのか、それを知るには第弐拾四話になるまで待たなくてはならない。

（項目2）
電柱

『エヴァンゲリオン』の世界観を象徴するアイテムのひとつに、電柱がある。第弐拾四話でも、変圧器を乗せた電柱が何度かインサートされ、あたかも湖の畔で静かに流れていく時間経過を表現しているかのようだ。

（項目3）
湖

カヲルとシンジが出会ったのは夕方の湖。この湖はかつて第3新東京市だった場所に広がっている。第弐拾参話『涙』で、綾波レイの操縦するエヴァンゲリオン零号機は、第十六使徒アルミサエルを倒すため自爆。その爆発により芦ノ湖の水が第3新東京市に流れ込み、第3新東京市は廃墟と化したのだ。いうまでもなく第3新東京市は『エヴァンゲリオン』のもっとも重要な舞台だ。世界そのものといってもいい。カヲルとシンジは、世界が終わってしまった風景の中で出会い、たたずんでいたのだ。

（項目4）
ヒグラシ

カメムシ目（半翅目）・セミ科に属するセミの一種。中型のセミで、カナカナという高い声で朝夕に鳴くため「カナカナ」という名前でも知られる。日暮れ時に印象的に鳴くため、「日を暮れさせるもの」としてヒグラシという和名がついた。セカンドイ

KAWORU for ALL,
ALL for KAWORU.

カヲルはみんなのために、みんなはカヲルのために。

illustrated by HIDEYUKI MORIOKA




illustrated by KAZUYA TSURUMAKI

I LOVE KAWORU MORE THAN ANYONE ALL OVER THE WORLD. I LOVE KAWORU LONGER THAN FOREVER.

世界中の誰よりもカヲルを愛してる。
永遠よりもっとずっとカヲルを愛してる。

Review about KAWORU vol.2

「理解不能」な存在のかがやき

KEINOJO MIZTAMA 水玉螢之丞

イラストレーター。主にSF小説の挿絵イラストなどを手がけるほか、漫画やコラムの執筆、ゲームやアニメのキャラクターデザインなど活動は多岐にわたる。著書に『こんなもんいかがっすかぁ』(アスキー・メディアワークス刊)がある。

カヲル君はね、「無敵キャラ」なんですよ。うんと大雑把に言うと。オレが「ヒトのかたちだけどヒトじゃない」存在に弱い、てのを差し引いても。いやほんとに。

「ヒトの命の重さ」について、碇シンジがず――っと考えてたけど結論は出さないことにしました、ていうのがTV版の『エヴァ』だったかもなー、とか、時間が経った現在は思ってるので、そういう前提の話として。

シンジの中で結論が出なかったのは「ヒトの命の重さ」に対する考え方が狂ってる人間しか周囲にいなかったから。毎日お弁当作って学校で勉強して、ていう方向に目をそらして、ソレを見ないいいんちょ、二次大戦時の「小国民」のレプリカじみたトウジ、自分の命なんか惜しくない、て顔で、ほんとにそのとおり退場していった加持、加持とは表現のしかたが違うだけのミサト。そしてヒトではないからそもそも「命の重さ」ていう概念を持たない綾波。シンジをあの場に繋ぎ止めてたのは、唯一人「自分が死ぬのもヒトが死ぬのもイヤ」って明言してるアスカだったんだね、てのはずっとあとで思い至ったことですが。

シンジは、使徒といえど「なにか生きてるっぽいものの命を自分の手で奪う」ことからも、最初は「逃げ」ようとしたわけで。だけど初号機に乗ることを決意して、そこからは「だってほっといたらヒトがたくさん死んだりするかもしんないし」てことで、使徒を殺すのはオッケーな新・自分ルールを設定する。でも「殺す」ことが「強さ」の錯覚をもたらすほどの短絡者でもないし「ぼくが地球を守るんだッ」みたいな与えられた大義にも酔えないから、気持ちに無理が生じてくる。

その「無理」がピークに達して、すべてに絶望しながらも、弐拾四話の冒頭でシンジがつぶやくことばは、「ぼくはこれからどうすればいいんだろう」。つまり絶望のふちにあっても、自分の命は重いわけです。死んじゃおうかなとか思ったりはしてない。この時点で、少なくとも自分と他人の命は等価ではない。シンジにとって。

そのシンジの、いわば背中をちょっと押しに来たのが、カヲル君だったわけですね。ヒトに見えても実際にはヒトじゃないんなら、きみのルールだとぼくを殺しちゃってオッケーなんだよね(大雑把な要約)?ていう。貞本さんの漫画版だと、飢えて死んじゃうにきまってる子猫の首をコキャッとひねって「だったら今一瞬で死んじゃったほうがマシだろ」とか、いきなり自分のルールを提示して、フェアプレイ精神(違)を見せるカヲル君ですが、アニメ版はタチが悪いですよなー。

「ヒトの命」をなんとも思ってない、としか思えないような、しかも十代の殺人者が現実にぞろぞろ現われるのは『エヴァ』の放映が終了したあとのことだけど、かれらが「いちどやってみたかったこと」としての殺人を実行してみたところで、決して届かない場所に最初から居る存在。それがカヲル君。自分の命だけは別、ていう考えすら持ってないんだもの。そら無敵ですよな。自分の命だけは重いと思うヤツは、他人殺すの禁止。

なにもかもを本気でどうでもいいと思ってる者の恐ろしさと強さ、理解不能さ。その結晶のかがやきに、シンジも惹かれたんだろうと、いまは冷静に思うです。だから「その後」のシンジ(の現実)は描かれなかったんだよ、TVじゃ放映できない内容になっちゃうから……っていう解釈はダメですかね。

天使としての『渚カヲル』あるいは鬼神、霊魔としてのタブリス

TETRA TANIZAKI 谷崎テトラ

構成作家・音楽家。現在愛知県立芸術大学にて非常勤講師を務める。
環境問題に造詣が深く、海外での取材をもとにしたTV番組や出版の企画編集など、様々なメディアを通じて活躍中。

旧約聖書やバビロニアの神話のなかで登場する天使は人間の形をしているとは限らない。たとえば36万5000もの燃える目を持つメタトロン、1本1本の毛に100万の顔を持ち、それぞれに100万の目と舌を持つミーカールなどなど。天使とは人間のイマジネーションのつくりだす産物。その意味において、奇怪な形で現れるシトたちのその奔放な形態は、伝統的な天使そのものでもある。

そのなかで人と同じ姿で現れる最後のシト。第拾七使徒渚カヲル(タブリス)。人間に似た容姿をしているのは、ミカエルやラファエルなど、より人間に近い場所で働く天使たちである。渚カヲルはその「自由意志」によって、人と同じ姿を選びとった。そして人と触れ合える距離まで近づいてくる。

タブリスという天使は、イエスキリストと同じ時代に生きた、ティアナのアポロニウスの著作といわれる『ヌクテメロン』に登場する「ゲニウス」のひとつ。ゲニウスとは、日本では「鬼神」あるいは「霊魔」と訳される。古代ギリシャのダイモーン、あるいはアラビアのジンと近い存在。守護霊・守護天使的にも表されるが、反対に地霊や悪しきデーモンとして認識され、魔術によって召喚される存在でもある。古代オリエントに発祥するリリスもまた、ゲニウスと考えられている。

そもそも天使と悪魔の違いは、人間の文化的背景によるもの。すべての天使は霊と物質、神と人間の間をとりなす存在であった。あるいは善／悪ではなく、生／死、存在／非存在の仲介をなすメディアとしての役割。ゆえに背景にある文化によって聖なる存在にも邪悪な存在にもなりうる。人でも神でもない霊的存在(エンティティ)として、自然界のあらゆる場所に充満し、人の肉体、あるいは意識へと接触をはかる。生と死の向こう側からこちらへやってくる。または呼び出される。

霊的存在を様々な形で呼び出し、イマジネーションを現実化することをひらたくいえば「魔術」である。ネルフという機関がやっていることは大げさな組織や施設こそあれ、いわゆる「召喚魔術」そのものともいえる。結界をつくり、魔法陣を描き、祈り、呼び出し、その内へ招き入れ、同化しようとしているのだ。

天使たちもまた神の世界から、ひとの世界へと好奇の目をむけ、交わろうとする。その交わりの結果生まれるものこそが堕天使だ。これもまた天使の持つベクトルで、この世界においても全天の天使の三分の一が堕天使となったという。

結果的に人の世界と深く触れ合わずに終わったカヲルには、堕天使という言葉はふさわしくない。召喚され、実体化した霊的存在。あるいはただただ守護天使と呼ばれる存在のようでもある。それはシンジとの共振がそうさせている。人はすべからく、神から隔てられたという孤独感から、人と人とが触れ合うことにすら恐れを覚えるようになり、その恐れが「破壊」をもたらしてきた。現代人の多くが抱えた心の痛み。その「痛み」を和らげる、解放する存在として渚カヲルはやってきた。それは「守護天使」の役割そのものだ。

誰かから愛されたことがあるという実感を持たぬシンジは、初めて自分のことを「好きだ」といったカヲルによって、その存在をささやかに肯定される。その小さな〈イエス〉こそが、人間にとって大切な生への希望なのだ。

召喚された天使はふたたび、帰還せねばならない。カヲルは死の向こう側へと帰っていく。しかしながら彼が示した人間への、ささやかではあるが明らかな肯定は「福音」として私たちの心に残っていくだろう。



illustrated by MASAYUKI

IT'S SO BEAUTIFUL KAWORU'S LIFE

素晴らしき哉、カヲルの人生！

な「支配欲求」。まさしく渚カヲルは、「陰性感情タイプ」の本質的を射貫いているようなキャラクターであると、僕には思えます。

「陰性感情タイプ」の人は、男性であるならば、いつも微笑んでいて、気持ちが優しくて、人に寄り添って同情心の厚い「癒し系」になります。女性であるならば、あまり自己主張しないけど、人にものすごく同情する「良妻賢母」になる。決して出過ぎるような真似はしない、目立たない。まさに渚カヲルのもうひとつの姿ですよね。漫画版の『エヴァ』ではそういった側面も描かれていると思います。

なぜ渚カヲルがここまで人気があるのか。

それには2つの理由があると思います。

ひとつは神話的・宗教的な存在だから。

渚カヲルは、人間と唯一コミュニケーションを取れる使徒です。それはインドの神話で、神が化身として人のかたちで現われる、というモチーフに似ています。たとえば、ヴィシュヌ神は、クリシュナという人間のかたちで現われますが、こういった神話的なモチーフを『エヴァ』ではなぞっていると言えるでしょう。使徒の化身である渚カヲルを通じて、人間は使徒の意志のようなものを、かいま見ることができます。おそらく渚カヲルが抱く夢は、使徒が潜在的にもっているものです。そして同時に、彼の「自己犠牲」という夢は、人間にとっても、究極の夢のひとつでもあります。

自己犠牲——渚カヲルの死によって、世界はサードインパクトから救われるということ。これはキリスト教における、キリストの存在に似ています。キリストはみずからを犠牲にすることで、人々の心に楔を打ち込みました。人から生まれ、人の手によって殺されることによって、人のカリスマになる。使徒という神につくられた存在が、エヴァに殺されることによって、碇シンジの心の中に永遠に刻み込まれる。庵野秀明という監督につくられたキャラクターが、碇シンジの手で殺されることで、ファンのカリスマになる。まさしく宗教的・神話的構造が、渚カヲルによって描かれているのです。

渚カヲルのようなキャラクターが人気を集める、もうひとつの理由は、やはりアニメーションというものの性質に原因があると思います。アニメというものは手で絵を描くことから、キャラクターはすごく意図的な造形になっていく。アニメファンはそういった「本質的なキャラクター」をすごく好きでしょう。深く、深く、キャラクターを掘り下げていく。つくり手と受け手がどちらも本質を求めていくんです。

『エヴァ』におけるキャラクターは「本質的」なキャラクターばかりになっています。たとえば、碇ゲンドウやシンジの関係は、父と子の本質だし、もっと本質的なキャラクターが「私は誰」と問いつづける綾波レイ。彼ら、彼女たちは、物語に大きな役割を背負っていて、なおかつキャラクターとして人間の精神のひとつの典型をもっています。

その中でも、カヲルはまさに特徴的で、彼はほかのキャラクターと違って、ほとんど「物語を背負っていない」んです。この作品に登場する、どのキャラクターとも似ていない。強いていえば綾波レイが近いキャラクターですが、彼女はコピーを重ねることで人数を増やしていくというグロテスクさをもっています。一方、渚カヲルははっきりとした単一性をもつ。より濃いもの、唯一のものを求めるタイプのファンが、綾波レイよりも渚カヲルに惹かれるのもわかります。

『エヴァ』のすごさというのは、ストーリーのおもしろさももちろん、どこで輪切りにしても、ひとつずつのシチュエーションに深みがあることです。たとえば、渚カヲルという純化されたキャラクターを見るだけで、『エヴァ』という物語全体がもちうるテーマが詰まっていることがわかる。渚カヲルを解体していくと、〈存在以外に何もない〉ことがわかります。生い立ちや、人との関係性から生まれるストーリーを何ももっていない。つまり、作品を見る側に〈渚カヲルという存在〉そのものにしか注目をさせない、まさに純粋な「キャラクターという記号」的な存在なのです。

深層心理学には、「人間の無意識は記号でつくられている」という考え方があります。『エヴァンゲリオン』という作品は、神話的構造やアニメーション的な記号をまぜながら、無意識に共感できる構造をつくっているのだと思います。その重要なパーツが渚カヲルなのです。

名越康文／1960年生まれ。精神科医。精神科医から見た 映画・音楽評論など雑誌を中心に幅広く活躍。著書に『未知の力を開く!』（共著　ゴマブックス）、『ラブ・スマート』（解説・訳　三笠書房）等がある。

interview of KAWORU vol.2

YASUFUMI NAKOSHI
名越康文

緩慢なる衝動――渚カヲルの精神分析

僕の性格の分析というのは、あくまで人間のためのもの。渚カヲルは人間ではないので絶対当てはまるというわけではありません。ただ、『エヴァ』という作品自体が、人のつくった「創世記」であると解釈した場合、その中で生きるキャラクターもまた、人のつくった「人間」であると言えなくもない。そういう前提で（使徒ではありますが）渚カヲルを分析してみましょう。

まず、彼の特徴というものは「感応力」にあります。言いかえると「同調能力」です。彼は、エヴァ弐号機を完全に自分のものとしてコントロールしてしまう。もちろんその理由は、彼の出自――彼は使徒だという設定にあるのでしょうが、それも含めて、彼は非常に同調能力が高い存在といえるでしょう。また、普段の生活で彼は感情を発露しない。その代わり、相手の気持ちを自分の中に映していく。鏡のように相手の感情を映しだす能力を、彼はもっています。

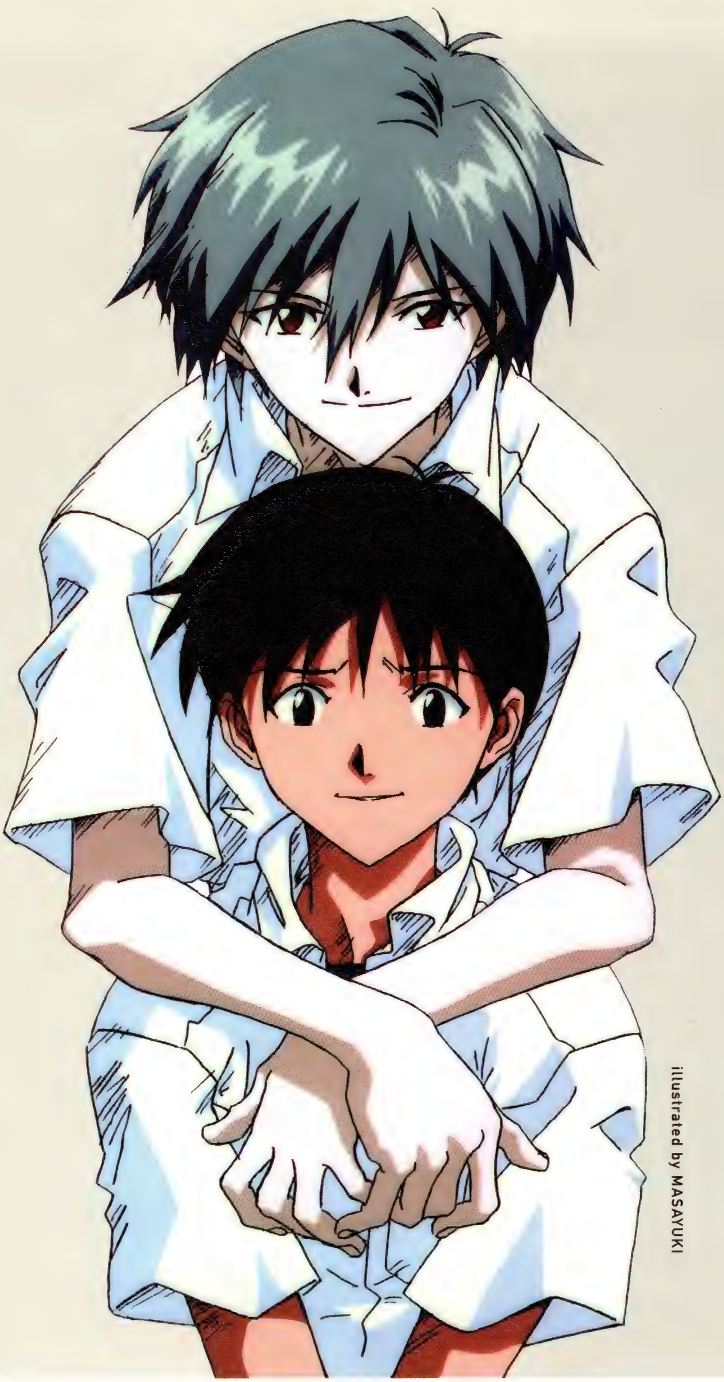
これらの感応力の高さは、彼自身が「虚無」だからです。おそらく「虚無」を埋めようとする「衝動」が、彼の「感応力」につながっている。ただし、「衝動」と言っても、極端な高まりはない。すぐに感情にまかせてアクティングアウト（言葉よりも先に行動に移すこと）するのではなく、静かで密やか。明らかに衝動があるのだけれど、決して急ではなく、じっくりと時間をかけていく。矛盾をはらんだ言い方になるけれど、彼の衝動は緩慢――「緩慢なる衝動」なのです。

こういった人間は、僕の分類で言うと「陰性感情タイプ」に当てはまります。このタイプの人は、人の感情や感覚に対する「感応力」は異常なほどに高いのだけど、自分の感情や気持ちに対する「感応力」は低い。自分の気持ちを固めるために、びっくりするほどの長い時間がかかるタイプです。

彼は長い時間、自分の運命に抗うことなく生きていました。醒めたように、自分を客観視して、粛々と自分の宿命を受け入れていたんです。ところが、彼の「感応力」は碇シンジという少年に反応してしまった。自分に最もかかわった相手、自分が最も関心を寄せている――いや、あるいは自分が最も愛している相手である、碇シンジに、ものすごく深い「支配欲求」を感じてしまうんです。

彼が本心を語ったのは、たった一度きりです。つまり、死。自分の死を通じてでしか、彼は自分の気持ちを伝えられなかった。そして、渚カヲルの願いとは「相手の心のいちばん深いところに、自分の記憶を刻み込む」ということでした。

一般的に、相手に「自分の記憶をとどめたい」と思う気持ちは、人間として最も深い欲求のひとつだと言えるんです。カヲルは冷静にふるまいながらも、最後の瞬間に、実は、おぞましいほどに自分の欲望が強かったことに気がつくんです。こういった欲望は、「陰性感情タイプ」の人の奥底にある欲求そのものだと思います。「感応力」の高さ。虚無感が生む「緩慢なる衝動」。実は根源的



illustrated by MASAYUKI

チキチキって出して「やあっ」てやってたし（笑）。
父親に「帰れ」と言われたり、綾波から平手打ちを食らったり、アスカから「バカァ？」と言われたり、ミサトから「しっかりしなさい」と怒られたり……シンジはなかなか他者から肯定してもらえないよね。そんな中、唯一「そのままの君でいいんじゃないの？」と言ってくれた存在がカヲルだったんじゃないかと思う。「頑張らなくてもいいよ」って。だから、おもしろいけど男の子たちみたいには熱狂的になれないなって思いながら『エヴァ』を見ていた女の子たちも、カヲルが出てきて初めて、ようやくシンジに感情移入ができるようになったのかもしれない。だから、みんなカヲルを好きなのかもしれないね。ん？「そのままの君でいい」って僕が誰かに言ったことがあるかって？ そんなのいつだって言ってるに決まってるじゃないか。

※1 『エヴァンゲリオン』監督・庵野秀明も制作スタッフとして参加。『美少女戦士セーラームーンS』103話原画、ウラヌス&ネプチューン変身バンク演出や、幾原監督作『劇場版美少女戦士セーラームーンR』の原画などを手がけている。
※2 『セーラームーン』主役の月野うさぎ役の声優・三石琴乃（ミサト役）の起用や、『R』に少年役として出演していた緒方恵美（シンジ役）の起用など、強いリスペクトの意が感じられる。

interview of KAWORU vol.1

KUNIHIKO IKUHARA
幾原邦彦

「そのままの君でいいよ」という魔力

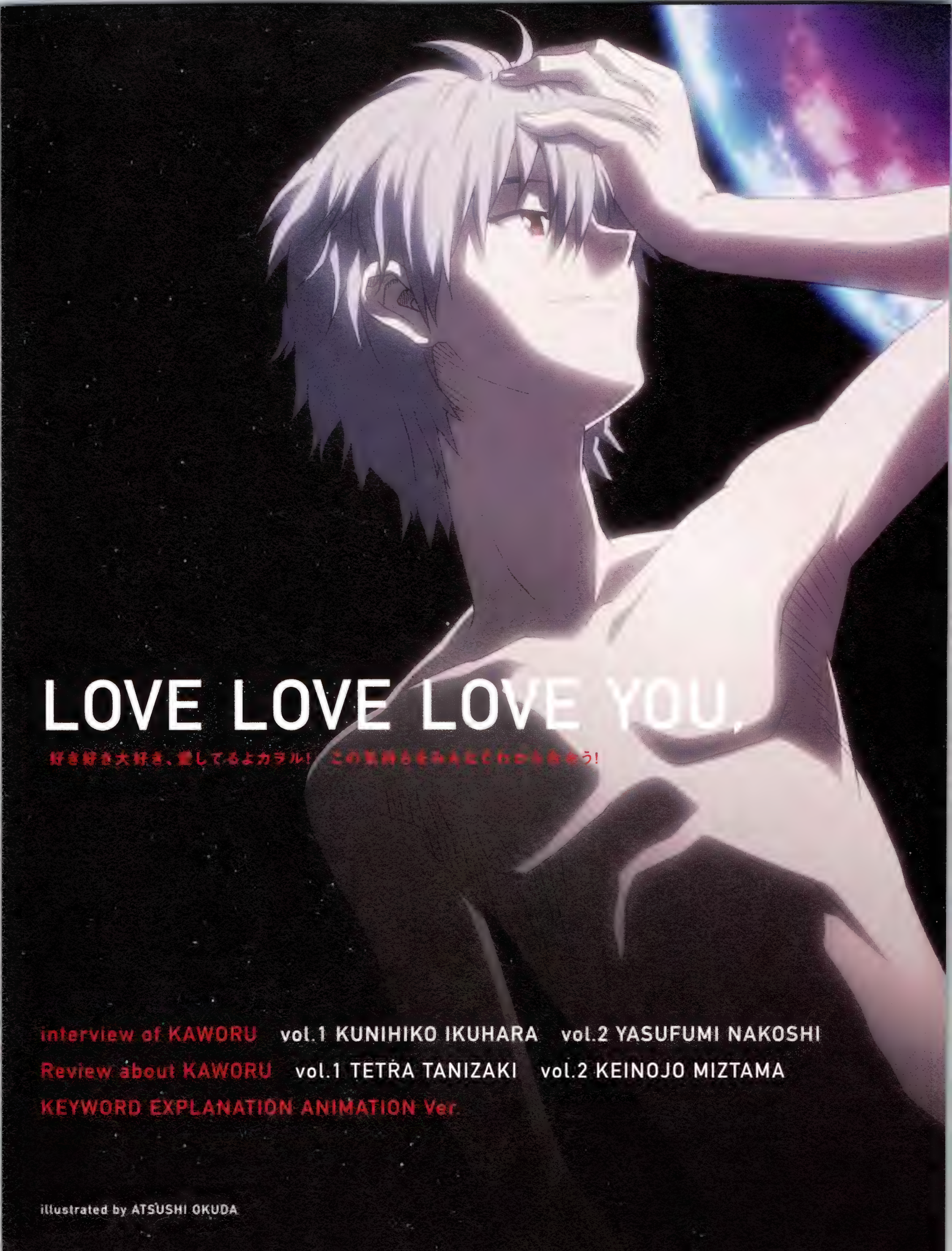
「カヲルのモデルなんですか？」とは、今までに何人かにも直接訊かれたことがある。どこからの情報なの？　本人としてはまったく関知してないんだよね。カヲル君はルックスもかっこいいんだし、僕がモデルなんて言ったらファンの人たちから苦情が来ると思うんだけど。でもね、まったく思い当たる節がないというわけでもない。庵野さんとは、まだ『エヴァンゲリオン』が準備中だったころ、密に交流があった。あるとき、『セーラームーン』のスタッフみんなで慰安旅行として温泉に行ったんだけど、そのメンバーに庵野さんも入っていたんだよね※1。なんだかその夜は2人でずっと話しててね。みんなが潰れてしまったあとにも延々と、酒を飲んでは語り、露天風呂に2人並んでつかっては語り過ごしたんだ。

　だから、その夜にカヲルとシンジのやりとりと同じ匂いのする会話を僕らもしていたかもしれない、とは思うよ。それは実際に弐拾四話を見たときにも感じた。まあ、お風呂っていうシチュエーションも同じだし、わかりやすいよね。ただ、「好意に値するよ」っていうセリフを僕が庵野さんに言ったとか(笑)、そういう噂があるみたいだけどそれはよくわからない。僕がカヲルで庵野さんがシンジとか、そういうことではないと思うんだよね。だって、どっちかといえば庵野さんのほうがカヲルみたいなシニカルなことを言いそうじゃない？そこで思春期のころの話をした記憶がある。僕は14、15歳の時には、本当に絶望していて人生真っ暗だと思っていたんだよ。受験なんかのこともあって、少しの失敗も許されていないような気がしてね。今はさ、負け組のほうにも注目が集まっているというか、ダメになる自由もあるという感じがするけど、そのころは一回でも負けたらその先は闇でしかないように感じられた。'70年代まで安保闘争があったわけだけど、それも終わって「ああ、やっぱり世界を革命するなんてことはできないんだな」って空気が蔓延してたんだ。だから自分は20歳までには死ぬんだろうと思っていたし、それ以降の人生なんてオマケみたいなものだって思っている――そんな話をしたんだ。もしかしたら、そういう話ができること自体がお互い貴重だったのかもしれないね。

　あと庵野さんはセーラームーンを好きでいてくれて「ああいう楽しい作品を僕もやりたい」とも言ってた※2。SF的な世界設定だったりマシンのディテールだったりと、リアリズムを追求する方向にあった意識が、セーラームーンみたいな作品に触れて揺り返しが起こったのかなって思う。普通に楽しめるアニメーションの楽しさ、みたいなものが庵野さんのなかで新鮮に感じられた時期だったのかもしれない。僕のなかの庵野さんの印象というと、なんかそれこそ「人じゃない」ような感じ。大きくて、猫背で、なんかエヴァンゲリオンみたいだよね。よくカッターを持って、チキ

幾原邦彦／アニメーション監督。代表作に「美少女戦士セーラームーン」シリーズ(シリーズディレクター・演出)、「劇場版美少女戦士セーラームーンR」(監督)、「少女革命ウテナ」(原案・監督)など。ファッション誌「KERA」に「ノケモノと花嫁」を連載中(原作・幾原邦彦、漫画・中村明日美子)。公式サイト「ikuniweb」http://www.jrt.co.jp/yos/ikuniweb/





LOVE LOVE LOVE YOU,

好き好き大好き、愛してるよカヲル！ この気持ちをみんなでわかち合おう！

interview of KAWORU vol.1 KUNIHIKO IKUHARA vol.2 YASUFUMI NAKOSHI

Review about KAWORU vol.1 TETRA TANIZAKI vol.2 KEINOJO MIZTAMA

KEYWORD EXPLANATION ANIMATION Ver.

illustrated by ATSUSHI OKUDA


I LOVE KAWORU !



KAWORU

摩砂雪／「新世紀エヴァンゲリオン」副監督。「第弐拾四話　最後のシ者」は、演出・絵コンテ・レイアウト・作画監督 を摩砂雪

ALL ABOUT KAWORU NAGISA A CHILD OF THE EVANGELION
illustrated by
MASAYUKI

U NAGISA

副監督が担当。たった1話で乙女の心をかっさらったカヲルを生み出した重要人物のひとりである。このイラストは本書のための摩砂雪描き下ろし。

WHAT A SEXY BOY KAWORU IS !

どこでお逢いしましたか
どこで　どこでお逢いしましたか
死と仲のいいお友だち　わたしの古いお友だち！
——田村隆一「再会」より

彼は行ってしまった。寂しげな水音とともに。オレンジ色の波紋を残して。彼と出会った湖の水面も、ただ夜の月に照らされてゆらめいているだけ。そこに彼の気配はない。彼はどこにもいない。天国の扉は開いていただろうか。

彼は可能性の存在だった。人のあり方についての可能性。人と人がわかりあえる可能性。あらゆることの可能性。だから、触れることはできなかったのだ。掴もうとすると、ふいに姿を消してしまう。でも、彼がいることで人はなにかを信じることができる。それが可能性。

信じるということ。信じるということは、なにがあっても信じるということなのだ。信じるために条件がつくのであれば、それは信じる、とはいえない。報われなくてもただ心を傾けること。相手の首を絞めるしかできなくても、ののしりの言葉を投げかけられても、そこにある他人の手触り。それをただ受け入れること。それが、信じるということ。

だから——

何度過ちを繰り返しても、何度別れを繰り返しても、きっと彼は現われるだろう。潮が干満を繰り返し、欠けていた月が満ちていくように。彼は、まるでずっと前からそこに立っていたかのような笑顔をしてそこに立っているはずだ。彼のことを忘れていてもかまわない。忘れられていても必ず現われる。それこそが可能性の本質なのだ。そして可能性を信じることからすべてが始まる。

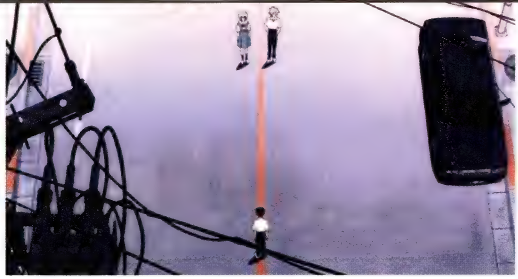
三十八万キロの彼方で目覚める彼。
再会の時は近い。

だから「もう一度」と
願おう
何度でも願おう
「ありがとう」と「さよなら」を
繰り返しながら

少年の決断が人類補完計画を終焉へと至らせる。
すべてが終わった大地に赤い波が打ち寄せる。幾度となく。

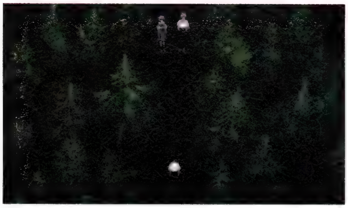
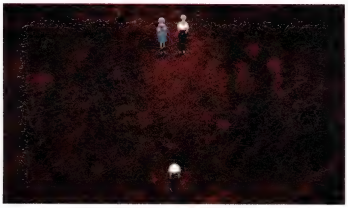
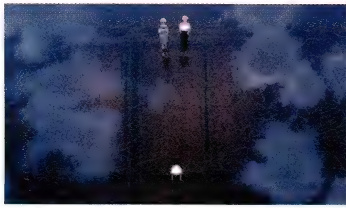
ALL ABOUT KAWORU NAGISA
“the End of the Start.”





「現実は知らないところに。
夢は現実の中に」
「人の心が、
自分自身の形をつくり出しているからね」
「ただ、人は、
自分自身の意志で動かなければ、
なにも、変わらない」



すべてが融けてしまった世界で
演じられる再会と別れ

「再び
A.T.フィールドが、
君や他人を傷つけても
いいのかい」

――構わない

「好きだ、という言葉とともにね」

――それがたとえ見せかけであっても
思い込みであっても



人類補完計画が発動する
人々の精神は溶け合い
原初の状態へと回帰していく

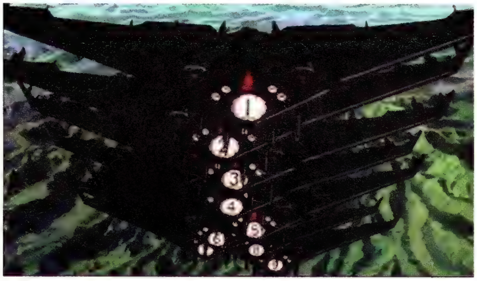
すべてが融けていく
すべてが融けていく

「もう、いいのかい？」
「ただ、逃げてるだけなんだ」
「自分が傷つく前に」
「世界を拒絶している」

でもなお融け残る最後の希望
その希望は君の姿にも似ていて



空から舞い降りる
君の分身たち
砕けた心は還らない
そして人類の補完が始まる



◀◀◀ Will





in 1997
KAWORU NAGISA
was lost beforehand in
THE END OF EVANGELION

EPISODE:25'
Love is Destructive
ONE MORE FINAL:
I need you.

今再びの邂逅を、誰が予測できたであろう。
人類の補完が始まった瞬間、カヲルの姿が眼前へと甦る。
しかし、それは本当に〈彼〉なのか——
「そこにいたの?」
問いは虚空に放たれる。予め失われた恋人に向ける囁きのように。

君の言葉より
最後の水音が
心を切り裂く



こうして最後の使徒は倒された。人類補完計画の発動へと最後の一歩が踏み出される。



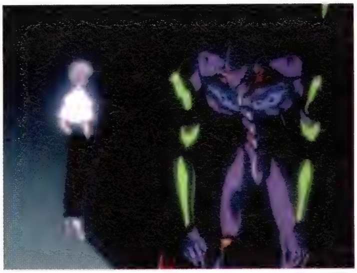


「ありがとう、君に会えてうれしかったよ」





「生と死は等価値なんだよ、
僕にとってはね。
自らの死、それが唯一の絶対的自由なんだ」









「遺言だよ」

「さあ、僕を消してくれ。そうしなければ君らが消えることになる」

「滅びの時を免れ、未来を与えられる生命体はひとつしか選ばれないんだ」

「そして君は、死すべき存在ではない」

「君たちには、未来が必要だ」

君の言葉がわからない

「人のさだめか。人の希望は悲しみに綴られているね」
「アダム、我らの母たる存在。アダムより生まれし者は、アダムに還らねばならないのか。人を滅ぼしてまで」

刃の火花が君の顔を照らす

そして君も知らなかった真実

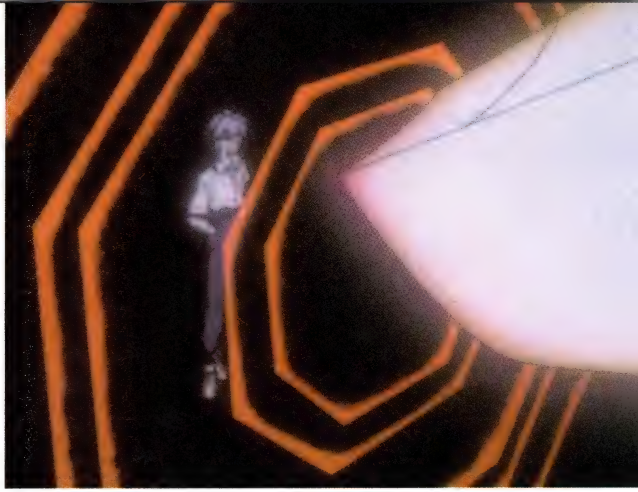
「違う。これは……！」

「リリス……そうか、そういうことか、リリン」

「ありがとう、シンジ君。弐号機は君に留めておいてもらいたかったんだ」
「そうしなければ、彼女と生きつづけたかもしれないからね」
「僕が生きつづけることが、僕の運命だからだよ。結果、人が滅びてもね」
「だが、このまま死ぬこともできる」

◀◀◀ The Last Wish





「A.T.フィールドは
誰もがもっている
心の壁だということを」





それは告白のはずだった
でもそれは聞いたことのない言葉ばかりだった

「エヴァは僕と同じ体でできている。僕もアダムより生まれし者だからね。魂さえなければ同化できるさ」

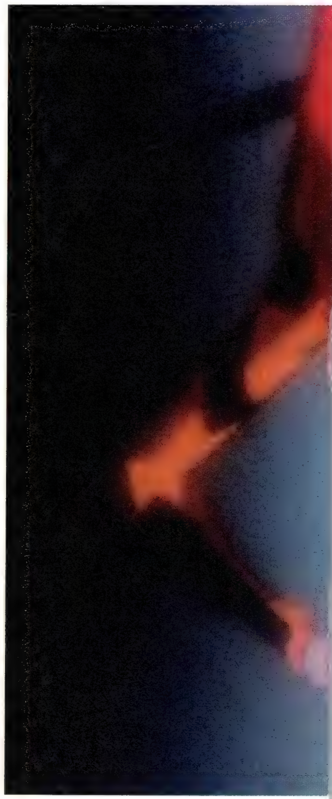
「そう。君たちリリンはそう呼んでるね」

「何人にも侵されざる聖なる領域、心の光。リリンもわかっているんだろう？」

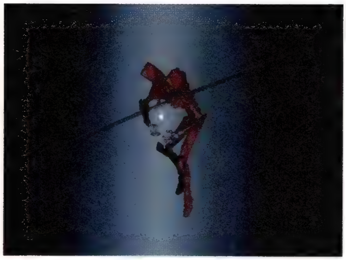
そして裏切った者と
裏切られた者の戦いが始まる

「遅いな、シンジ君」
「待っていたよ、シンジ君」
「エヴァシリーズ。アダムより生まれし、
人間にとって忌むべき存在」
「それを利用してまで生き延びようとするリリン」

何が本当で
何が嘘かわからない
信じられるものも——









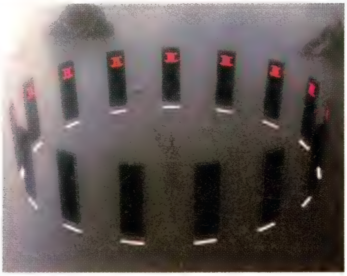
「さあ行くよ。
おいで、アダムの分身。
そしてリリンのしもべ」





◀◀◀ Destiny









「わかっていますよ。
そのために僕は今、ここにいるわけですから」

人類補完計画を進めるゼーレ。エヴァンゲリオンを擁し使徒と戦ってきた特務機関ネルフとの対立が表面化する。









朝もやに霞む
君の秘密
秘密はいつも
裏切りの予感に
満ちている

「人は無から何もつくれない。
人は何かにすがらなければ
何もできない」
「人は、神ではありませんからね」
「希望？　あれがリリンの希望ですか」
「シンジ君の父親……。彼も僕と同じだ」
そして命令の確認

◀◀◀ Raison d'être

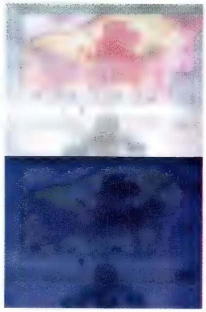


「やはり、僕が下で寝るよ」
「君は何を話したいんだい？」
「僕に聞いてほしいことがあるんだろ？」
「人間が嫌いなのかい？」

致命的な君の
致命的なひと言——

「僕は
君に会うために
生まれてきたのかも
しれない」





——消灯という名の暗転

「もう、終わりなのかい？」

また孤独に耐える夜が来る。でも……

「君と？」

ありえない。

「常に人間は心に痛みを感じている」

「心が痛がりだから、生きるのが辛いと感じる」

「ガラスのように繊細だね。……特に君の心は」

「そう。好意に値するよ」

息が詰まる。言葉が宙に浮く。

「好きってことさ」





心に刻まれる言葉
心から血が滲む
ガラスのように砕けてしまわないのは
幸せなのか、不幸なのか

「怖いのかい？　人と触れあうのが」
「他人を知らなければ裏切られることも、
互いに傷つくこともない」
「でも、寂しさを忘れることもないよ」
「人間は寂しさを永久になくすことはできない」
「人は、ひとりだからね」
「ただ、忘れることができるから、
人は生きていけるのさ」

「一次的接触を極端に避けるね、君は」







◀◀◀ Touch

「やあ、僕を待っててくれたのかい?」
「今日は?」
「帰る家、ホームがあるという事実は
幸せにつながる。よいことだよ」

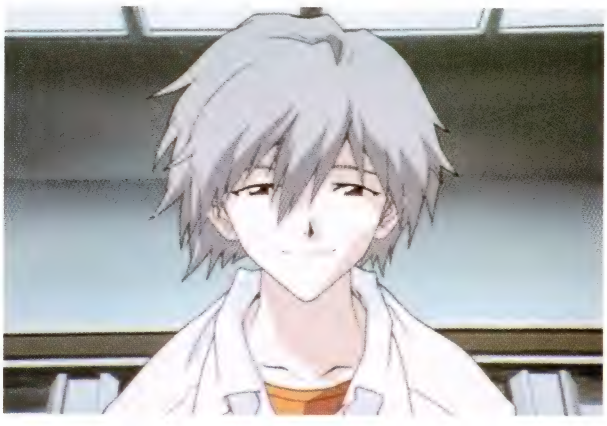
うずく古傷

「僕は、君ともっと話がしたいな。
一緒に行っていいかい?」
「駄目なのかい?」

抗いがたい優しい声
静かに深まっていく夜

「シャワーだよ。これからなんだろ?」





「君がファースト・チルドレンだね。……綾波、レイ」

「君は僕と同じだね」

「お互いに、この星で生きていく体は、リリンと同じ形へと行き着いたか」

ファースト・チルドレンである綾波レイと接触するカヲル。レイもまた、カヲルに対し、「あの人、私と同じ感じがする。どうして」と語るのだった――。

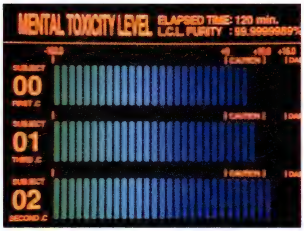




チルドレン――
エヴァンゲリオンに
選ばれた子供たち
選ばれた子供には、
選ぶ権利はないのだろうか
運命は受け入れるしか
ないのだろうか

◀◀◀ 5th Children











――あの、君は

「僕はカヲル。渚カヲル。
君と同じ仕組まれた子供、
フィフス・チルドレンさ」
「カヲルでいいよ、碇君」

聞いたことのある旋律
石像の上の君
特別な時間

西暦2015年、人類は謎の存在「使徒」とその命運をかけた戦闘を続けていた。沈む夕陽を前に、人類の戦いは静かに終局を迎えようとしていた。







——僕の名を？

「知らない者はないさ。
失礼だが、君は自分の立場をもう少しは
知ったほうがいいと思うよ」

太陽が、沈んでいく――

「歌はいいね。
歌は心を潤してくれる。
リリンの生み出した
文化の極みだよ」

「そう感じないか？
碇シンジ君」

◀◀◀ A.D.2015,TOKYO III Fatal Contact

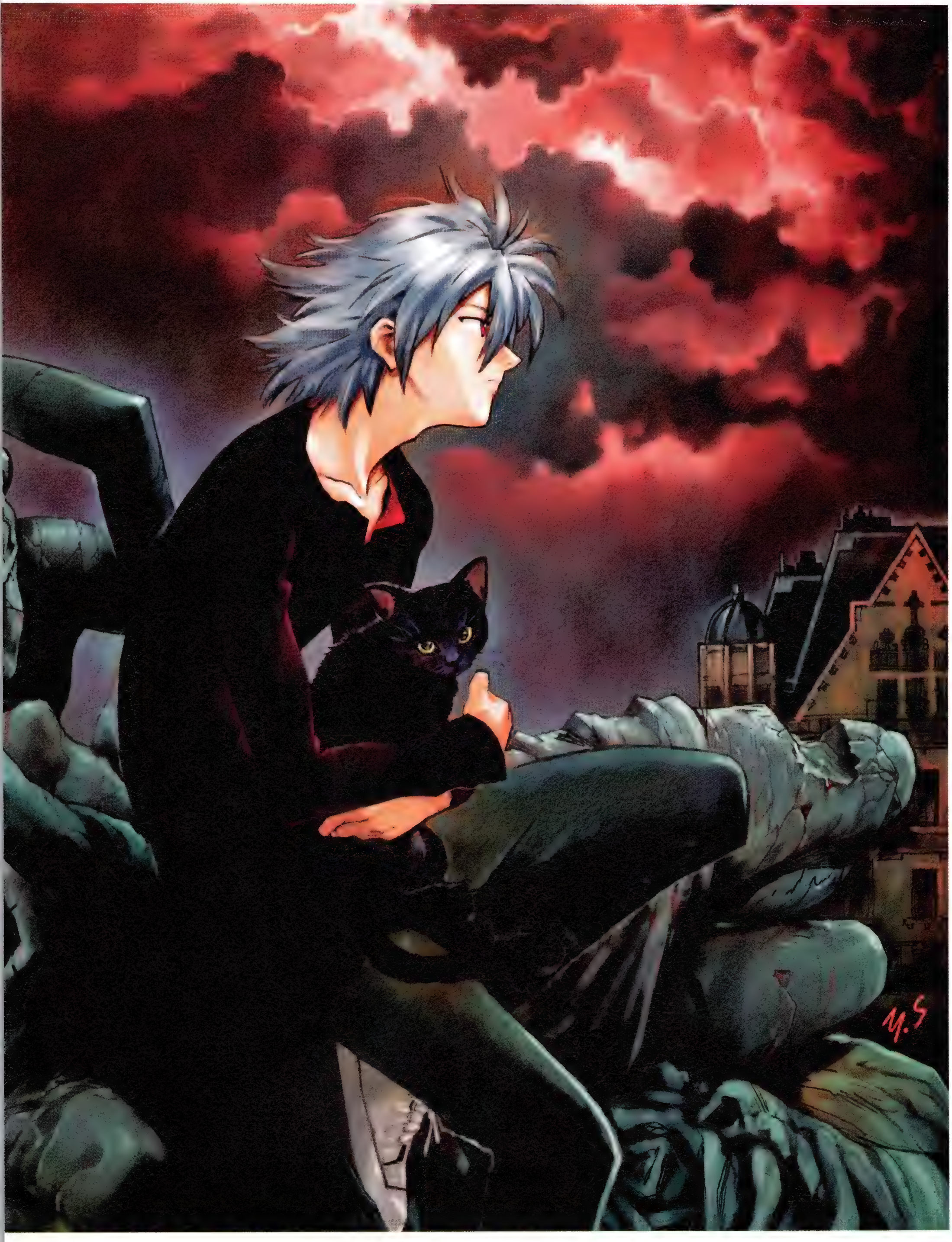


in 1995 KAWORU NAGISA appeared on the NEON GENESIS EVANGELION

EPISODE:24'
The Beginning and the End,
or "Knockin' on Heaven's Door"

渚カヲル。選ばれし「フィフス・チルドレン」として、
シンジの前に超然と、そして微笑みを湛えて顕れた少年――。
彼は自らの死によって、人間と使徒との戦いを終焉へと導いた。
そう、彼はこうも呼ばれる。「第17使徒」と。
最後のシ者が、最期に追い求め、そして手に入れたものとは――。




Y.S

は、自由と意志。渚カヲルとは、罪。渚カヲルとは、罰。渚カヲルとは、嘆き。渚カヲルとは、希望。渚カヲルとは、未来。渚カヲルとは、A・T・フィールドをもつ存在。渚カヲルとは、人間の理論を超えた存在。渚カヲルとは、欠落を埋める者。渚カヲルとは、沈黙。渚カヲルとは、光の中の影。渚カヲルとは、哲学。渚カヲルとは、孤独。渚カヲルとは、陰謀。渚カヲルとは、仕組まれた子供。渚カヲルとは、願い。渚カヲルとは、追憶。渚カヲルとは、喪失。渚カヲルとは、慰め。渚カヲルとは、破壊の中の再生。渚カヲルとは、麻痺すべき毒。渚カヲルとは、大きな謎。渚カヲルとは、ひとつの回答。渚カヲルとは、欲望。渚カヲルとは、魔性。渚カヲルとは、戦慄。渚カヲルとは、歪。渚カヲルとは、別れ。渚カヲルとは、始まりと終わり。渚カヲルとは、運命。渚カヲルとは、遺言。渚カヲルとは、輪廻。渚カヲルとは、20世紀最後の奇跡。渚カヲルとは、21世紀最初の奇跡。

渚カヲルとは？

渚カヲルとは、天国のドアを叩く者。渚カヲルとは、世界滅亡の日に生まれた少年。渚カヲルとは、過去を抹消された少年。渚カヲルとは、Sinfonie Nr.9 d-moll op.125。渚カヲルとは、瞳の赤い少年。渚カヲルとは、銀髪の少年。渚カヲルとは、秘密結社・ゼーレより派遣されたフィフス・チルドレン。渚カヲルとは、美少年。渚カヲルとは、誘惑。渚カヲルとは、シンジの友だち。渚カヲルとは、お風呂の友。渚カヲルとは、一緒に眠る相手。渚カヲルとは、シンジに会うために生まれてきた少年。渚カヲルとは、少年の姿をした使徒・タブリス。渚カヲルとは、シンジの敵。渚カヲルとは、人類の敵。渚カヲルとは、裏切り者。渚カヲルとは、最後のシ者。渚カヲルとは、みずから死を選ぶことを望んだ者。渚カヲルと



「碇シンジ君」

in 2007 KAWORU NAGISA
was revived on the EVANGELION:1.0



「会える時が
楽しみだよ」

「また3番目とはね。
変わらないな、君は」

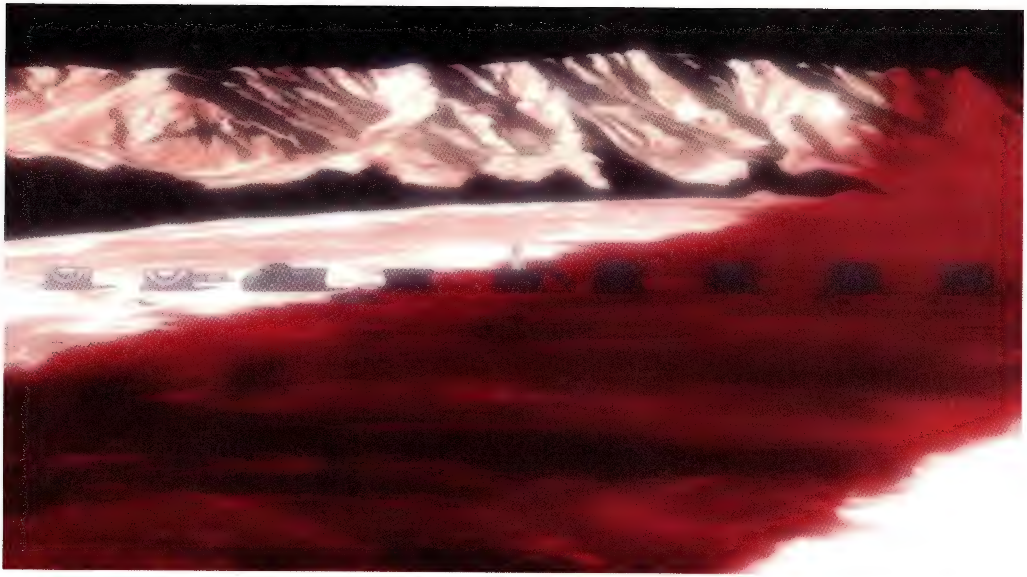



「フッ」



「わかっているよ。
あちらの少年が目覚め、
概括の段階に入ったんだろ」

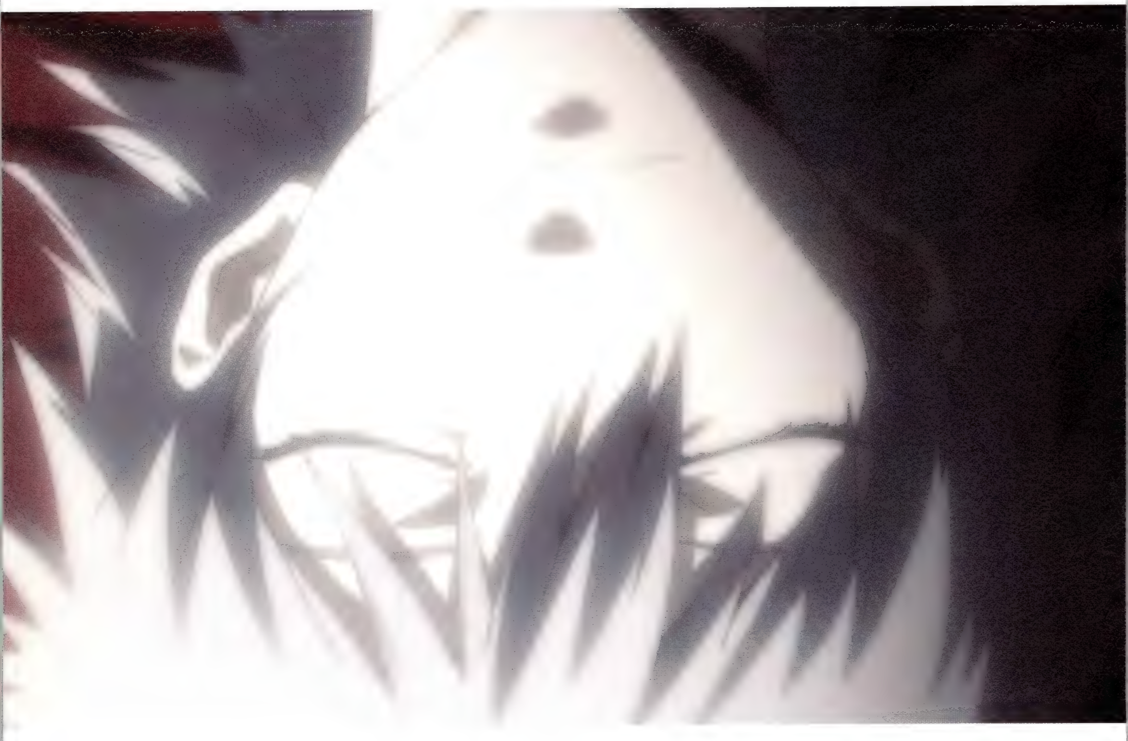
「そうだ。
死海文書外典は
掟の書へと行を移した。
契約の時は近い」







目を醒ました——。



姿を現わし

それは青天の霹靂だった。

1996年3月13日、TVシリーズ「新世紀エヴァンゲリオン」第弐拾四話「最後のシ者」本編開始から3分26秒。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの交響曲第9番ニ短調作品125「歓喜の歌」をハミングで奏でながら、少年は現われた。夕陽に照らされた、かつての第3新東京市跡地。そこで彼はたたずむ。彼の言葉は、人々の閉ざしていた心の壁をほどく。彼の行動は、人々のかたくなな意志を迷宮に誘い込む。そして、長い沈黙。1996年3月13日、本編開始から15分54秒。人造人間エヴァンゲリオン初号機の手の中で、彼は命を絶たれた。**2003年、**彼は再び現われる。貞本義行による漫画版「新世紀エヴァンゲリオン」のStage.57「フィフス・チルドレン」。彼はピアノをつまびきながら、姿を見せる。人間と違う論理、常識に囚われない感覚。彼は少年に過酷な現実を突きつけ、新しい世界の扉を開く。2006年、Stage.74「手のひらの記憶」で、彼の物語はまたしても終わりを迎える。**2007年、**そして世界はまたも繰り返す。「エヴァンゲリオン新劇場版：序」のラストシーンに、

渚カヲルは

CONTENTS

僕は君に
会うために
生まれてきたのかも
しれない。



ALL ABOUT

渚カヲル

A CHILD OF THE EVANGELION



ALL ABOUT

A CHILD OF THE EVANGELION

渚カヲル